

Contents

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| I. 学会長就任のご挨拶 | VII. 理事会報告 |
| II. 第 37 回大会報告 | VIII. 渉外国際担当理事報告 |
| III. 第 38 回大会告知 | IX. 編集委員会報告 |
| IV. 総会報告 | X. 研究活動報告と案内 |
| V. 第 5 回学会奨励賞報告 | XI. 新入会員および退会者
の承認 |
| VI. 今期理事、監事、評議員
の紹介 | XII. 会費の値上げについて |

発行: 日本保健医療社会学会
編集: 伊藤美樹子
学会事務局・印刷: (株)国際文献印刷社
東京都新宿区高田馬場 4-4-19
jshms-office@bunken.co.jp

I. 学会長就任のご挨拶

野口裕二 (東京学芸大学)

このたび、朝倉隆司先生の後を受けて、本学会会長に就任いたしました。3・11の大震災以来、社会のさまざまな前提が揺らぐ中、落ち着かない日々が続いていますが、本学会も大きな変わり目を迎えています。

ひとつは、学会事務局が国際文献印刷社に委託され、長年の懸案だった事務局体制の整備がようやく緒についたことです。これまで会員数の増加にも関わらず、かつての小さな学会の時と同様の体制で、一部の担当理事に過大な負担を強いてきましたが、ようやく身の丈にあった体制を作ることができました。前会長の朝倉先生をはじめ前理事の皆様のご努力に心から感謝したいと思います。

もうひとつは、先日の総会で決定された学会財政の再建とそれに伴う学会費の値上げの問題です。ここ数年の学会活動の活発化に伴い、さまざまな経費が増大して財政が悪化したため、会費の値上げに踏み切らざるをえない状況となりました。これに伴い、本年は緊縮財政で乗り切る必要があり、理事会等の各種会議の回数を減らして旅費を節約するなど、さまざまな経費節減の努力をする所存です。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

さらにもうひとつ、これも長年の懸案である会員名簿の整備も重要課題のひとつです。会費の納入率を高め、また、ニューズレターや定例研究会の連絡などを郵送からメールに切り替えて経費節減をはかるうえでも、正確な会員名簿の整備は不可欠です。これについても、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

以上、学会運営体制に関することばかり述べましたが、学会にとって最も重要なのはいうまでもなく研究活動の推進です。3年後のISA日本大会を控え、国際的な研究活動の充実も忘れてはなりません。幸い、ここ数年の本学会大会は、開催校の献身的なご努力もあって、たいへん充実した内容となっています。この勢いを持続し、さらに拡大していくことが今期理事会の最大の使命であると考えています。皆様のより一層のご支援とご協力をお願いいたします。

Ⅱ. 第 37 回大会報告

大会長 池田光穂

(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)

みなさん御存知のように本年5月21日と22日の両日に大阪大学の豊中キャンパス文系総合棟において開催されました。期間中多数の御来場、御発表いただき誠にありがとうございました。大会のテーマは「拡張するヘルスコミュニケーション」でした。折しも3月11日午後東北地方太平洋沖地震とそれに引き続いて起こった大津波による大災害と、太平洋岸での福島第一原子力発電所での爆発事故と未曾有の東日本の放射能汚染問題が大会期間中も、そして復興の試みは現在も、そして今後もまた続いていくことでしょう。会員ならびに研究を通じた関係者の中にも御不幸にも遭難された方もいらっしゃるかもしれません。お悔やみとお見舞いを申し上げます。このような大変な時期の震災後に開催された本大会が、それらの不幸を乗り越える何らかの再生への歩みの一助になればと祈念しております。

私は学会でのホスト役の大会長でしたが、不慣れで到らないところが多々あったかと思いますが、どうか御海容いただくようお願い申し上げます。しかしながら、平田オリザさんの教育講演や大会の個別発表もセクションも盛況で、また大会初日の懇親会にも予想を上回る参加をいただき、総会においては朝倉会長から野口会長へのバトンタッチも滞りなくおこなわれました。裏方で数々の障害をクリアされて盛会へと導かれた大会事務局長の伊藤美樹子さんや縁の下の力持ちとして尽力された院生・学生スタッフを含めて大阪大学関係者として、多数の参加を得られたことを本学会のすべての会員の皆様に対して心より御礼申し上げます。

来年は神戸市立看護大学での開催となり、引き続き関西での開催となります。現在、新しく引き継いだ理事会では、学会発表の募集や手続きの方法について、高度な研究水準を維持しつつ、現行よりもさらに快適でまた教育的配慮にも行き届いた更なる改善について模索中です。これまで以上に学会大会がますますの発展してゆくことを大会スタッフ一同期待しつつ、感謝の言葉としたいと思います。

第 37 回大会開催概要

参加者	208 人 (うち会員 158 人)
一般演題教	49 演題
ラウンドテーブルディスカッション	6 セッション

Ⅲ. 第 38 回大会告知

テーマ：チーム医療の時代の従事者養成を問う (仮)

開催日：平成 24 年 5 月 19 日 (土)、20 日 (日)

大会長：林 千冬 (神戸市看護大学)

大会事務局長：益^{えき} 加代子 (神戸市看護大学基礎看護学講座)

〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

IV. 総会報告

2011年5月21日 於. 大阪大学

- 1) 開会の辞・学会長挨拶：朝倉学会長より挨拶。
- 2) 議長選出：杉田聡会員（大分大学）が議長に選出される。
- 3) 第1号議案：2011年度事業報告
 - (1) 第37回大会（大阪大学2011年5月）開催、第38回大会（神戸市看護大学2012年5月）、第39回大会の準備。
 - (2) 学会事務局および編集委員会事務局の外部委託化を検討
 - (3) 学会財政の安定確立に向け、年会費の値上げなど具体的な方策を検討。
 - (4) 定例研究会は、関東3回、関西2回、看護研究部会4回の開催
 - (5) 保健医療社会学論集、第21巻特別号、第21巻1号、第21巻2号を刊行。編集委員会体制の整備。
 - (6) 2014年横浜で開催予定のISAにむけた活動を検討。
 - (7) ニュースレターを4号分発行。
 - (8) ホームページのリニューアルと英文ホームページの開設を行った。
- 4) 第2号議案：2010年度（平成22年度）決算報告・監査報告
 的場監事より「監査の結果、適正なものと認める」ただし、会費収入の落ち込みについて、理事会としての相応の努力をしていただきたいと意見が述べられた（監事：米林喜男、的場智子）。

日本保健医療社会学会2010年度決算書

自2010年4月1日 至2011年3月31日

収入の部				支出の部			
	予算額	決算額	差異		予算額	決算額	差異
前期繰越金	1,839,749	1,839,749	0	印刷製本費	1,517,000	1,760,381	△ 243,381
会費収入	4,140,000	3,555,100	△ 584,900	郵送費	490,000	629,660	△ 139,660
学会誌刊行物売上	150,000	164,040	14,040	交通費	700,000	625,980	74,020
受取利息	700	645	△ 55	事務局人件費	240,000	240,000	0
その他	5,000	45,033	40,033	学会業務委託費	600,000	702,750	△ 102,750
				学会誌編集費	200,000	200,000	0
				消耗品費	40,000	51,285	△ 11,285
				会議費	65,000	58,245	6,755
				大会・研究会・部会活動補助費	380,000	415,033	△ 35,033
				社会学系コンソーシアム年会費	20,000	20,000	0
				その他	43,700	97,626	△ 53,926
				予備費	1,839,749	803,607	1,036,142
合計	6,135,449	5,604,567	△ 530,882	合計	6,135,449	5,604,567	530,882

5) 第3号議案 2011年度（平成23年度）事業計画

- (1) 第38回大会の開催。
- (2) 学会事務局および編集委員会事務局の外部委託化（第4号議案にて審議）。
- (3) 2011年度予算の支出削減と増収策を検討。
- (4) 保健医療社会学論集の第22巻特別号、1号、2号を発行する。編集委員会体制の強化をはかる。
- (5) 緊縮財政の影響により、今年度のニュースレター発行は3回とする。

(6) 2014 年国際社会学会 (ISA) 日本大会 (横浜) に学会として積極的に取り組むこと、東アジアの保健医療社会学関係者との交流を学会として促進する。

(7) 会員情報の収集と整備を行う。

6) 第4号議案：学会事務局業務と編集委員会事務局業務の業務委託について

学会事務局業務と編集委員会事務局業務について、(株)国際文献印刷社に外部委託することを提案し、承認される。それに伴い、第5号議案として学会規約改正が提案され、承認される。

7) 第6号議案：2011年度(平成23年度)予算計画

支出を削減した予算書を提案し、承認された。

日本保健医療社会学会2011年度予算書

自2011年4月1日 至2012年3月31日

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	803,607	印刷製本費	1,290,265
会費収入 (6,000円×560人分、新会員7,000円×60人)	3,780,000	郵送費	254,800
学会誌刊行物売上	150,000	交通費	525,000
受取利息	700	学会業務委託費	
その他(許諾抄録使用料)	5,000	発送関連業務	121,474
		事務局業務	1,116,145
		編集関連業務	443,625
		HP関連メンテナンス	93,000
		その他(資料保管代)	58,485
		消耗品費	79,187
		会議費	20,000
		大会・研究会・部会活動補助費	320,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他 (振り込み手数料・学会奨励賞等)	21,515
		予備費	375,811
合計	4,739,307	合計	4,739,307

8) 第7号議案：年会費の値上げについて

2010 年度より検討していた、学会財政の安定確立に向けた年会費の値上げについて、2012 年度より 2,000 円引き上げ、年会費 8,000 円とすることを提案し、承認された。これに伴い、第8号議案として学会規約改正が提案され、承認された。

9) 第9号議案：監事の再任制限について

理事同様、監事についても連続しての選任は2期までとする規約変更を提案し、承認された。

10) 第10号議案：新理事・監事の選出結果報告と次期会長の推挙

野口裕二会員(東京学芸大学)が推挙され、次期学会長として承認された。また、次期理事、次期評議員が紹介された。

11) 開会の辞・学会長挨拶

次期大会長・林千冬会員(神戸市看護大学)より挨拶。杉田議長を解任。朝倉会長より閉会の挨拶。

(前総務担当理事：山本武志)

V. 第5回日本保健医療社会学会奨励賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞の2010年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、保健医療社会学論集第21巻2号に掲載されました桑畑洋一郎氏の「ハンセン病療養所退所者の医療利用実践——沖縄の療養所退所者を事例として——」に贈られました。2010年度奨励賞は、この年度に発行された本学会機関紙『保健医療社会学論集』（＝第21巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）が対象で、「若手研究者」とは、著者（共著の場合は筆頭著者と読みかえる）の年齢が35歳未満であるか、または研究歴が10年未満とみなせるものを指します。選考対象論文は、2本（原著1本、研究ノート1本）でした。

2011年度は、『保健医療社会学論集』第22巻第1号・第2号に掲載された、若手研究者による論文が選考対象となります。この奨励賞は、若手研究者の方へのエールや、研究のさらなる発展への期待を込めて贈られます。若手会員各位におかれましては、日ごろの研究の成果を投稿されるよう期待します。

(2010年度学会奨励賞選考委員会)



授賞式の様子：朝倉会長から桑原氏に奨励賞が授与されました。

VI. 今期（平成23年度～平成24年度）理事、監事、評議員の紹介

理事

学会長：野口裕二（東京学芸大学教育学部）

総務：木下康仁（立教大学社会学部）

学会誌編集（委員長）：蘭由岐子（神戸市看護大学）

学会誌編集（副委員長）：山崎喜比古（パブリックヘルスリサーチセンター附属ストレス科学研究所）

研究活動（関東）：朝倉京子（東北大学大学院医学系研究科）、小澤温（筑波大学大学院人間総合科学研究科）、（関西）：池田光穂（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）、佐藤哲彦（関西学院大学社会学部）

会報広報：伊藤美樹子（大阪大学大学院医学系研究科）

渉外国際：金子雅彦（防衛医科大学校）

監事（*あいうえお順）

清水準一（首都大学東京健康福祉学部）、米林喜男（新潟医療福祉大学社会福祉学部）

評議員（*あいうえお順）

朝倉隆司（東京学芸大学教育学部）、姉崎正平（近畿医療福祉大学）、天田城介（立命館大学大学院先端総合学術研究科）、石川ひろの（東京大学大学院医学系研究科）、櫻田美雄（徳島大学総合科学部）、片平洸彦（新潟医療福祉大学大学院医療福祉学科）、河口てる子（日本赤十字北海道看護大学）、栗岡幹英（奈良女子大学文学部）、黒田浩一郎（龍谷大学社会学部）、進藤雄三（大阪市立大学大学院文学研究科）、杉田聡（大分大学医学部）、杉山克己（青森県立保健大学社会福

祉学科)、成元 哲(中京大学)、高山智子(国立がんセンターがん対策情報センター)、武川正吾(東京大学大学院人文社会系研究科)、田中マキ子(山口県立大学看護栄養学部)、種田博之(産業医科大学)、中川薫(首都大学東京人文科学研究科)、中田知生(北星学園大学社会福祉学部)、中村美鈴(自治医科大学看護学部)、中山和弘(聖路加看護大学看護学部)、二木立(日本福祉大学社会福祉学部)、西田真寿美(岡山大学医学部)、早坂裕子(新潟青陵大学看護福祉心理学部)、林千冬(神戸市看護大学)、平野(小原)裕子(長崎大学医学部)、藤澤由和(静岡県立大学経営情報学部)、星旦二(首都大学東京大学院都市科学研究科)、細田満和子(ハーバード公衆衛生大学院)、松田亮三(立命館大学産業社会学部)、的場智子(東洋大学ライフデザイン学部)、三井さよ(法政大学社会学部)、宮本真巳(東京医科歯科大学大学院)、武藤香織(東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター)、矢原隆行(広島国際大学医療福祉学部)、山田富秋(松山大学人文学部)、山本武志(札幌医科大学医療人育成センター)、吉田澄恵(東京女子医科大学看護学部)

Ⅶ. 理事会報告

《2011 年度第 1 回理事会》

日時：平成 23 年 7 月 9 日 13 時～16 時

会場：立教大学 13 号館 1 階、会議室

出席者：野口会長、朝倉理事、蘭理事、伊藤理事、小澤理事、池田理事、金子理事、木下理事、佐藤理事、山崎理事、事務局

＜議題＞

1) 理事会の開催方法と回数

野口会長より、財政運営の改善策として、学会からの旅費負担を減らすため、理事会開催回数を従来の年 6 回から年 4 回に減らし、うち 2 回は大会併催にすることが提案され、承認された。

2) 委託契約書の確認

事務局より、国際文献印刷社との業務委託契約書に関する説明が行われ、契約者の住所、役職の一部修正の上、承認された。なお、事務局は、修正契約書を学会長に確認した上で、2 部契約書を作成し、取り交わし準備に入ることとした。

3) 第 37 回大会会計報告

伊藤理事より、第 37 回大会会計報告が行われた。

参加費や出店料等収入合計 1,315,000 円に対し、支出合計は 1,315,600 円と、600 円のわずかな赤字であることが報告された。第 37 回大会においては、主催校の会議室の料金改定により、会場費の負担が予定より大きかったことが合わせて報告された。

4) 学会ホームページの更新手順と運営状況

木下総務理事より、現在のホームページ更新運用状況の説明が行われた。

広報担当理事や依頼側の相互の確認と更新がスムーズに行えるよう、依頼時及び報告時には CC に広報担当理事のアドレスを追加することとした。なお、更新の時は、すぐに掲載するのではなく、サンプルページを依頼者及び広報担当理事に確認した上で掲載することにした。

5) ニュースレター 84 号の発行

野口会長より、ニュースレター第 84 号は 8 月中旬～下旬発行予定であり、新会長の挨拶が含まれることが報告された。会費値上げに関する案内は、前会長の朝倉先生に総会報告記事の執筆を依頼する際、総会報告の一つとして書いていただく事にした。なお、第 84 号原

稿の締め切りは8月10日、提出先は伊藤理事宛にする。事務局は伊藤理事より支給された完成原稿を印刷し、8月発行予定の第22巻1号に同封して会員に配布を行う。

6) 編集委員会報告

蘭編集委員長より論集の編集状況及び編集委員会会議の報告が行われた。

次号、第22巻1号が8月中に刊行予定であることが報告された。

編集委員会での検討事項として、各種規程類の改定を行ったことが報告された。

関連して規程類の論集での掲載について意見があり、投稿者に必要な規程のみとし、そのほか細則類や編集委員会運営規程等についてはホームページのみで案内を行うことを今後検討することになった。

また、前期編集委員会では、若手研究者支援のための企画があり、研究活動の一環としてきたことについて意見があり、今後の編集委員会の企画について質問があった。22巻2号から24巻1号までは、現編集委員会が責任発行となる。企画は原則として編集委員会主導で行なうが取り扱ってほしい企画があればだしてもらい、編集委員会で検討することにした。

7) 第38回大会への理事会の支援

木下理事より、第38回大会の準備状況について報告が行われ、実質的な準備態勢に入っていないが、研究活動部門より1名窓口を置くことについて提案が行われた。窓口は、座長やプログラム編成、ラウンドテーブル企画等の支援、理事会での報告等を行う。第38回大会においては、関西の佐藤理事、池田理事両名が連携を取りながら支援を行うことで承認された。

8) 学会奨励賞選考委員会の立ち上げ

選考委員会の構成が承認され、編集委員会は、1月末までに候補対象者をまとめ選考委員会に報告することにした。なお、候補対象者選定に当たり、候補資格の確認は選考委員会の依頼により事務局が行うことになった。

9) 定例研究会の報告、企画(関東)

朝倉理事より、関東での定例研究会は、次期大会のテーマに合わせて企画をし、9月24日、東洋大学の原山哲先生を迎え、「ケア組織の国際比較ーパリと東京」をテーマで行うことが報告された。

また、看護・ケア研究部会との合同研究会企画について報告が行われ、次回看護部会は9月19日で予定されてはいるが、定例研究会開催日と数日しか差がなく準備に間に合わないため、次年度に向けて企画することが報告された。

10) 定例研究会の報告、企画(関西)

佐藤理事より、日本社会学会大会が9月にあることから、9月開催では講師確保が難しい旨の報告があり、11月～12月に向けて開催することにした。

開催案内はニューズレターに掲載しているが、8月発行予定のニューズレターに、日程だけで先に掲載することにした。なお、年間開催数として、関東は3回、関西は2回としているが、各部門の実情に合わせ、無理のない範囲で開催回数を決めていくことにした。

11) 渉外国際活動

金子理事より渉外国際活動に関する報告が行われた。

社会学系コンソーシアムの評議員として木下理事と金子理事を登録することが承認された。また、保健医療社会学会に関連する国際会議情報をホームページとニューズレターに掲載して案内することにし、会員データの整備が整えばメーリングリストによる配信も検討することが報告された。

12) 論集在庫の扱い

木下理事より、学会誌の在庫状況及び廃棄案について報告が行われた。現状のままでは保管料に年間 13 万円程度がかかるため、近年の販売実績を踏まえ経費削減のため、今後は 20 巻分までは各号 30 冊、直近分は 100 冊を残し廃棄することが提案され、承認された。また、保管分のうち 10 冊は永久保存版として残すことが確認された。なお、今後においては、学会誌のデジタル化も視野にいれつつ、学会誌保存の仕方について継続検討を行うことにした。

13) 学会の新封筒のデザイン

事務局より色の見本と版下の提示が行われ、封筒の色はベージュに決定した。

14) 入退会者の承認

木下理事より、2011 年 5 月 16 日～7 月 5 日までの入会承認予定者として、入金が完了している 18 名の報告があり、全員承認された。

15) 会員情報の整備

事務局より現在のデータ管理においての問題点と改善点について報告が行われた。

問題点としては、会員番号やデータの不備、各名簿情報の不一致、変更歴不明等、データが最新であるかどうか、正しいかどうか、の判断ができないことが報告された。

今後の改善策として、全会員に固定会員番号を付与し一つのシステムで会員管理を行うことと、定期的に会員に情報提供依頼を行うことが提案された。

なお、財政が厳しいことから全会員対象の名簿調査は行わず、当面はニューズレターに登録用紙を同封し会員からの自主提出を促すことにした。 以上

(総務担当理事：木下康仁)

VIII. 渉外国際担当理事報告

- 1) 今期の国際交流委員会が発足しました。委員は金子雅彦（委員長、防衛医科大学校）、浦野慶子（帝京大学）、黒田浩一郎（龍谷大学）、平野裕子（長崎大学）、細田満和子（ハーバード公衆衛生大学院）、松繁卓哉（国立保健医療科学院）です。また、アドバイザーは姉崎正平（近畿医療福祉大学）、米林喜男（新潟医療福祉大学）です。
- 2) 保健医療社会学関連の国際会議として以下の大会があります。また、学会ホームページ（関連団体等の情報）にも情報を掲載することにいたしました。国際会議への参加や発表を検討される際のご参考になさってください。学会ホームページに掲載してほしい国際会議の情報がありましたら、金子雅彦宛までご連絡ください。
 1. The East Asian Social Policy (EASP) research network 主催の会議（2011 年 8 月 30～31 日、香港、テーマ「東アジアなどにおける社会政策」）
<http://www.welfareasia.org/>
 2. The East Asia Social Security Forum (EASSF) 主催の会議（2011 年 9 月 3～4 日、釜山、テーマ「社会的リスクの展開と積極的社会保障戦略」）
<http://www.icss2011.org/>
 3. Elsevier 社主催（Social Science & Medicine 誌提携）の会議（2011 年 12 月 9～12 日、香港、テーマ「アジアにおける Health System 改革」）
<http://www.healthreformasia.com/index.html>

4. ISA の第 2 回社会学フォーラム (2012 年 8 月 1~4 日、ブエノスアイレス、テーマ「社会正義と民主化」) および RC15 のセッション

<http://www.isa-sociology.org/buenos-aires-2012/rc/rc.php?n=RC15>

(渉外国際担当理事: 金子雅彦)

IX. 編集委員会報告

- 1) 新編集委員会が発足しました。委員は蘭由岐子 (編集委員長、神戸市看護大学)、山崎喜比古 (副編集委員長、財団法人パブリックヘルスリサーチセンター附属ストレス科学研究所)、樫田美雄 (徳島大学)、中村美鈴 (自治医科大学)、村岡潔 (佛教大学) の 5 名です。大会期間中の 5 月 21 日に前期編集委員会と合同の第 1 回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を開催し、これまでの公正で適切な査読プロセスを維持実行し、より充実した『論集』の刊行をめざすことを確認いたしました。また、機関レポジトリやウェブ掲載などについてのルール化、査読委員制度の導入などの課題についても引き続き検討していきます。次回は、10 月 12 日に第 2 回編集委員会を開催し、9 月末締切投稿論文の査読者の決定、第 22 巻 2 号の編集、第 23 巻 1 号の企画を検討する予定です。
- 2) 『保健医療社会学論集』第 22 巻 1 号が前期編集委員会の責任編集のもと刊行されました。研究活動委員会との連携企画を特集「研究することを問返す」とし、定例研究会で報告して下さった方々から 10 本の寄稿をいただき、原著論文 4 本、研究ノート 2 本、書評 2 本ほかを合わせ、たいへん充実した内容となりました。ご寄稿、ご投稿いただいた皆様、また、厳正かつ示唆に富む査読を行って下さった査読者の皆様に心から御礼申し上げます。
- 3) 編集委員会に関わる諸規程の改訂を行いました。要点は、①すでに運用している電子メールをベースにした投稿・査読プロセスに適合させる②執筆要項の改訂③再々査読における第 3 査読者の件、ネイティブ・チェックおよび著作権譲渡承諾書等の書類送付の時期等の明記、文言の校正です。学会ホームページですでに公開し、第 22 巻 1 号の巻末にも掲載されております。とりわけ、9 月締切の論文を投稿予定の方は執筆要項および提出原稿の部数などが変更されておりますのでご精読くださいますようお願いいたします。
- 4) 編集委員会の事務局業務が (株) 国際文献印刷社に委託されました。投稿論文の受付、査読依頼・結果報告受け取り、寄稿依頼等々、編集委員会のすべての事務的業務を今後は日本保健医療社会学会編集事務担当者が行います。前編集委員長の天田先生には長年にわたる膨大な事務的作業を正確かつ精力的に行っていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

では、論文等の送付、お問い合わせは下記までお願いいたします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株) 国際文献印刷社内

日本保健医療社会学会編集事務担当

TEL:03-5389-6492 FAX:03-3364-0041

E-mail jshms-edit@bunken.co.jp

(編集担当理事: 蘭由岐子)

X. 研究活動報告と案内

<212 回定例研究会（関東）>

テーマ：「ケア組織の国際比較ーパリと東京」（仮）

日時：2011年9月24日（土）14時～16時

場所：筑波大学東京キャンパス 208 教室（茗荷谷駅 徒歩5分）

講師：原山 哲（東洋大学・社会学部）、司会：小澤 温（筑波大学）

概要：報告者は、長年、日本とフランスの看護専門職の比較を社会学の立場から取り組んできた。今回の研究会では、昨年12月に、報告者らが出版した書籍 ” Hospitals and the Nursing Profession: Lessons from Franco-Japanese Comparisons ” をもとに、日本とフランスのケア組織の比較に関して報告する。 連絡先：小澤 温

（研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温）

<213 回定例研究会（関西）>

テーマ：調査の経験についての語りを伝える ー質的調査の過去・現在・未来ー

日時：2011年10月1日（土）13時～17時

場所：大阪大学豊中キャンパス（スチューデントコモンズ [大学教育実践センター・教育研究棟1]）

アクセス：CSCDの建物の2階にあります(Google-Map)：<http://bit.ly/banPOM>

プログラム：司会（池田光穂）

1. 西村ユミ（大阪大学）：「急性期病棟におけるフィールドワークの経験から」
2. 蘭由岐子（神戸市看護大学）：「ハンセン病問題と『薬害 HIV』問題に関する調査の経験から」
3. 池田光穂（大阪大学）：「海外での文化人類学のフィールドワーク調査の経験から」

今回の研究会では、臨床あるいはフィールドの現場を問わず保健医療の質的研究に携わる「若手」一年齢は問わず新規参入したすべての世代の一学徒を対象として、一定の研究に従事している質的研究の専門家が、調査や研究の分析にまつわるエピソードの紹介を通して、（1）質的研究の面白さや困難さ、（2）倫理にまつわる話、そして、（3）さまざまな困難克服法についてご紹介します。この集まりでは、調査方法のコツやノウハウを「若手」学徒の皆さんに伝授することに主目的におかれているわけではありません。むしろ、〈調査の経験についての語り〉は、いかにして、そしてどのようなかたちで他の研究者に共有されるのか、また社会のなかで人々にあるいは世代を超えてどのように伝わっていくのかについて、参加者と（個々の語りや経験を巻き込みつつ）語り合いたいと考えています。

この研究会は、日本保健医療社会学会の関西支部例会と臨床実践の現象学研究会（本部：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）の第28回研究会の合同の共同主催のかたちで行います。一般公開しますが、配布資料作成のため開催日の10日前までに両研究会統一仮事務局まで御連絡ください。

（研究活動担当理事・関西：池田光穂、佐藤哲彦）

<看護・ケア研究部会 ←看護研究部会から改称>

テーマ：「資格と専門性を問いなおす——医療・福祉の再編に向けて」（公開企画、福祉社会学会共催）

日時：9月19日（月）13:30～16:30

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室D・E

司会：三井さよ（法政大学）

報告者：朝倉京子（東北大学）：「看護師の自律的な判断の様相——医師との関係から」

清水準一（首都大学東京）：「在宅ケアチームの質評価——同じようではないこと」

石田健太郎（明星大学）：「求められる専門性の変容——介護職のキャリア形成の視点から」

山下幸子（淑徳大学）：「資格の意味についての検討——障害者の自立生活を通して」

概要：医療と福祉はそのどちらも患者＝利用者の生活に深くかかわるものでありながら、資格の体系は異なるものとして編成されてきており、医療職者も福祉職者も、実はお互いをよく知らないことも多い。この企画では、医療・福祉系の資格体系が大きく見直されつつある今日において、医療系／福祉系という枠組みを超えて、資格や専門性について改めて問い直すことを目的としている。

部会名称改正後、最初の定例会が7月23日に東京女子医大河田町キャンパスで開催され、吉田澄恵さん（東京女子医大）が「フィールドワーク再考：看護師が看護師の臨床を記述するということ」と題した発表を行いました。発表者が救急外来で実施した参加観察において、研究手法としてのフィールドワークに関する知見を用いた記述例を示し、看護師が看護師の臨床を観察する際のイーミックとエティックとは何かなどについて、社会学研究の文脈での観察との差異を意識しながら意見交換しました。発表者自身の看護研究に関する示唆があったことに加え、部会として、「看護・ケア」に関心をもつ社会学者と看護学者の協働が生み出す研究成果は何かという問いに誘われる豊かな討議の場となりました。部会問合せ先：事務局 本多康生

（看護・ケア研究部会長：宇城 令）

XI. 新入会員および退会者の承認

※個人情報のため、省略。

XII. 会費の値上げについて

総会報告にありますように、2012年度より年会費が6,000円から **8,000円**に改定されます。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（総務担当理事：木下康仁）

震災問題への取り組みに関する情報提供のお願い

日本保健医療社会学会理事会では、2011年3月11日に発生しました東日本大震災に関する研究会を企画することを検討しています。その準備のため、本震災に関わる保健医療社会学関係者の研究等の活動動向について情報収集を行うこととしました。震災関係の活動や研究を行っている会員におかれましては、情報を渉外国際担当理事・金子雅彦宛にお寄せ下さい。

2011年度年会費が未納の方は、早めの納入をお願いします。

（年会費：6,000円）

振込先：郵便振替 00140-6-40477 日本保健医療社会学会

編集後記：精神病院をなくしたイタリアからの実話にもとづく映画「人生ここにあり」(Giulio Manfredonia 監督)が好評でロングラン決定とか。邦画では、「おくりびと」(滝田洋二郎監督)や今秋公開の「アントキノイノチ」(瀬々敬久監督)など死者を取り上げたものが海外の映画賞をとっています。生きることの描かれ方について文化的教養を深めに映画館へ行きたいと思っています。(み)



Contents

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| I. 第 38 回日本保健医療社会学会大会のご挨拶 | IV. 編集委員会報告 |
| II. 自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション(RTD) 公募について | V. 研究活動報告と案内 |
| III. 理事会報告 | VI. 渉外国際担当理事報告 |
| | VII. 新入会員および退会者の承認 |

発行: 日本保健医療社会学会
編集: 伊藤美樹子
学会事務局・印刷: (株)国際文献印刷社
東京都新宿区高田馬場 4-4-19,
jshms-office@bunken.co.jp

I. 第 38 回日本保健医療社会学会大会のご挨拶

大会長: 林 千冬 (神戸市看護大学)

来たる 2012 年 5 月 19 日 (土)、20 日 (日) に、神戸の地で第 38 回大会を開催させていただけることを心よりうれしく思います。今回は、メインテーマを「チーム医療の時代の従事者教育を問う」といたしました。

今年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、多くの人々の命と生活を奪い、同時に、不況からの脱出を図るわが国経済に深刻な打撃を与えました。少子高齢多死社会を迎え、多くの課題を抱える保健医療福祉にとっても、それは大きな打撃となりました。この難局を乗り越えるために、今こそ市民と保健医療福祉従事者の、そして従事者間のチームワークが求められています。

チーム医療とは、単にいろいろな職種が患者の周りに寄せ集まっていることではありませんし、あるメンバーが他のメンバーを一方向的に補完するものでもありません。チーム医療の目的は、市民、患者・利用者、そして保健医療福祉に関連するさまざまな職業をもつメンバーたちが、連携・協働そして共同し協調することを通して、個々の力の総和を越える成果をあげることにあります。今回の大会では、こうしたチーム医療の現実と課題について、従事者の役割を規定する教育・養成の視点から検討してみたいと思います。

メインテーマに連動させて、教育講演は、本学会評議員でもある細田満和子氏 (ハーバード公衆衛生大学院リサーチフェロー、「チーム医療の理想と現実」著者) に、「チーム医療再考: チーム・アプローチでデザインするこれからの医療ケア」と題したご講演をいただきます。また、メインシンポジウムは、「チーム医療教育をどうするか?—チームワークと専門職性との間で—」と題し、鈴木志津枝氏 (看護師・神戸市看護大学)、備酒伸彦氏 (理学療法士・神戸学院大学)、吉村学氏 (医師・揖斐郡北西部地域医療センター)、三井さよ氏 (社会学者・法政大学) の各氏にご登壇いただく予定です。

会場となる神戸市看護大学は、阪神淡路大震災の直後に開学し、復興を願う人々の祈りと期待に支えられ、神戸市の復興と共に歩んできている大学です。阪神間～三宮・元町中心部～長田地区～といった震災 17 年後を迎えたさまざまな街の姿をご覧いただきながら、神戸市の西端にあります本学に、ぜひ多くのおみなさまにお運びいただけますようお願いいたします。

第 38 回日本保健医療社会学会大会

日時：2012年5月19日(土)・20日(日)

場所：神戸市看護大学（神戸市営地下鉄「学園都市」下車。徒歩7分）

メインテーマ：チーム医療の時代の従事者教育を問う

大会ホームページ：<http://jhms38.umin.ne.jp/index.html>

大会事務局：〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4

事務局：益^{えき}加代子

事前参加申し込みをお勧めします。

参加費

事前申込期間：2012年2月1日(水)～4月13日(金)

	事前参加受付	当日受付
会員	5,000円	6,000円
非会員	6,000円	7,000円
学生	3,000円	4,000円
学生非会員	4,000円	5,000円
懇親会：	4,000円	

※ 事前申込は、2012年2月発行の保健医療社会学論集に添付される郵便払込票をご利用ください。

<一般演題募集：2012年1月31日(火)まで>

例年より締め切りが早くなっています。

- ・ 一般演題は口演とポスター発表で募集します。
- ・ 発表者（共同演者を含む）は本学会会員に限ります。単年度会員制度を設けていますので、非会員の方と共同発表をご予定の場合は手続きをお願いします。
- ・ 発表内容は未発表のものに限り、また一般演題の登録は一人につき1演題とします。共同演者としての登録はこの限りではありません。
- ・ 一般演題の申し込み締め切りは1月31日(火)です。
- ・ Microsoft Wordにて抄録を作成し、ファイル名を「発表者氏名.doc」「発表者氏名.docx」とし、e-mailにてお送りください。
- ・ 抄録の作成要領
 - ① A4判横書き、40字×40行、明朝体、余白は上下25mm、左右22mm、
 - ② 演題：第一行に中央寄せ（14pt、太字）副題：あれば第2行に中央寄せ（12pt）、氏名（所属）：題から一行あけて右寄せ（10.5pt）連名の場合は発表者に○をつけてください。
 - ③ 本文：氏名（所属）から一行あけて始める。図表を使用する場合は、Wordのファイルの他にPDFファイルもご提出ください。

・ e-mailによる抄録提出について

- ① 件名は「一般演題申し込み」とし、メール本文に以下の内容をご記入ください。1. 申込者氏名、2. 所属、3. 連絡先（住所、電話、e-mail）、4. 希望発表形式（口演、ポスター発表、どちらでもよい、のどれかを示す）
- ② ファイルを添付してください。

II. 自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション (RTD) 公募について

第38回大会における「自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション」を公募いたします。詳細については大会ホームページ(<http://jhms38.umin.ne.jp/index.html>)を参照し、同ページ上にある企画申込書に記入の上、メール送信してください。応募締め切りは、2011年12月23日(金)です。

(研究活動担当理事・関西：池田光穂、佐藤哲彦)

III. 理事会報告

《2011年度第2回理事会》

日時：平成23年9月17日(土) 18:00~20:30

会場：関西学院大学・梅田キャンパス会議室

出席者：野口会長、朝倉理事、蘭理事、伊藤理事、池田理事、金子理事、木下理事、佐藤理事、林次期大会長、益(大会事務局)、金村(学会事務局)

欠席者：小澤理事、山崎理事

<議題>

1) ニュースレター84号・85号・86号の発行について(伊藤理事)

84号の発行と、85号と86号の発行予定について報告があった。85号は昨年同様11月15日前後の発行の予定であり、86号については大会案内が中心となるため2012年3月上旬の発行とする。

2) ニュースレター84号の発送について(木下理事)

ニュースレター84号の発送について、当初は経費削減のため論集に同封しての発送を予定していたが、定例研究会の開催案内が間に合わないためニュースレターを単独で発送したことが報告された。

3) 会員情報登録届フォームについて(木下理事)

ニュースレター84号に会員情報登録用紙を同封したことが報告された。なお、専門分野に関しては主たる専門を1つ選択してもらう方式としたことが報告された。

4) 編集委員会報告(蘭理事)

論集22巻1号の発行について当初予定した内容では264頁に及んでおり当該予算を大幅に超過することが判明したため、印刷直前で掲載内容の見直しを行ったこと、およびこの措置に関連する一連の対応について報告があった。

また、予算に対応した規模としては各号86頁前後の発行が望ましいことが確認された。

なお、22 巻 1 号の原著論文に規定頁数を越えたものもあり、今後は規定頁数の厳守を徹底することが合わせて確認された。

5) 論集 (第 22 巻 1 号) の刊行に対する緊急対応について (木下理事)

議題 4 に関連し、今回の対応は理事会決定事項であるため、改めて理事会の承認が求められ、議題として承認された。

6) 論集 (第 22 巻 1 号) から分離した「特集 2」の刊行方法について (木下理事)

議題 4 の継続として第 22 巻 1 号から分離した「特集 2 若手研究支援」等の刊行方法について検討が行われ、協議の結果、当該部分は来年度予算で 23 巻 1 号に掲載することを理事会として決定し、編集委員会の同意を求めることになった。

7) 第 38 回大会の準備・進捗状況について (林大会長、益大会事務局)

林次期大会長より第 38 回大会の進捗状況について報告があった。「チーム医療の時代の従事者教育を問う」をテーマに、シンポジウムについての検討状況が報告された。抄録集の配布については、前年度は震災の影響により変則的対応となったが、今年度は一昨年の方式に戻し会員全員へ事前発送することが決定した。

8) 定例研究会の報告、企画について (関東) (朝倉理事)

9 月開催予定および 2012 年 3 月開催予定の定例研究会について報告があった。また、毎年 3 回開催をしてきたが、2011 年度は 2 回開催にすることが報告された。

9) 定例研究会の報告、企画について (関西) (佐藤理事)

1 回目は、10 月 1 日に大阪大学の臨床実践の現象学研究会との共催で実施予定であること、また 2 回目は専門職論ならびに HIV カウンセリングの実践上の問題をテーマにして、2 月頃の開催で検討していることが報告された。

10) 入退会者の承認 (木下理事)

3 名の通常会員の入会者と、2 名の退会者の報告があり承認された。

以上

(総務担当理事：木下康仁)

IV. 編集委員会報告

- 1) 先のニューズレター No. 84 で『保健医療社会学論集』第 22 巻 1 号の特集論文の数を 10 編とお伝えしましたが、編集の最終段階で印刷費予算の超過が判明したため、急遽、「特集 2：研究をする／論文を書く／研究費を獲得する」の掲載を見送りました。ご執筆いただいた先生方にはたいへんなご迷惑をおかけしました。この場を借りて、改めてお詫び申し上げます。なお、「特集 2」は、第 23 巻 1 号に掲載する予定です。
- 2) 10 月 12 日に第 2 回編集委員会を (株) 国際文献印刷社会議室 (高田馬場) にて開催いたしました。9 月末締切投稿論文は、計 12 本あり、査読者を選定しました。なお、今年度から査読を担当してくださる先生方を当該年度の査読委員として位置づけ、ご希望により委嘱状も発行することにいたしました。また、第 22 巻 2 号、第 23 巻 1 号の構成について、内容もさることながら、予算の点からページ縮減を可能とするような方策を協議いたしました。そのため、刷り上がりの頁形式が次号より変更されます。(ただし、執筆要項の変更はありません。)

- 3) 「編集委員会規程施行細則」の12を以下のように改訂いたしました(改訂箇所:下線部)。「査読は再々査読まで継続する。再々査読の評価は、A:掲載可、B:少しの修正で掲載可、C:掲載不可の区分とし、C判定の場合、編集委員会は同一内容の論文の同一種類での再投稿を原則として受け付けないこととする。」これで、一度掲載不可と判定された論文でも種類を変えて新規投稿していただけることとなりました。(たとえば、「原著」で「掲載不可」となった論文を「研究ノート」で投稿するなど)。
- 4) ウェブ掲載等、電子ジャーナル化に向けて、学会に著作権が移譲されていない過去の論文の著作権移譲の手続きを、準備が整い次第、始める予定です。

(編集担当理事:蘭由岐子)

V. 研究活動報告と案内

1) 研究活動報告

<報告:212 回定例研究会(関東)>

2011年9月24日に、筑波大学文京キャンパスにおいて、原山哲氏(東洋大学社会学部教授)により、「ケア組織の国際比較ーパリと東京」というテーマで1時間程度の報告がなされ、その後1時間程度の質疑を行った。原山氏の報告は、看護職の専門性に関する日仏比較調査研究(1988年調査と2008年調査)の結果を中心に、看護労働の実態、業務の違いなどについて20年間の変化を中心に調査データをもとに解説した。後半の意見交換では、開業看護師の多いフランスにおける「看護師の固有の役割」の意味、近年フランスにおいて重視されているPOLE(複数の病棟をまとめて看護師のセクタリズムを超える試み)導入の課題について質疑と意見交換を行った。

<報告:213 回定例研究会(関西)>

2011年10月1日午後1時から、日本保健医療社会学会・関西支部例会が大阪大学・豊中キャンパス「スチューデントコモンズ」で開催された。研究会のテーマは「調査の経験についての語り伝える:質的調査の過去・現在・未来」というもので、西村ユミ(大阪大学)「急性期病棟におけるフィールドワークの経験から」、蘭由岐子(神戸市看護大学)「ハンセン病問題と『薬害HIV』問題に関する調査の経験から」、池田光穂(大阪大学)「海外での文化人類学のフィールドワーク調査の経験から」の3名が、それぞれのフィールドワークの実際の経験、その後作成されたモノグラフに書かれたこと/書かれなかったこと、フィールド経験の表象としてのモノグラフの意義などについて話題提供した後、およそ40名の参加者を交えて総合討論した。全体で4時間以上にわたる発表と討論であったが、フロアからの質疑応答や、コメントシートを使った、保健医療社会学の基本的問題構成のみならず、看護における質的研究教育の現実や、現場実践を質的方法によって表現する方法の可能性など活発な議論が展開された。

(研究活動担当理事・関西:池田光穂、佐藤哲彦)

<報告：看護・ケア研究部会：2011年度 第2回定例研究会>

9月19日(月)13:30~16:30に、震災のため延期していた公開企画(福祉社会学会共催)「資格と専門性を問いなおす——医療・福祉の再編に向けて」を首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室D・Eにて開催しました。朝倉京子さん(東北大学)から「看護師の自律的な判断の様相——医師との関係から」、清水準一さん(首都大学東京)から「在宅ケアチームの質評価——同じようで同じではないこと」、石田健太郎さん(明星大学)から「求められる専門性の変容——介護職のキャリア形成の視点から」、山下幸子さん(淑徳大学)から「資格の意味についての検討——障害者の自立生活を通して」と題してご報告いただきました。

フロアからも多様な質問やコメントが出されました。主要な論点は次の通りです。まず、医療職と福祉職では資格の捉え方、キャリアと資格との関連が大きく異なること。「看護学」「社会福祉学」などの研究者は同時にその資格の教育者でもあり、教育内容による改善を求める議論になりがちであること。資格は本当にケアや支援の受け手のためになるのか、社会保障制度を整備する上で資格を課すことは必然なのか。そして、それでも資格が不要だと言いきってはならないのだとしたら、それはなぜか、など。

今後も、何度かこうした討議の場を設け、それぞれの背景や違いと共通点を理解しあいながら、次につなげていく土壌を育てていきたいと願っています。(文責：三井さよ)

(看護・ケア研究部会長：宇城 令)

2) 案内

< 214 回定例研究会 (関東) >

テーマ：「生命倫理学の挑戦：『自己決定』概念の再構築」

日時：平成24年3月11日(日)14:00~16:00

場所：筑波大学・文京キャンパス2階 講義室8 (丸の内線 茗荷谷駅 徒歩5分)

講師：根村直美(日本大学経済学部教授)

司会：朝倉京子(東北大学)

概要：現在、応用倫理学の一分野として重要な位置をしめる生命倫理学は1960年代から70年代にかけてアメリカで誕生し、その後世界的に広まった。誕生当初「自己決定」は生命倫理学のキー概念であったが、近年では批判にさらされ、その位置から転落しつつあると見る論者もいる。しかしながら、本報告者は、「自己決定」概念の再構築を試みることにより、その概念を再生させることに取り組んできた。本報告では、依然として不完全なものではあるが、そうした取り組みの一端を紹介したい。

(研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温)

< 215 回定例研究会（関西） >

テーマ：HIV 陽性者の現状について考える（仮）
日時：3月3日（土）14時～17時
場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス
（大阪市北区茶屋町19-19 アローズタワー14階（受付）
阪急梅田駅茶屋町口より徒歩5分）
報告1：ゲイ・バイセクシュアル男性の薬物使用行動に関する研究
—全国インターネット調査の結果から—
講師1：日高 庸晴（宝塚大学・看護学部）
報告2：HIV 陽性者と薬物使用—カウンセリングの現場からの報告—
講師2：榎本てる子（関西学院大学・神学部）
司会：佐藤 哲彦（関西学院大学）

概要：エイズ動向委員会が発表した HIV 感染者・AIDS 患者累計数（2011年6月26日現在）は13,083名と6,036名の合計19,119名（血液凝固剤による感染を除く）であり、今日すでに慢性疾患に位置づけられる HIV 感染症の新たな課題は「地域で暮らす長期療養型患者（HIV 陽性者）の支援」である。なかでも HIV 陽性者における薬物使用の問題は、一部の医療関係者や支援者に意識されながらも、これまで具体的な対策や支援がほとんど行われてこなかったが、厚生労働省の改正エイズ予防方針（2011年）では、従来の「個別施策層」に新たに薬物使用者が加えられることになった。HIV 陽性者の現状について考えることをテーマとした今回の研究会では、宝塚大学の日高庸晴氏よりゲイ・バイセクシュアル男性の薬物使用行動に関する調査結果を報告していただき、それを踏まえた上で HIV 陽性者カウンセリングの困難について、関西学院大学の榎本てる子氏より現状を報告していただく。

（研究活動担当理事・関西：池田光穂、佐藤哲彦）

< 看護・ケア研究部会：2011年度 第3回定例研究会 >

テーマ：「尾道方式のエスノグラフィー」（仮）
日時：11月12日（土）13:30～16:30
場所：錦糸町 貸し会議室 ROOMs 301 会議室（JR 錦糸町駅南口徒歩3分）
報告者：松繁卓哉（国立保健医療科学院）

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

（看護・ケア研究部会長：宇城 令）

VI. 渉外国際担当理事報告

今夏から学会ホームページの「関連団体等の情報」セクションに、保健医療社会学関連の国際会議情報を掲載しております。国際会議への参加や発表を検討される際のご参考にしてください。学会ホームページに掲載してほしい国際会議の情報がありましたら、ご連絡ください。

連絡先：金子雅彦

(渉外国際担当理事：金子雅彦)

VII. 新入会員および退会者の承認

※個人情報のため、省略。

◆◆◆ 会員情報登録のお願い ◆◆◆

今期の理事会では、これまで未整備であった会員情報の整備に 取り組んでいます。その一環として会員の皆様に情報 の登録をお願いいたします。

学会ホームページ (<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>) から「会員情報登録(変更)届」をダウンロードし、ご記入の上、学会事務局まで E-mail か FAX にて お送りください。変更のない方もお手数ですが、確認のため再度ご登録ください。

【返送先】 E-mail : jshms-office@bunken.co.jp

FAX : 03-3368-2827

編集後記

広報を担当して2回目のニューズレターです。レター作成の要領を得てきました。そこで、広報担当の裁量で会員の皆様の声をコーナーとして設けたいと思います。皆様の研究関心や紙面に対するご意見など、会員の皆様に知らせたいことがありましたら、広報担当伊藤宛へお寄せ下さい。ただし採否はご一任ください。

「やらまいか」や「反骨精神」など土着の精神性が育む人々の力強さを折々に感じる今日この頃です。(み)



Contents

- | | |
|-----------------|----------------------|
| I. 「園田賞」の創設について | VI. 研究活動報告と案内 |
| II. 第38回大会案内 | VII. 新入会員および退会者の承認 |
| III. 理事会報告 | VIII. 2012年度の年会費について |
| IV. 渉外国際担当理事報告 | |
| V. 編集委員会報告 | |

発行: 日本保健医療社会学会
編集: 伊藤美樹子
学会事務局・印刷: (株)国際文献印刷社
東京都新宿区高田馬場 4-4-19,
jshms-office@bunken.co.jp

I. 「園田賞」の創設について

学会長 野口 裕二

本学会の元名誉会員で2010年2月にご逝去された故園田恭一先生のご遺族から、昨年12月、本学会に多額のご寄附のお申し出をいただきました。理事会で慎重に検討した結果、ご遺族のご配慮に深く感謝申し上げるとともに、園田先生のご遺志を謹んでお受けすることにいたしましたので、ここにご報告いたします。

園田先生は、本学会の会長を2期、大会長を2度務められ、まさに本学会の「生みの親」であり「育ての親」のお一人であることは、みなさまご承知のとおりと思います。また、長く、東京大学医学部保健社会学教室の教授を務められ、多くの優れた保健医療社会学者を育てられました。本学会がここまで大きく成長できたのも、東大保健医療社会学教室出身の多くの研究者の存在があったからこそといえます。

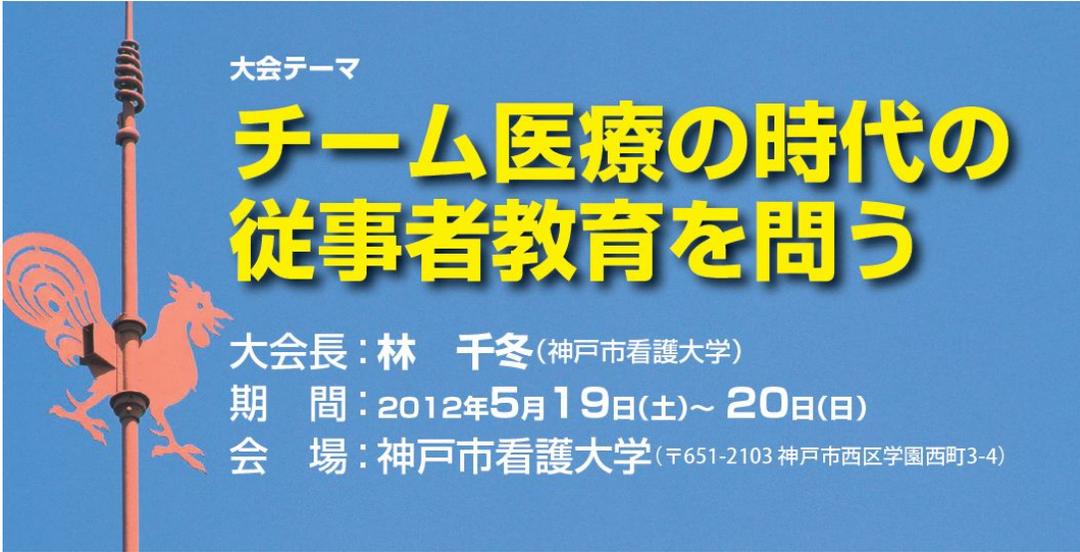
以上のような園田先生の多大なるご貢献にあらためて感謝申し上げるとともに、本学会の活動をさらに活性化し発展させていくことが、先生のご遺志に報いる唯一の道と考えます。ご寄附の生かし方について理事会で慎重に検討した結果、以下のことを決定いたしました。

1. 寄附金は「園田恭一基金」として一般会計から分離し特別会計とする。
2. 寄附金の生かし方については理事会で今後も慎重に検討するが、当面、若手会員の研究奨励を目的として創設された学会奨励賞の運営資金に充当する。
3. 来年度から、学会奨励賞に「園田賞」の名称を冠する。

多くの若手会員が「園田賞」の受賞を目指して、優れた研究成果を発表することを期待します。また、ご寄附の生かし方についてはこれからも慎重に検討してまいります。会員の皆様のご意見もぜひ参考にさせていただきたいと思っております。ご意見やご要望等がありましたら学会事務局までお知らせください。よろしくお願い申し上げます。

II. 第 38 回大会案内

大会長 林 千冬
(神戸市看護大学)



大会テーマ

チーム医療の時代の 従事者教育を問う

大会長：林 千冬(神戸市看護大学)
期 間：2012年5月19日(土)～20日(日)
会 場：神戸市看護大学(〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4)

寒さの中にも春の気配を感じる季節となり、5月19日(土)、20日(日)の第38回大会まで、早いものでもう2ヶ月を切りました。

メインテーマである「チーム医療の時代の従事者教育を問う」の主旨、これに連動するシンポジウム、教育講演の内容につきましては、すでに先のニューズレターでお伝えしたとおりですが、さらに多彩なテーマによる46題の一般演題と4題のラウンドテーブル・ディスカッションの応募が得られ、いよいよ学会大会の全体像も見えてまいりました。

大会校である本学は看護学の単科大学ですので、大会準備を担っているメンバーもほとんどが看護学教員です。看護学教育につきものなのは実習や演習。こうしたハードな教育活動を担いながら、事務局メンバーは毎日夜遅くまで、ときには休日返上で、いよいよ佳境に入った大会準備に精を出しております。参加者のみなさまに実りある議論と豊かな交流をしていただける環境を整えるべく、看護学ならではのホスピタリティでお迎えする所存です。

多くのみなさまのご参集をいただけますよう、担当者一同心よりお待ち申し上げます。

大会ホームページ：<http://jhms38.umin.ne.jp/index.html>

1) 大会プログラム

大会1日目：5月19日（土）

12:00～18:30：参加者受付

9:30～11:30	理事会
11:30～12:50	評議員会
13:00～15:00	編集委員会
13:00～14:40	一般演題セッション（口演） 「専門職とチーム医療」 「臨床を見直す①」 「保健医療社会学と国際化」
13:00～15:00	ラウンドテーブル・ディスカッション 「研究倫理という経験－クィアスタディーズの領域から－」
15:10～16:00	大会長講演 林千冬（神戸市看護大学） 「チーム医療の時代の従事者教育を問う」
16:10～18:10	シンポジウム 司会：田代志門（東京大学） 「チーム医療教育をどうするか？－チーム医療の時代の従事者教育－」 「多職種間連携教育の試み ～山奥、川の上流から～」 吉村 学 （公益法人地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター） 「チーム医療教育」高齢者ケアを通して考える 備酒伸彦（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部） 「がん医療現場での専門職者間の連携・協働を目指すチーム医療教育」 鈴木志津枝（神戸市看護大学） 「生活支援という場でのチームワーク／専門職性」 三井さよ（法政大学 社会学部）
18:30～20:30	大会懇親会（神戸市看護大学 学生会館食堂）

大会2日目：5月20日（日）

8:50～16:30：参加者受付

9:00～10:20	一般演題セッション（口演） 「看護師の専門性」 「臨床を見直す①」 「ヴァルネラビリティとケア」
9:00～11:00	ラウンドテーブル・ディスカッション 「翻訳行為としての保健：医療行為の新解釈」
10:30～11:25	ポスターセッション発表
11:30～12:30	総会 園田賞（第6回日本保健医療社会学会奨励賞）授賞式
12:20～13:00	看護・ケア研究部会総会

13:00～14:20	教育講演 細田満和子（ハーバード公衆衛生大学院・星槎大学） 「チーム医療再考－チームアプローチでデザインするこれからの医療ケア－」
14:30～16:10	一般演題セッション（口演） 「病の経験とその支援」 「健康観をめぐる諸相」
14:30～16:30	ラウンドテーブル・ディスカッション 「複数の医療従事者による協働実践を記述する －エスノメソドロジー・会話分析の立場から－」 「保健医療社会学の生存戦略」

事前参加申し込み期限〈2012年4月13日（金）〉が迫っています。

2) 参加費

	事前申込 (2012/4/13 まで)	当日受付 (2012/4/14 以降)
学会員	5,000 円	6,000 円
非学会員	6,000 円	7,000 円
学生（学会員）	3,000 円	4,000 円
学生（非学会員）	4,000 円	5,000 円
懇親会費	4,000 円	

※ 大会当日の参加費の支払いには、つり銭のないようにご協力をお願いいたします。

3) 参加費支払い方法

- ・ 学会員の方は、2012年2月発行の保健医療社会学論集に添付されている郵便払込票をご利用ください。
- ・ それ以外の方は、郵便局にある郵便払込票の通信欄に以下の内容をご記入の上、参加費をお振込みください。
 - － 学会員／非学会員、学生
 - － 懇親会参加の有無
 - － 氏名（ふりがな）
 - － Email アドレス
 - － 所属機関名
 - － 住所・電話番号
- ・ 払込先

ゆうちょ銀行 振替口座 口座番号：00930-6-160780 加入者名：第38回日本保健医療社会学会大会
--

- ・ 「払込取扱票」は、お一人様につき1枚の利用をお願いします。払込手数料はご自身の負担となります。
- ・ 「払込取扱票」をもって領収書にかえさせていただきます。年次大会まで大切に保管してください。
- ・ 払込いただいた参加費は、いかなる理由でもお返ししませんのでご了承ください。

4) 大会会場へのアクセス

神戸市看護大学 (神戸市看護大学ホームページ <http://www.kobe-ccn.ac.jp>)

■ 新神戸・三宮方面より

神戸市営地下鉄 西神中央行「学園都市」で下車 (所要時間 約 25 分)、徒歩 10 分

■ 姫路方面より

JR 舞子駅 神戸市営バス 53・54 系統「学園都市駅前」で下車、徒歩 10 分

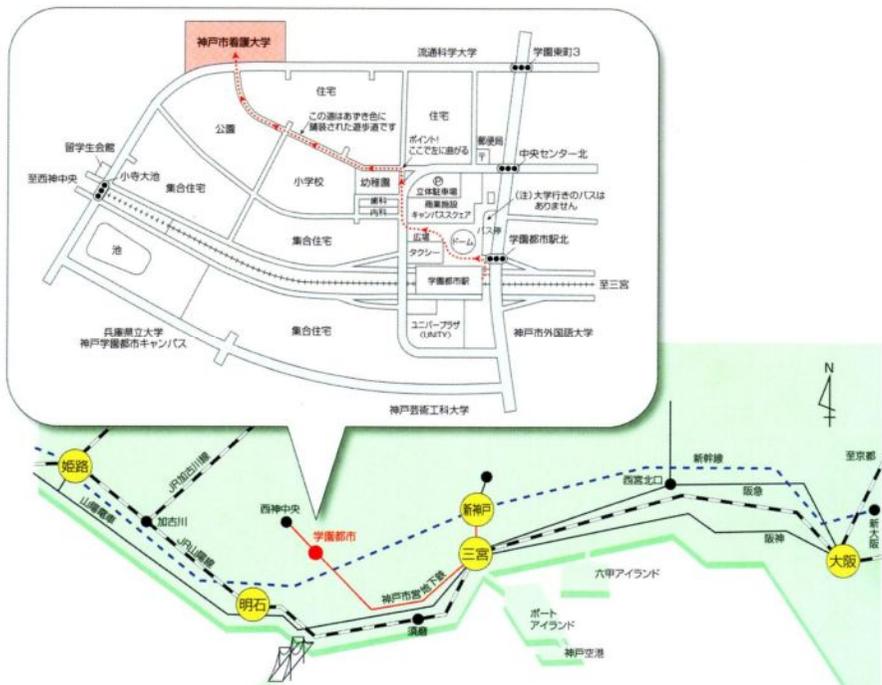
JR 新長田駅で神戸市営地下鉄 西神中央行に乗り換え、「学園都市」で下車、徒歩 10 分

5) 第 38 回大会事務局

事務局長：益^{えき} 加代子

〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学



Ⅲ. 理事会報告

≪2011年度第3回理事会≫

日時：平成24年2月23日（木） 16:00～19:30

会場：立教大学（池袋キャンパス）12号館 6階 「社会学部社会調査研究室」

出席者：野口会長、蘭理事、伊藤理事、池田理事、小澤理事、金子理事、木下理事、

佐藤理事、山崎理事、益大会事務局長、

欠席：朝倉理事

<議題>

1) 第38回大会の準備・進捗状況について（益大会事務局長）

益大会事務局長より第38回大会進捗状況について、申込み演題数、大会スケジュールの報告が行われた。また、佐藤理事よりプログラム編成について報告が行われた。

2) 論集（第23巻特別号）への広告掲載について（木下理事）

木下理事より、第23巻特別号への広告掲載について資料により提案がなされた。案2の広告料（裏表紙20,000円、裏表紙半頁10,000円、その他1頁15,000円、その他半頁7,500円）で実施することが承認された。広告掲載に当たっての国際文献印刷社への委託料は1号当たり20,000円としていることが報告された。

3) 学会奨励賞候補の選考期間（木下理事）および議題13（野口会長）

木下理事より、当初本理事会で選考委員会の結果が報告される予定でスケジュールを組んでいたが選考委員への該当論文発送が遅れたことにより審査期間が十分に確保できなかったため、選考期間の変更について報告と期間の延長について提案があり了承された。

奨励賞の副賞に関する議論に先立ち、議題13（園田先生ご遺族からの寄付の扱い）に切り替え審議を行った。野口会長より、ご遺族の意思を勘案して寄付総額を「園田恭一基金」の名称で特別会計とすること、および、学会奨励賞の名称を「園田賞」とすること、副賞を現行の3万円から5万円に増額することが決定された。なお、賞の表記はこれまでとの連続性を考慮し、「2012年度園田賞（第6回学会奨励賞）」とすることになった。

4) ニュースレター86号の発行

伊藤理事より、ニュースレターの発行予定および掲載内容について報告と確認が行われた。ニュースレター86号は、特別号の発送時期と大会告知時期を勘案し、原稿締め切りを3月10日とし、3月中旬までに発行および発送を行うことを決定した。

会員情報登録のお願いおよび年会費値上げの予告を掲載し、会費請求は4月1日付けで行うことにした。なお、年会費請求時にも、配信不能になっている会員にはメールアドレス登録依頼も同封することにした。伊藤理事より、メールでの情報発信について、前回演題募集期間延長、最終締め切り告知、定例研究会等の案内を行っているが、指針ははっきりしてないことについて意見があり、今後検討していくことになった。

5) 編集委員会報告（蘭理事）

蘭理事より、編集委員会開催報告および論集発行に関する報告が行われた。

23巻1号には、22巻1号発行時、予算の都合上掲載できなかった「研究支援」をテーマにした特集を掲載することが報告された。厳しい予算の中でより多くの記事を掲載できるよ

うにするため、字間を詰めるなど工夫をしているが、2段組みにするかどうかはまだ検討を続けていることが報告された。

また、認知症介護研究・研修仙台センターより当学会誌に掲載された3件の論文を転載したい旨と著作権に関する同意書が送られたことについて報告があり、著作権を学会に定める以前の期間分であることから該当の著者本人に連絡し著者から承諾可否の連絡をしてもらうことになった。

なお、電子ジャーナル化に向けて、委譲されていない既刊掲載論文については、著作権委譲の公告を出す方針でいることが報告された。また、一般投稿論文の本数を増やすためのアイデアがあれば編集委員会に寄せてほしいという要望が出され、意見を受けて編集委員会で検討を行うことにした。

予算の問題で特集掲載を控えることにしているが、編集委員会の方針により必要と思われるテーマについては、小特集を組んで掲載することも今後検討することにした。

6) 定例研究会の報告、企画について（関東）（小澤理事）

小澤理事より3月11日（日）14時～16時、筑波大学文京キャンパスで行う予定であり、講師は日本大学経済学部の根村直美先生にお願いしていることが報告された。

7) 定例研究会の報告、企画について（関西）（佐藤理事）

佐藤理事より3月3日（土）14時～17時、関西学院大学大阪梅田キャンパスにて、「HIV陽性者の現状について考える」をテーマとして行われることが報告された。講師は宝塚大学の日高庸晴先生、関西学院大学の榎本てる子先生に依頼していることが報告された。

8) 渉外国際活動（および社会学系コンソーシアム）（金子理事）

金子理事より、1月22日に行われた社会学系コンソーシアムの第4回評議員会について、国際化に関するアンケート調査」報告、「世界へのメッセージ」編集事業に関する報告、第2期理事会の役員選出、財政報告があったこと、また、引き続き公開シンポジウムが行われた旨の報告があった。

世界へのメッセージについては、英文A4で10頁程度で2012年末を目途に提出することが報告され、原稿の当学会からの担当者（木下理事、国際交流委員会が中心となり山崎理事の協力を仰ぐ）について提案があり、了承された。2013年1月に予定されているコンソーシアム評議員会までに原稿を提出することになる。

9) 被災による年会費減免適用（木下理事）

木下理事より、昨年3月11日に発生した東日本大震災で被災した2名の会員より年会費減免申請があったことについて報告が行われ、審議の結果、2名とも今年度会費の免除が承認された。

10) 図書館会員の扱いについて（事務局）

事務局より、現在図書館会員20団体のうち、書店が9社含まれている旨の報告があり、書店は販売を目的としており、図書館会員とはその目的が異なるため、今後は「定期購読会員」として扱うことについて提案が行われ了承された。また、「定期購読会員」の年会費は、エンドユーザーが図書館であることを考慮し、年会費は8,000円とした。

なお、次回総会において、会員種別の改定について承認を受けることになった。

11) 入退会者の承認について（木下理事）

木下理事より、11月末までメール審議により承認した5名の入会者とともに、本理事会

では5名の入会と、4名の退会者の報告があり承認された。年度末退会予定者11名の中には第37回大会発表の予定の会員が1名含まれているため、その1名を除き、10名を年度末退会として承認した。

関連して、大会発表における単年度会員の扱いについて、解釈に混乱がみられるため単年度会員の存続可否、会員種別の見直しについて検討し次回の総会に提案を行うことになった。

12) 予算執行状況および次年度予算方針（木下理事）

木下理事より、2月20日現在における予算執行状況について、今後年度末までの支出予定を含め報告が行われた。

2012年の予算については、会費の値上げにより若干余力が出てくるが、余力が出る分の配分優先順位としては、先送りになった特集分を考慮し23号1号の印刷費、次いで今年度予算をつけていない編集委員会の会議費を計上したい旨の説明があり了承された。

なお、今年度の決算をまたないと繰越金額も確定できないが、出来る限り繰越金を残し早期の学会財政の安定化を目指すことが補足された。

13) 園田先生ご遺族からの寄付の扱い（野口会長）

野口会長より故園田恭一先生のご遺族から本学会に寄付のあったことが報告され、「園田恭一基金」の名称で特別会計とし、若手研究者の支援になる方向で活用すること、また、当面、学会奨励賞にかかわる費用をこの基金から支出することが提案され承認された。（議題3と関連）

14) 第40回大会開催校（2014年度）候補

野口会長より、開催校について検討中であることが報告された。

15) 総会に向けて（次年度計画など）

議題12を含む。

16) 理事選挙における多選の防止、および、会長経験者の扱い（野口会長）

野口会長より次回の理事選挙において、世代交代のための多選防止について、理事を5期務めた会員と会長経験者には被選挙権は与えないこととするが、指名理事としての選任は可とする案が提示され、承認された。次回総会に提案し、次の選挙より適用する。

17) 理事選挙権、被選挙権の資格（野口会長）

野口会長より、入会1年目の会員はまだ学会活動について把握ができず、理事として選任される可能性も低いため、選挙権および被選挙権は不要でないかとの提案があり議論が行われた。議論の結果、次回選挙より、入会1年目の会員には選挙権および被選挙権は与えないことで決定し、次回総会に提案することになった。

18) 名誉会員の推挙

山崎理事より、本学会の活動に多年の貢献をされた姉崎会員が75歳を超えているため、次回の総会において名誉会員に推挙することが提案され、全員一致で了承された。

19) 次回の理事会日程

次回理事会は、第38回大会での開催とする。

IV. 渉外国際担当理事報告

- 1) 日本保健医療社会学会が参加している社会学系コンソーシアムでは、2014年のISA横浜大会に向けて、世界の社会学者にアピールする内容の英文冊子“Messages to the World Sociologists from Japanese Scholars (世界へのメッセージ)”を作成することになりました。本学会の原稿については、国際交流委員会(今期メンバーはニューズレター No. 84で既報)、木下理事、山崎理事が原案を作成し、理事会で決定・承認します。
- 2) 学会ホームページ(関連団体等の情報)に保健医療社会学関連の国際会議情報を掲載しております。国際会議への参加や発表を検討される際のご参考にしてください。学会ホームページに掲載してほしい国際会議の情報がありましたら、ご連絡ください。

(渉外国際担当理事：金子雅彦)

V. 編集委員会報告

- 1) 2012年1月31日に『保健医療社会学論集』第22巻2号を刊行しました。現在は次号第23巻1号の編集作業を開始しています。また、誌面のページ構成についても引き続き検討しています。
- 2) 次回の編集委員会は、2012年4月14日(土)に国際文献印刷社にて開催します。3月末締切の投稿論文の査読者の決定という重要議題がありますので対面的な状況で会議を開くことにいたしました。その次は、2012年度大会時に神戸市看護大学にて開く予定です。
- 3) 現在、第23巻特別号の編集を第38回大会事務局にておこなっていただいています。財政状況に資するように、今号では、編集委員会事務局から出版各社に募集をかけて広告掲載をお願いしているところです。
- 4) ウェブ掲載等、電子ジャーナル化に向けてのルール作りの検討については、引き続き、検討中です。

(編集担当理事：蘭由岐子)

VI. 研究活動報告と案内

1) 報告

<報告：214回定例研究会(関東)>

2012年3月11日に筑波大学文京キャンパスにおいて、根村直美氏(日本大学経済学部教授)を招き、「生命倫理学の挑戦：『自己決定』概念の検討」というテーマで、活発な意見交換をはさみつつ、2時間にわたって実施した。根村氏からは、かつて生命倫理学においてキー概念であったが、現在はその位置から転落しつつある「自己決定」概念を、フェミニスト哲学者のマリリン・

フリードマンの議論を手がかりに再構築する独自の試みが紹介された。報告をめぐっては、欧米と日本での自己決定をめぐる相違やコンテクストの重要性、自己決定を超越する共同決定の可能性、合意の形成、などについて活発にフロアとの意見交換がなされた。

(研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温)

<報告：215 回定例研究会（関西）>

2012年3月3日（土）14時より、日本保健医療社会学会・関西定例研究会が関西学院大学梅田キャンパス 10階 1001教室で開催された。今回の研究会のテーマは「HIV陽性者の現状について考える」であり、まず最初に、宝塚大学の日高康晴氏より「ゲイ・バイセクシュアル男性の薬物使用行動に関する研究—全国インターネット調査の結果から—」というタイトルでお話いただいた。日高氏の講演は、これまでの HIV 感染傾向を踏まえ、性的志向自覚の年齢とセクシュアリティ教育欠如の問題、そのような社会的環境に置かれたゲイ・バイセクシュアル男性の孤独感や薬物使用の状況など多岐にわたり、示されたデータとともに HIV 陽性者の現状を理解するのに非常に重要なものであった。次に HIV 陽性者へのカウンセリングを長年続けていらっしゃる関西学院大学の榎本てる子氏より「HIV 陽性者と薬物使用—カウンセリングの現場からの報告—」と題してお話いただいた。榎本氏の講演は、行動変容理論を踏まえてカウンセリング事例をそのステージに沿って整理しつつ、HIV 陽性者の感染過程やその悩みなどについて具体的に示したもので、現実の HIV 陽性者を理解するのに非常に重要なものであった。NPO からの出席者や、HIV 陽性者支援のための学生サークルからの出席者などもあり、時間も延長して活発な議論が行われた。

(研究活動理事：佐藤哲彦)

<報告：看護・ケア研究部会：2011 年度 第 3 回・第 4 回定例研究会>

第 3 回定例研究会が、11 月 12 日に錦糸町貸し会議室 ROOMs で開催され、松繁卓也さん（国立保健医療科学院）が「尾道方式のエスノグラフィー」と題した報告を行いました。報告の要旨は次の通りです。医療・福祉・その他のサービスを、利用者にとってシームレスな形で結びつけ、自宅もしくは自宅に近い環境で提供していくことが、近年の保健医療福祉における重要課題となっている。既存の包括的ケア（integrated care）に関する研究では、病院と在宅とのコスト効果の比較を行う医療経済学的研究と、両者の臨床効果を比べる医学的研究の 2 つが顕著だった一方で、利用者が辿る一連の経験の軌跡に着目し、利用者視点から包括的ケアの要件を考察する研究は限られてきた。本報告では広島県尾道市の取り組みを取り上げ、上記の視点から考察を試みた。提供者側による施設と同様の提供体制を整えていこうとする努力が重ねら

れてきている一方で、「家」という場ゆえに、目的志向から関係志向へと実践面の変容が生じ、施設とは異なる水準の利用者の評価観点が生成するのでは、との生成仮説について述べた。参加者の方々から有益なコメントをいただき実り多い議論の場となった。

また、第4回定例研究会が、1月7日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、関口恵子さん（法政大学大学院）が『「人材不足」の看護職論への構想』について報告しました。報告要旨は次の通りです。戦後より看護職者の不足が続く。今後の少子高齢社会の進展でさらに増大が予測される。不足は病床数に対する量的不足がほとんどであるが、医療技術の変化、疾病の変化と国民の多様な医療ニーズ、少子高齢化、看護職が感じる看護ニーズ、保健医療福祉構造等による量的・質的な不足がある。今までにも看護師不足の社会問題化、労働闘争があり、看護職確保の診療報酬の設定、需給計画、看護師等の人材確保法制定、看護教育等の施策が行われた。しかし潜在看護職者の再就業促進も進まず、外国人看護師の導入が図られている。必要とされる看護を求め病院を飛び出し活動する看護職者も出現し、認定看護師、専門看護師の育成、高度実践看護師養成の構想も進む。看護職不足は、医師不足といった業界的論理といえる看護職の準医師化や単純福祉労働力としての外国人労働者の導入といった安易な対処では解消できない。健康戦略の転換の時代といえる現在、持続可能な看護職者の在り方や看護職世界の未来は、病院を飛び出し、他職種・地域住民と連携し、その中核として看護専門職の体験の強みを活用した地域の多様な看護ニーズへの活動であり、社会的に洞察した看護職世界を見直すことが重要となる。

次に、部会役員の任期満了に伴う次期役員選挙の結果をご報告いたします。1月例会開始前に役員選挙の開票を行った結果、次の4名が新役員に選ばれました。吉田澄恵（東京女子医科大学）、三井さよ（法政大学）、本多康生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）、千葉京子（日本赤十字看護大学）。任期は2012年4月～2014年3月です。役職の分担については現在調整中で、後日ご報告させていただきます。

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

（看護・ケア研究部会長：宇城 令）

2) 案内

<第216回定例研究会（関東）>について

日時、場所、テーマ等は現在、未定となっております。決定次第、ニューズレター及び学会ホームページに掲載いたします。

Ⅶ. 新入会員および退会者の承認

※個人情報のため、省略。

Ⅷ. 2012年度の年会費について

既報での案内の通り、2012年度より年会費が6000円から8000円に改定されます。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(総務担当理事：木下康仁)

○○○ 会員情報登録のお願い ○○○

現在、理事会では、これまで未整備であった会員情報の整備に取り組んでいます。メール配信による広報活動もより積極的に展開するように計画しています。まだ登録されていない方は、学会ホームページ(<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>)から「会員情報登録(変更)届」をダウンロードし、ご記入の上、学会事務局宛にE-mailかFAXにてお送りください。平成24年4月に所属先や身分が変わられる場合も、会員情報の変更をお願いいたします。

【返送先】 E-mail : jshms-office@bunken.co.jp
FAX : 03-3368-2827

編集後記

マラソンの男子オリンピック代表選手の一人に一般参加者が選ばれました。女子サッカーのなでしこも活躍しています。ひたむきさは感動を呼びます。今春場所の相撲はどうかしら(み)



Contents

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| I. 第39回日本保健医療社会学会大会のご挨拶 | VI. 研修活動報告と案内 |
| II. 第38回大会報告 | VII. 渉外国際担当理事報告 |
| III. 総会報告 | VIII. 広報担当理事から |
| IV. 理事会報告 | IX. 新入会員および退会者の承認 |
| V. 編集委員会報告 | |

発行: 日本保健医療社会学会

編集: 伊藤美樹子

学会事務局・印刷: (株)国際文献印刷社

東京都新宿区高田馬場 4-4-19,

jshms-office@bunken.co.jp

I. 第39回日本保健医療社会学会大会のご挨拶

大会長: 小澤 温 (筑波大学)

第39回大会は、2008年の第34回大会以来5年ぶりの関東地区での開催になります。以前、関東地区中心の開催しかできなかった時代から考えてみると、本学会も全国的な規模の学会に広がってきたと思います。今回は、筑波大学・東京キャンパスに学会開催のキャパシティがないこと、つくばキャンパスでの開催は都心からのアクセスでかなり不便なことなどの理由で、学会事務局を筑波大学・東京キャンパスにおき、開催校を東洋大学・朝霞キャンパスにすることにしました。事務局と開催校とが異なる変則的な開催となる点でご了解ください。幸い、東洋大学・朝霞キャンパスは交通の便がよく、都心から1時間程度のところに位置しています。詳細な企画は今後検討し皆様にお知らせしていきたいと思っております。第39回大会にぜひご参加していただき、議論を大いに活性化していただけたらありがたいと思っております。

第39回日本保健医療社会学会告知

日 時	2013年5月18日(土)、19日(日)
場 所	東洋大学・朝霞キャンパス (埼玉県朝霞市岡 48-1)
メインテーマ	「障害」と「支援」をどう考えるのか(仮)
大会長	小澤温 (筑波大学大学院・人間総合科学研究科)
大会事務局長	的場智子 (東洋大学・ライフデザイン学部)
大会事務局	筑波大学・東京キャンパス・小澤研究室 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

II. 第 38 回大会報告

大会長：林 千冬（神戸市看護大学）

夏もいよいよ本番となりました。去る 5 月には、第 38 回日本保健医療社会学会大会に多数のご参加をいただきありがとうございました。野口学会長はじめ理事のみなさま、シンポジストや講師のみなさま、そしてご参加いただいたすべてのみなさまからの多大なるお力添えを得て、盛会のうちに無事学会大会を終了することができました。私事ながら、大学院修士課程在学中に、生まれて初めて参加させていただいた本学会に、20 年以上の月日を経て、ようやくわずかばかりの御恩返しができたような気がしております。

本大会におきましては、メインテーマである「チーム医療の時代の従事者教育を問う」の主旨どおり、さまざまな職種、幅広い分野の研究者 200 名余のご参加をいただきました。本学会の伝統でもある積極的なディスカッションは、シンポジウムと 46 題の一般演題、4 題のラウンドテーブルディスカッションはもちろんのこと、初日の宵の懇親会、最終日の夕刻に至っても熱く繰り上げられていたようです。

今回は、ほとんどが会員外の協力者による大会運営となりましたため、至らぬことも少なからずあったかと思いますがどうぞご容赦ください。一方で、初めての参加となった運営委員やボランティアメンバーの多くが、学際的な本学会大会の雰囲気感触に、忙しいながらも有意義な時間を過ごせたと言ってくれましたし、そのうちの何人かは新たに入会を申請してくれたこともあわせてご報告させていただきます。今回は本当にありがとうございました。

III. 総会報告 2012 年 5 月 20 日 於 神戸市看護大学

- 1) 開会の辞・野口学会長より挨拶。
- 2) 議長選出：黒田浩一郎会員（龍谷大学）が議長に選出される。
- 3) 第 1 号議案：2011 年度事業報告（了承された）
 - (1) 第 38 回日本保健医療社会学会大会（神戸市看護大学、2012 年 5 月）開催、第 39 回大会（筑波大学、2013 年 5 月）、第 40 回大会（東北大学）で開催。
 - (2) 学会事務局の業務委託体制の整備。
 - (3) 役員を選出方法の改善、会員種別の明確化。
 - (4) 緊縮財政に伴う経費の節減。
 - (5) 寄附金の活用方法の検討と「園田賞」の創設。
 - (6) 定例研究会は、関東 2 回、関西 2 回の開催、看護研究部会は 5 回開催。
 - (7) 保健医療社会学論集、第 22 巻特別号、第 22 巻 1 号、第 22 巻 2 号を刊行。編集事務局の業務委託の開始。
 - (8) 2014 年の ISA に向けた社会学系コンソーシアムの編集企画に参加。国際交流委員会の発足。
 - (9) ニュースレターを 3 号分発行。
- 4) 第 2 号議案：2011 年度決算報告・監査報告（了承された）
 - ・米林監事から「監査の結果、適正なものと認める」との報告があった。（監事：米林喜男、清水準一）

日本保健医療社会学会2011年度決算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

一般会計				(単位:円)			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
収入の部				支出の部			
会費収入	3,780,000	3,631,000	149,000	印刷製本費支出	1,290,265	1,483,407	-193,142
学会誌刊行物売上	150,000	71,230	78,770	郵送費支出	254,800	341,320	-86,520
受取利息	700	185	515	交通費支出	525,000	508,495	16,505
その他	5,000	185,970	-180,970	学会業務委託費支出	1,832,729	1,439,379	393,350
				【発送関連業務費支出】	121,474	151,611	-30,137
				【事務局関連業務費支出】	1,116,145	853,114	263,031
				【編集関連業務費支出】	443,625	278,204	165,421
				【HP関連メンテナンス支出】	93,000	105,000	-12,000
				【その他(資料保管代)】	58,485	51,450	7,035
				消耗品費支出	79,187	93,048	-13,861
				会議費支出	20,000	48,090	-28,090
				大会・研究会・部会補助費支出	320,000	183,413	136,587
				社会学系コンソーシアム年会費支出	20,000	20,000	0
				その他支出	21,515	9,730	11,785
				予備費支出	375,811	0	375,811
当期収入合計	3,935,700	3,888,385	47,315	当期支出合計	4,739,307	4,126,882	612,425
前期繰越額	803,607	803,607	0	次期繰越額	0	565,110	-565,110
収入合計	4,739,307	4,691,992	47,315	支出合計	4,739,307	4,691,992	47,315

園田基金				(単位:円)			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
収入の部				支出の部			
寄付金	0	3,335,567	-3,335,567	交通費支出	0	29,460	-29,460
当期収入合計	0	3,335,567	-3,335,567	当期支出合計	0	29,460	-29,460
前期繰越額	0	0	0	次期繰越額	0	3,306,107	-3,306,107
収入合計	0	3,335,567	-3,335,567	支出合計	0	3,335,567	-3,335,567

日本保健医療社会学会2011年度会計についての監査の結果、適正なものと認めます。

2012年 5 月 11 日 会計監査

米林喜男

印

2012年 5 月 11 日 会計監査

清水準一

5) 第3号議案：2012年度事業計画（承認された）

- (1) 第39回大会の開催。
- (2) 2012年度も基本的に緊縮型予算とする。
- (3) 名簿の整備、電子メールの利用を含め、業務の効率化を進める。
- (4) 定例研究会、関東2回、開催2回、看護・ケア研究部会5回を予定。
- (5) 保健医療社会学論集、第23巻特別号、第23巻1号、第23巻2号の刊行。
- (6) 社会学系コンソーシアム企画『世界へのメッセージ』への原稿を完成させる。
- (7) ニュースレターを昨年度と同様3回発行する。

6) 第4号議案：学会規約の改正（承認された）

- ・会員種別の明確化、役員の大選制限、選出方法に関し、以下の改正（下線部）が承認された。

第2章（会員）、第4条を「本会の会員は、通常会員、名誉会員、賛助会員、図書館会員、定期購読会員、共同発表会員とする。」

第7条を「賛助会員、図書館会員、定期購読会員、共同発表会員は以下に該当し、理事会の承認を得た個人または機関とする。

3. 定期購読会員 本会機関誌を定期的に購入する書店。

4. 共同発表会員 大会において共同発表者として参加する者で、単一年度に限り会員である者」

第9条「本会を退会しようとする者は、退会届を提出するものとする。

ただし、共同発表会員の会員任期が満了する場合はその限りではない。」

第3章(役員) - 新規追加 -

第11条(理事)

5. 会長経験者および理事を通算5期経験した会員は被選挙権を有しない。ただし、選挙によって選出された理事による指名によって理事となることはできる。

6. 選挙権、被選挙権は会員歴が2年以上ある者とする。

第12条(監事) - 新規追加 -

4. 選挙権、被選挙権は会員歴が2年以上ある者とする。

第5章(会計)、第20条(会費)を「通常会員、図書館会員、定期購読会員、共同発表会員の会費は年額8,000円とする。」

7) 第5号議案：2012年度予算計画(承認された)

日本保健医療社会学会 2012年度予算書

自2012年4月1日 至2013年3月31日

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	565,110	印刷製本費	1,500,000
会費収入 (8,000円×603人分、新会員9,000円×60人)	5,364,000	郵送費	280,000
学会誌刊行物売上	100,000	交通費	600,000
広告収入(特別号)	80,000	学会業務委託費	1,694,602
受取利息	200	発送関連業務	107,625
その他(許諾抄録使用料)	5,000	事務局業務	1,024,852
		編集関連業務	443,625
		HP関連メンテナンス	73,500
		その他(資料保管代)	45,000
		選挙関係費	200,000
		消耗品費	100,000
		会議費	40,000
		大会・研究会・部会活動補助費	410,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他(振り込み手数料等)	5,000
		予備費	1,264,708
合計	6,114,310	合計	6,114,310

日本保健医療社会学会 2012年度予算書(園田基金)

自2012年4月1日 至2013年3月31日

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	3,306,107	奨励賞賞金	50,000
		交通費	50,000
		消耗品費	10,000
		業務委託費	20,000
		雑費	1,000
		予備費	3,175,107
合計	3,306,107	合計	3,306,107

8) 第6号議案：名誉会員の推挙

・野口会長より姉崎正平会員が推挙され、満場一致で承認された。

9) 園田賞（第6回学会奨励賞）の表彰

・小澤選考委員長より選考結果の報告があり、野口会長から受賞者の木下衆会員に賞状と賞金が授与された。

10) 次期大会長挨拶

・小澤次期大会長。会場は筑波大学ではなく東洋大学朝霞キャンパスとなり、大会事務局長は東洋大学の場会員となることが報告された。

黒田議長を解任し、総務担当理事より閉会の挨拶

(総務担当理事：木下康仁)

名誉会員から

小さな貢献、大きな名誉



姉崎 正平（近畿医療福祉大学）

この度、2012年5月に開催された第38回日本保健医療社会学会大会において、名誉会員の称号をいただいた。通常、このような栄誉が与えられる場合、その団体や分野に対する具体的な業績が挙げられるが、今回はそのようなことはなかった。表彰楯を改めて見ると「あなたは本会の発展に多大なる貢献をされました。その功績に対して感謝の意を表し名誉会員の称号を授与します」という抽象的な文言があるだけである。そのため授

与された本人がどのような貢献をしたか、自分で考えなければならなくなった。

本学会の前身である保健・医療社会学研究会の発足から会員であった。そして、理事を何期かさせていただいた。奉職していた日本大学医学部で2回ほど事務局を預かり、その時に2回大会を開催した。当時の会員数は200名にも達していなかったもので、秘書と私だけで賄えた。しかし、この小さい研究会が1980年と1986年に横浜と浦安でアジア保健医療社会学会という国際学会大会を催した。アジア大会といってもアジア諸国からのみならず世界保健機関、国際社会学会、欧米諸国から医療社会学者など十数人を招き、国内から200名近い参加者があり、日本学術会議、文科省、厚労省、外務省、医師会、看護協会、開催地の県・市の後援を取り付けるという研究会の身の丈を超えた大会で、その事務局長を担当させていただいた。これは今思い出してもしんどかった。この辺までは研究会時代の本学会への貢献と言えるかと思われる。

このようにして国際づいた勢いで、園田恭一先生の跡を継いで、世界的組織である

IFSSH(International Forum for Social Sciences in Health)傘下のアジア・太平洋地域組織であるAPNET(The Asia Pacific Network for the IFSSH)の理事に選ばれ、アジア・太平洋の各地での会議に参加し、多くの研究者と交流する機会に恵まれた。この組織と日本保健医療社会学会を結びつけ、日本で大会の開催を目論んだが、実現出来なかった。2014年には横浜を中心に世界社会学大会が、日本で開催される。ISA(国際社会学会)のRC15

(保健医療社会学研究部会)は日本保健医療社会学会の役割に大きな期待を寄せている。横浜大会では本学会が単にRC15の受け皿のみならず、皿の上に日本の保健医療社会学の成果を盛り上げる役割を果たすべきである。私は日本からのRC15の理事として、横浜での世界社会学会議でのRC15のために、恐らく最後となるであろう小やかな貢献を日本保健医療社会学会を通じて果たしたいと思う。会員各位のご協力を切望する。

第1回園田賞受賞者から

受賞論文：家族会における「認知症」の概念分析

—介護家族による「認知症」の構築とトラブル修復—、論集22巻2号掲載

木下 衆

(京都大学大学院文学研究科、日本学術振興会特別研究員)

拙稿は、本当に何度も何度も書き直しを重ねた原稿でした。友人や諸先輩方にくり返し意見を求めながら書き進め、さらに査読者の先生方からコメントを頂戴して修正する。——そのくり返しの末、1年以上かけてようやく書きあがったのが拙稿です。友人や諸先輩方、査読者の先生方にも、この場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。

また、長年調査に協力いただいている介護者の方々からも、今回の受賞に関し多くのお祝いの言葉を頂戴しました。各家族会で配布した拙稿の抜き刷りやコピーは、100部を優に超えたと思います。感想や激励の言葉も、しばしば頂戴しています。

月並みな表現かもしれませんが、私の調査や研究が、どれだけ多くの方に支えられているか、今回の受賞を契機にあらためて謙虚に見直し、感謝している次第です。皆さま、本当にありがとうございます。

今後は、在宅介護、介護施設双方のエスノグラフィーを投稿できたらと考えています。



(左) 野口会長から賞状と副賞が贈られた。(右) 木下氏の受賞者スピーチの様子

IV. 理事会報告

平成24年度 第1回理事会

日時：2012年5月19日（土） 場所：神戸市看護大学

出席者：野口会長、蘭理事、伊藤理事、池田理事、小澤理事、金子理事、朝倉理事

木下理事、佐藤理事、山崎理事、益大会事務局長、事務局

<議題>

1. 第38回大会および総会についての確認（木下理事）

木下理事より総会議案書の概略及び進行について確認と説明が行われた。

2. ニュースレター87号の発行等（伊藤理事）

伊藤理事より87号を論集同封で7月、88号を単独で8月～9月、89号は論集同封として来

年1月頃発行する計画であることが報告された。

3. 編集委員会報告 (蘭理事)

蘭編集委員長より、以下の報告があった。

投稿時の会員資格について、投稿時のみならず掲載時においても前年度未払がないことを掲載条件とする旨を投稿規程に追加することが報告された。

7月発行予定の第23巻1号には、前年度予算不足で掲載を見送っていた特集ページを編成すること、ページ数圧縮のため今後は論集全体を9ポイント2段組に変更すること、および2012年1月発行予定の23巻2号は38回大会のシンポジウム報告等の特集にすることが報告された。

電子ジャーナル化の準備について、山崎理事と中村委員がJ-STAGEを訪問し詳細を確認したことが報告された。電子ジャーナル化についてはJ-STAGEかCiNiiの選択肢があるが条件が異なるためまず編集委員会で検討を行い次回理事会に提案することになった。

掲載不可が決まった場合の査読者への謝辞と査読結果の開示、掲載が決まった場合の査読者への謝辞送付業務、修正稿の提出がない場合の査読終了に関する査読者への連絡業務を編集事務局に追加委託することが報告された。

4. 定例研究会の報告、企画について(関東) (小澤理事・朝倉理事)

小澤理事より関東の定例研究会について報告が行われた。開催は、昨年同様、9月と3月を目途に2回開催予定であるが、第39回大会と絡み、大会のRTD、シンポジウム等とリンクできる形とし、定例研究会の講師や関係者は第39回大会においてもある程度役割をしてもらう方針が報告された。

5. 定例研究会の報告、企画について(関西) (佐藤理事・池田理事)

池田理事より関西の定例研究会について、金沢で行われたところの発達展の大阪大学出身の竹内氏、工藤氏が参加されているので、この2名を中心に6月末講演を企画していることが報告された。なお、佐藤理事より、来年2月頃には、2011年度に引き続きHIVと関連した内容で定例研究会開催を企画したい旨の補足があった。

6. 渉外国際活動(および社会学系コンソーシアム)(金子理事)

金子理事より、社会学コンソーシアムで推進している「世界へのメッセージ」及び2014年ISA横浜大会について報告が行われた。各学協会は英文の場合は4,000ワード、和文の場合は10,000字を基準とすること、当学会では英文での提出することとなったとの報告があった。

7. 入退会者の承認(木下理事/事務局金村)

事務局より本理事会承認対象者は、前回の理事会以降から5月16日までの入金確定者及び退会申請者であり、新入会希望者は17名(通常13名、単年度会員4名)であることが報告された。退会者は25名、2008年度から2011年度まで年会費未納により資格停止者は13名あり、総会資料の5月19日時点の会員数は688名であることが報告された。

8. 第40回大会開催校(2014年度)(野口会長)

野口会長より、2014年に行われる第40回大会を東北大学において朝倉理事を大会長として開催することが報告された。朝倉理事より、震災後東北地方で大会が行われることに意義をもって進めたいとの抱負が述べられた。

9. 学会HPでの外部からの広報依頼の取り扱い(伊藤理事)

大会時における展示については、原則として出版社の書籍販売のみ認めるとし、それ以外の依頼は断ることで一致した。なお、判断が必要な場合は、その都度審議することとした。

HPについては、本学会の会員にとって有益となる学会や研究会情報のリンクに限るとし、広

報理事の判断に任せることとした。但し、広報理事の判断が難しい場合は、理事会に諮って審議することとした。

会員へメールで告知を行うことに関連し、会員自身が本人の情報を更新できるよう WEB システム環境構築について、次回理事会時に事務局より資料をまとめマイページの提案を行うこととした。

10. 看護ケア研究部会への補助、会計方式（木下理事）

木下理事より、看護ケア研究部会の未執行の 2011 年度補助額を 2012 年度予算として執行する旨報告があり、承認された。

また、会計方式については、定例研究会は、事務局への請求をもって実費分を振込むことにしていたが、看護ケア部会は運営の都合上、従来通り定額の補助金を渡すことが提案され承認された。なお、看護部会からは、収支を年度末に報告してもらう。

11. 財政安定化の目安の設定(木下理事)

木下理事より、主財源の会費収入は全会員数の 9 割で見込んでいるが、学会財政安定化のため、流用資産の目標額について検討依頼があった。

12. その他

木下理事より、2011 年度に行った東日本大震災被災者に対する会費減免措置を 2012 年度も継続し行うことが提案され承認された。

13. 次回の理事会日程

8 月～9 月上旬頃の開催で後日日程確認を行う。

以上

(総務担当理事：木下康仁)

V. 編集委員会報告

- 1) 2012 年度第 1 回編集委員会を 4 月 14 日（土）に国際文献印刷社で、第 2 回編集委員会を 5 月 20 日（日）に神戸市看護大学で開催しました。
- 2) 会員資格の徹底を論文投稿時だけでなく論文掲載時にもおこなえるように、『『保健医療社会学論集』投稿規程の 1』に、「なお、投稿者は、論文の掲載時に、当該年度の会員であり、かつ、掲載前年度までの会費に未払い額が存在しないことが掲載の条件であることを理解していること」の一文を付け加えることにしました。
- 3) 23 巻 1 号よりページ構成を 2 段組といたしました。昨年の緊縮財政下のページ数縮減に端を発した試みですが、結果として読みやすい誌面になったのではないかと思います。
- 4) 編集委員会事務局体制も整ってきましたので、査読者に対する査読終了の連絡や謝辞、修正稿提出期限を過ぎた投稿者への連絡・確認等、よりいっそうきめ細やかな対応をするようにいたします。
- 5) 電子ジャーナル化に向けて、JST（独立行政法人科学振興機構）に山崎副委員長、中村委員が訪問し、詳細を確認してきました。各種機能や費用等を含め検討中です。

(編集担当理事：蘭由岐子)

VI. 研究活動報告と案内

1) 研究活動報告

<報告：216 回定例研究会（関西）>

関西地区研究会を2012年6月30日（土）13時30分～17時に大阪大学大学教育実践センター・研究教育棟（1）2階：セミナー室1において開催した。今回のテーマは『自閉症』の医療化と社会問題化について：医療社会学からのアプローチであり、竹内慶至さん（金沢大学子どものこころの発達研究センター社会技術部門・助教）と工藤直志さん（金沢大学人間社会研究域・研究員）に話題提供していただき、その後、会員を交えて討論した。話題提供者であった竹内氏と工藤氏は、金沢大学での「子どものこころ発達研究センター」の諸活動に関わる数少ない医療社会学者として、日々これらの問題に直接関わっておられ、現場からの「生の声」を報告していただいた。ここで医療社会学ならびに保健医療社会学の研究において「自閉症」を考えることは少なくとも次の3点を含めて極めて重要である。（1）エヤールらの『自閉症のマトリクス』（2010）研究以降、これらを形成する一連「疾患」が、古典的でシンプルな医療化の産物というよりも当事者と家族を含めた支援者グループ、教育政策や福祉政策担当者や製薬業界などが絡む複雑な社会現象の一環として現れてくることを指摘していること。（2）「自閉症」が「精神遅滞」や「精神疾患」という疾患や障害のカテゴリーに単純に収まるのではなく、緩やかに「健常人」との連続性を持ちながら、脱施設化による行動の自由を含む社会的活動に参加する権利主体としての「浮上」を市民社会は考慮せざるを得ないこと。すなわち理性概念をめぐる近代の人間観の変化を表象する出来事であるということ。（3）日本や欧米では、PET, MEG, fMRI, NIRSなどの脳の活動をイメージする機器の発達と認知脳科学研究の進展により「自閉症」の脳科学的な解釈や説明（＝言説）が、科学ジャーナリズムを介して市民生活の中に入ってきて、自閉症に介入一般的には「治療」を意味する一することができるといふ「期待」が急速に成長しつつある。それゆえ我が国でも科学技術振興機構（JST）などの政府系機関が大規模な予算をつけた数々の「プロジェクト研究」が進んでいること。すなわち、基礎科学と技術開発と応用的な実践科学としての医療の三すくみの複合体が「自閉症」を取り巻いているということ、である。会場では『社会学評論』63-1で「テーマ別研究動向（医療）」レビュー論文を上梓されたばかりの山中浩司氏などからコメントなども出て、発表者も含めて十数名のこじんまりとした参加の規模ではあったが、その議論は多岐にわたり活発に展開された。終了後の懇親会の席上では、今回の研究会をより発展させて、本学会での分科会やシンポジウムとして企画提案しようとする構想も沸き上がり午後から夜まで大いに盛り上がった。（文責：池田光徳）

（研究活動担当理事・関西：池田光徳、佐藤哲彦）

<報告：看護・ケア研究部会：2011年度 第5回定例研究会>

2011年度第5回定例研究会が、3月17日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、中村美鈴さん（自治医科大学）が「生命の危機状態にある患者に代わり延命治療の意思決定を担う家族に関する研究」について報告しました。報告要旨は次の通りです。患者に代わり延命治療の実施に関する意思決定を行う家族は衝撃と混乱の中で患者の状況や治療に関する複雑で多様な説明を受け、意思決定を余儀なくされることも多い。今回明らかにされた《家族が患者の現状や治療による効果および影響を理解し受け入れられるような関わり》や《家族の状況を把握し苦悩をサポートするような関わり》は、家族の身近にいる看護師にとって重要な関わりといえる。また、家族の状況を把握した看護師が《家族と医師との橋渡しや関係性を保持するような関わり》を持ち、《患者・家族への医療・看護方針を統一するような関わり》をしており、医療職者と家

族との間の調整や医療職種間の統制といった関わりも重要なものであることが推察される。しかし、《家族と共存できる時間・場の確保が難しい》と勤務中に家族との時間を割くことの難しさや、《患者が危機的状況にある家族に踏み込むのは難しい》といった困難を抱えており、家族に積極的に関わる必要性を感じながらも十分出来ないといった葛藤が生じていることも推察された。これらのことから、支援を必要としている家族に時間を割けるような勤務体制やこのような家族にどのように対応していくかを話し合える体制を整えるなど、看護師が抱えている困難を可能な限り軽減・解決していくことが家族の意思決定プロセスを促進するために重要であると考えられる。その後、学際的な議論がなされ、考究すべき課題をさらに見出した意義ある会であった。

新役員について：先日の大会時〔5月20日（日）〕に看護・ケア研究部会総会が行なわれました。新役員の役割分担は、会長：三井さよ（法政大学）、副会長：千葉京子（日本赤十字看護大学）、会計：吉田澄恵（東京女子医科大学）、庶務：本多康生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）。今後の方針として、従来通り看護職を中心とすること、同時にケア全般に視野を広げ、関東定例研究会や福祉社会学会と共催での研究会を開催するなどの案が出されました。今後も多くの方々にご参加いただけるような会にしていくため、新役員一同、努力してまいります。

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生 honda-yasuo@rehab.go.jp

（看護・ケア研究部会会長：三井 さよ）

2) 案内

<第217回定例研究会（関東）>

日 時：2012年9月16日（日） 13:00～15:00
 場 所：筑波大学 東京キャンパス 4階432ゼミ室（茗荷谷駅 徒歩4分）
 講 師：佐藤 恵先生（法政大学・キャリアデザイン学部）
 司 会：小澤 温（筑波大学）
 タイトル：「自立と支援の社会学」
 概 要：報告者は、長年、ボランティアと災害支援、障害者支援などのテーマで、自立と支援との関係に関して社会学の立場から論理構築に取り組んできました。今回の研究会では、報告者のこれまでの研究課題をもとに、自立と支援の関係について深めることを目的とします。
 連絡先：小澤 温

（研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温）

<第218回定例研究会（関西）>

日 時：2013年2月（詳細未定）
 場 所：関西学院大学梅田キャンパス（予定）
 講 師：藤井ひろみ先生（神戸市看護大学）、
 司 会：佐藤哲彦（関西学院大学）
 タイトル：「クィア・スタディーズの最近の論点をめぐって（仮）」
 連絡先：佐藤哲彦

（研究活動担当理事・関西：池田光穂、佐藤哲彦）

<看護・ケア研究部会：2012年度 第2回定例研究会>

日 時：9月15日（土）13:30～17:00

場 所：東京女子医科大学看護学部 第2校舎 241 教室

第1報告者：朝倉京子さん（東北大学）

タイトル：看護師の自律的な判断の様相（仮）

第2報告者：谷川千佳子さん（北海道大学大学院）

タイトル：看護職場の労働編成（仮）

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

（看護・ケア研究部会長：三井さよ）

VII. 渉外国際担当理事報告

本学会が参加している社会学系コンソーシアムは、国際社会学会（ISA）主催の世界社会学会議横浜大会（2014年）に向けて、日本の社会学関連の諸研究を世界の社会学者に紹介する内容の英文冊子「世界へのメッセージ」の作成を企画しています。この冊子に掲載する本学会の原稿原案を、山崎理事の協力を仰ぎながら木下理事と国際交流委員会が中心となって作成します。原稿は理事会で決定・承認されます。

（渉外国際担当理事：金子雅彦）

VIII. 広報担当理事から

会員の皆様からいただいた本学会に関連する研究会や学術集会等の情報につきましては、原則として学術的なもので、かつ本学会会員に益するものに限り、広報活動を通して案内させていただきます。学会ホームページのリンクへの採否は、学会理事会が判断いたします。

（広報担当理事：伊藤美樹子）

IX. 新入会員および退会者の承認

（2012年2月21日～2012年5月16日受付分）

※個人情報のため、省略。

○○○ 会員情報登録のお願い ○○○

現在、理事会では、これまで未整備であった会員情報の整備に取り組んでおり、メール配信による広報活動もより積極的に展開するように計画しています。

5月の年会費請求書発送時会員情報届用紙を同封しておりますので、変更のある方は以下返送先までご連絡ください。特にE-mailアドレスのご登録にご協力ください。

会員情報届用紙は、学会ホームページからもダウンロードできます。

(<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>)

【返送先】 E-mail : jshms-office@bunken.co.jp
 FAX : 03-3368-2827

なお、会員の皆様よりいただいている個人情報、会務の遂行、会員へのサービスの提供、これらの利用目的に付随する目的のみで利用します。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。もうすぐ丑の日（7月27日）ですが、今年はウナギも高いそうですね。それでもやっぱり旬のものを食べて夏を乗り切りたいものです。（み）



Contents

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| I. 学会ホームページの更新について | V. 理事会報告 |
| II. 第39回日本保健医療社会学会大会のご挨拶 | VI. 編集委員会報告 |
| III. 自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション公募について | VII. 研究活動報告と案内 |
| IV. 原田正純先生の死を悼む | VIII. 渉外国際担当理事報告 |
| | IX. メール配信の運用開始について |
| | X. 新入会員および退会者の承認 |

発行: 日本保健医療社会学会
編集: 伊藤美樹子
学会事務局・印刷: (株)国際文献社
東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター
e-mail: jshms-office@bunken.co.jp

I. 学会ホームページの更新について

学会長: 野口 裕二 (東京学芸大学)

今年度の活動計画のひとつである学会のホームページの改善に取り組みましたので、ご報告します。学会のホームページは会員が学会情報を確認し共有する場であるとともに、非会員でこの領域に関心をもつ人が本学会と最初に出会う場でもあります。これまでのホームページは前者の側面が中心で、後者の側面がやや弱かったとの指摘もあり、今回はその改善に主眼を置きました。

主な変更点は以下のとおりです。まず、第一は、学会の概要や組織についての情報を増やした点です。学会を紹介する「本学会について」の文章を更新するとともに、これまでの役員、評議会名簿に加えて、名誉会員名簿、委員会名簿を追加しました。第二に、研究活動に関する情報を増やしました。定例研究会報告に看護ケア研究部会報告を加えるとともに、最新号の学会誌の目次を掲載することにしました。第三は、入会、退会、異動などの手続きをよりわかりやすくし、情報を入力しやすくなるように入力フォーム等を改めました。

今回は、以上の三点を中心に変更をおこないましたが、まだまだ改善すべき点はあると思います。会員の皆様の積極的ご意見をお待ちしています。

日本保健医療社会学会 <http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

II. 第39回日本保健医療社会学会大会のご挨拶 (第2報)

大会長: 小澤 温 (筑波大学)

2013年5月18日(土)、19日(日)に、東洋大学朝霞キャンパスにおいて第39回日本保健医療社会学会大会を開催いたします。今回は、筑波大学と東洋大学の共催での開催で実施し、事務局を筑波大学・東京キャンパスに置き、開催校を東洋大学・朝霞キャンパスとすることにしました。事務局と開催校とが異なる変則的な開催となる点でご了解ください。

今回は、メインテーマを『障害』と『支援』をどう考えるのかとしました。2009年の政権交代から始まった一連の障害者政策に関する見直し・検討は、「障害」の概念定義に関する長年の論点だった「医学モデル」と「社会モデル」の視点を、国政のレベルで改めて問い直すことになりました。特に、2013年から施行される「障害者総合支援法」では、難病を、障害の対象に

含めることにしていますが、(治療および医療的ケアの必要性の高い) 難病患者を、(福祉サービスの必要性の高い) 障害者として位置づけることは、実務的にも、理論的にも大きな課題があると思われます。このような時代的な状況をふまえて、本学会において、これまであまり取り上げられてこなかった「医学モデル」と「社会モデル」に関する議論を、今大会では保健医療社会学の課題として大いに深めていきたいと考えています。また、「障害」の概念定義の問題だけでなく、近年、主に社会福祉分野(障害、低所得、高齢、さらには、災害からの復興などの各領域)で強調されている「自立」と「支援」に関わる課題も、「障害」の問題を糸口にしながら、あわせて深めていきたいと思っています。

メインテーマに関連して、1日目の基調講演では、佐藤久夫氏(日本社会事業大学教授・内閣府障害者政策委員会委員)による「障害の定義と障害者政策を考える」(仮題)、星加良司氏(東京大学教育学研究科講師)による「社会学からみた障害の概念」(仮題)のご講演をいただきます。いずれも、わが国の障害の概念に関する研究者としては第一人者です。2日目のメインシンポジウムでは、『障害』と『支援』を考える」と題し、大島巖氏(日本社会事業大学学長)、川内義彦氏(東洋大学ライフデザイン学部教授)、八巻知香子氏(国立がん研究センターがん対策情報センター研究員)の各氏にご登壇いただく予定です。

会場となる東洋大学・朝霞キャンパスは、都心からの電車等の交通の便がよく、1時間程度のところに位置しています。詳細な情報は今後ホームページを中心に、皆様にお知らせしていきたいと思えます。第39回大会に、ぜひとも多くの皆様にご参加していただき、議論を大いに盛り上げていただけたらありがたいと思えます。

1. 開催概要

日時：2013年5月18日(土)、19日(日)

場所：東洋大学・朝霞キャンパス

http://www.toyo.ac.jp/access/asaka_j.html

メインテーマ：「障害」と「支援」をどう考えるのか

大会ホームページ：<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2013/>

大会事務局：筑波大学・東京キャンパス・小澤研究室

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

開催校事務局：的場智子(東洋大学・朝霞キャンパス)

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡 48-1

2. 参加費

		事前申し込み 2013/3/31 まで	当日参加 2013/4/1 以降
大会 参加費	一般 会員	5000 円	6000 円
	一般 非会員	6000 円	7000 円
	学生 会員	3000 円	4000 円
	学生 非会員	4000 円	5000 円
懇親会費	一般・学生 (会員・非会員とも)	4000 円	

※大会当日の参加費の支払いには、つり銭のないようにご協力をお願いいたします。

3. 事前参加申し込みについて (2013年3月31日(木)まで)

同封の振り込み用紙または郵便局備え付け振り込み用紙にてお振り込み下さい。
 その際、通信欄にお振込み内容の詳細をご記入ください。
 なお、手数料は振込み人負担となります。

ゆうちょ銀行 振替口座

口座番号： 00100-8-512821

口座名称： 第39回日本保健医療社会学会大会

早めの参加申し込み
 がお得です。

※2013年4月1日以降は当日参加費が適用されます。

4. 一般演題申し込みを受け付けています。〈締め切り：2013年1月31日(木)〉

- ・ 一般演題は口演とポスター発表で募集します。
- ・ 発表者（共同演者を含む）は本学会会員に限ります。単年度会員制度を設けていますので、非会員の方と共同発表をご予定の場合は手続きをお願いします。
- ・ 発表内容は未発表のものに限り、また一般演題の登録は一人につき1演題とします。共同演者としての登録はこの限りではありません。
- ・ 今大会よりインターネット（Web）にて受付致します。
 - ① 大会 Web サイト (<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2013/>) の「演題募集案内」ページにアクセスし、申込要領をご一読ください。
 - ② 下記「抄録の作成要領」に従って、Microsoft Word にて抄録を作成ください。
 （「演題募集案内」ページにテンプレートを用意しています。ダウンロードしてご使用ください。）
 - ③ 「演題募集案内」ページの「演題登録」ボタンをクリックして「ログイン画面」に進み、まず「受付IDを取得する」ボタンをクリックして「申込者氏名」「電話番号」「メールアドレス」を登録してください。（予備登録）
 - ④ 登録したメールアドレス宛に、「受付ID」が配信されます。（受付ID取得）
 - ⑤ 取得した受付IDと登録メールアドレスにて「ログインする」ボタンからログインし、基本情報の入力と、抄録ファイルのアップロードを行ってください。（本登録）
 基本情報：「1.演題名」「2.発表者全員の氏名」「3.発表者全員の所属」「4.発表者全員の会員区分」「5.希望発表形式（口演、ポスター発表、どちらでもよい）」 1～3の登録情報がプログラムに掲載されます。抄録記載と相違のないようご入力ください。
 - ⑥ 本登録完了後、登録したメールアドレス宛に完了通知が配信されます。（演題申込完了）

※Web 登録に関するご不明な点は、Web 受付ヘルプデスク (jshms-desk@bunken.co.jp) 宛にお問合せください。

・ 抄録の作成要領

- ① A4判横書き、40字×40行、明朝体、余白は上下25mm、左右22mm、抄録はB5に縮小されますので図表などを入れられる場合には文字のポイントにご注意ください。
- ② 演題：第1行に中央寄せ（14pt）副題：あれば第2行に中央寄せ（12pt）、氏名（所属）：題から一行あけて右寄せ（10.5pt）連名の場合は発表者に○をつけてください。

③ 本文：氏名（所属）から一行あけて始める。

※図表を使用する場合は、Web 登録とは別に、PDF ファイルを e-mail 添付にてヘルプデスク（jshms-desk@bunken.co.jp）宛にご提出ください。メール件名を「一般演題 PDF」とし、メール本文に「受付 ID」「申込者氏名」をご記入ください。

Ⅲ. 自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション (RTD) 公募について

第 39 回大会における「自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション」を公募します。詳細については大会ホームページ（<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2013/>）を参照にし、同ページ上にある企画申込書に記入の上、メール送信してください。

〈応募締め切り：2012 年 12 月 21 日（金）まで〉

（研究活動担当理事・関東：朝倉 京子、小澤 温）



原田正純 名誉会員 ご逝去

日本保健医療社会学会名誉会員 原田正純氏が、平成 24 年 6 月 11 日にご逝去されました。これまでの故人の功績を讃えるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



Ⅳ. 原田正純先生追悼企画

原田正純先生の死を悼む

田口 宏昭（熊本大学名誉教授）

原田正純先生が 2012 年 6 月 11 日、急性骨髄性白血病のため 77 年の生涯を閉じられた。先生には 2005 年、熊本学園大学で開催された第 31 回大会のシンポジウム「水俣病問題からの問い」において報告者・パネリストとしてご登壇いただいたが、あらためて日本保健医療社会学会の会員の皆様とともにそのご冥福を祈りたい。

思えば先生の水俣病研究の道程はとても長い。現場に立脚した学問研究の重要性を強調された生き方について、若干の点に照準を合わせて振り返り、私たちの未来への歩みの抛り所としたい。

原田先生は 1934 年に鹿児島県にお生まれになり、1959 年熊本大学医学部を卒業、1960 年同大学院に進学された。大学院の課程を終えたのち附属病院助手を経て 1972 年学内の研究所の助教授となられた。1999 年から熊本学園大学社会福祉学部教授となられ、人間と環境の総合学とも言うべき「水俣学」の方向性を後進に示された。この間教育者、研究者、臨床医として、水俣病患者の検診、水俣病の解明と、その知識の普及、水俣病裁判の患者側証人として活躍され、先生らしい人生の全行程を完歩されたのである。

顧みれば、水俣病が水俣市において発生が確認されたのは先生がまだ学部学生であった 1958

年5月のことである。それから2年後大学院生になり医師免許を取得した原田先生は翌61年の夏水俣市を訪れた。それはちょうど反「日米安保」闘争が燃え盛り、また高度経済成長による「豊かな社会」の足音が聞こえはじめた時代である。

そのような時期に先生は有機水銀の被害の実態を明らかにすべく、水俣の海辺の集落の家々に足しげく通い、患者の発掘に努められた。聞くところによると先生は初めから、立場の弱い患者と膝突合せ、この人たちから学びつつこの人たちを支援したいという気持ちを一貫してもっておられた。その人柄の率直さ、人間としての器の大きさによって患者やその家族から親しみと深い信頼をもって迎えられた。

現場に立脚し、そこから問題の真相を究明していくという原田先生の、この終始一貫した姿勢から私たちは三つの意味をくみ取ることができると思う。

第一に、人間と人間にかかわる事象に向き合い「続ける」には深い共感というエネルギーは欠かせないのであるが、そのエネルギーは現場にたつて虚飾を捨てて人間と向きあう経験から産み出される。原田先生が臨床医として患者やその家族の生の声に終始耳を傾けてこられたのはこのゆえである。結果としてこの姿勢が、他の多くの専門家や患者との協同の過程を経て水俣病の原因究明、病像の確立に寄与することになる。

第二に、水俣病が単に医学の問題であるにとどまらず、「社会病」としての性格をあわせもつ、との先生の認識が頻繁に現場に立つことによって獲得された。水俣病患者の発生が地域的な広がりをもっていることを知るにつれて、この未知の疾患と病因の複雑な連鎖を解き明かすためには、あらゆる可能性を視野に入れる必要があることを先生は痛感された。身体レベルにとどまらず、患者の生業、職業を含む生活構造全般、地域社会の政治・経済構造等々にまで、である。

第三に、現場はある意味においていつも新鮮であるということである。現場に立つことは、定説や思い込みの自縄自縛から解き放たれることに役立つ。のちに先生が現場立脚を重視する「水俣学」を提唱されたのも、専門家が現場を離れると、真実を見失い、権威を守りたいがために定説、自省なき仮説に固執するという姿を目の当たりにする苦い経験をされたからであろう。

さてこのような現場立脚の実践の過程で炙り出されてきたのは、周知のとおり水俣病の直接の原因は有機水銀であり、それを垂れ流してきた企業の社会的責任感の欠如であった。そしてその欠如が水環境を汚染し、その汚染が甚大な健康被害をもたらしたのである。

ここで原田先生の功績としてとりわけ注目しておかなければならないのは、胎児性水俣病の存在の科学的な立証である。すなわち胎児が母親の胎内で「へその緒」を経由して有機水銀を取り込み、胎児の発育中の脳が不可逆的な損傷を受けることを証明するために、先生は胎児性水俣病患者の症例を可能な限り集めて病理解剖を進め、胎児性水俣病の存在を人類で初めて医学的に立証された。因みに論文「先天性（胎児性）水俣病の臨床的疫学的研究」によって1965年、日本精神神経学会賞を受賞された。

この胎児性水俣病の存在の立証は、有機水銀の胎児への深刻な影響の問題にとどまらず、現代人が日常的に食物を通して摂取し、皮膚を通して吸収し、あるいは呼吸器を通して吸引する多種多様な環境ホルモンの胎児への底知れぬ影響を示唆している。

水俣は終わっていない。先生が実践的な水俣病研究を通して人類の未来への大いなる警鐘を鳴らし続けられたことを深く心に刻み込み、次世代に伝えていくことは私たちの責務であろう。



V. 理事会報告

平成 24 年度 第 2 回理事会

日時：2012 年 8 月 30 日（木） 13：00～16：00 場所：立教大学 12 号館 2 階会議室

出席者：野口会長、蘭理事、伊藤理事、小澤理事、金子理事、木下理事、

事務局 金村（記）

欠席者：朝倉理事、池田理事、佐藤理事、山崎理事

<議題>

1. 第 38 回大会報告（蘭理事）

第 38 回大会長及び事務局長の代理として蘭理事より第 38 回大会の収支報告が行われた。参加者数は延べ 212 名、収入は 1,465,000 円、支出は 1,465,062 円と 62 円のわずかな赤字で盛大に終了したことが報告された。支出の中には学会からの大会補助金を全額返還したことが含まれており、参加費収入のみで健全な運営が行われた。会場費の削減と、HP は大学教員ボランティアで作成してもらうなどスタッフの協力が大きかった。

2. 第 39 回大会進捗報告（小澤理事兼第 39 回大会長）

第 39 回大会長の小澤理事より大会準備の進捗状況について報告が行われた。

6 名程度で企画委員会を構成し、大会のテーマ選定や企画に当たっており、メインテーマは『「障害」と「支援」をどう考えるか』で進めていることが報告された。

1 日目には大会長講演と基調講演 2 題を予定し、基調講演は、テーマに沿って佐藤久夫先生（日本社会事業大学）と星加良司先生（東京大学）に依頼し快諾を得ていることが報告された。2 日目は、シンポジウムと RTD を予定しており、シンポジストとしては、ユニバーサルデザイン建築学関連、政策関連、社会学関連で 3 名の予定であることが報告された。

RTD の募集については、主催校や学会側の意向に沿って今後内容と日程等を決めていく予定であることが報告された。

メイン会場は、東洋大学朝霞キャンパスにある 2 号館 1 棟のみを使用する予定であり、大会 HP の立ちあげについては、国際文献印刷社に演題募集・投稿システムを含め見積を取っており、一部業務を委託する方向で調整することが報告された。

なお、東洋大学を会場とするため混乱回避を考慮し、第 39 回大会校の公式表記は今後「筑波大学・東洋大学共催」とすることになった。

3. ニューズレター88号の発行（伊藤理事）

広報担当の伊藤理事よりニューズレター88号の発行スケジュール及び掲載内容について報告が行われた。主な掲載内容は、第 39 回大会長挨拶及び大会告知、故原田正純先生の追悼記事であることが報告された。発行時期について、第 39 回の準備状況に合わせ、11 月に発行することが決定された。

4. 編集委員会報告（蘭理事）

編集委員長の蘭理事より、編集委員会開催状況、論集の準備状況、そして電子ジャーナル化に向けた調査状況について報告が行われた。

編集委員会開催状況については、ML 上で査読判定等のための随時持ち回り会議が行われ、10 月 14 日に第 3 回編集委員会を開催予定であることが報告された。

論集の編集状況については、23 巻 1 号を 7 月 20 日付けにて発行し、特集 7 本、原著 3 本、奨励賞報告、総括等計 115 頁の構成であったことが報告された。

23 巻 2 号については、38 回大会報告及び大会長講演、教育講演、シンポジウム報告等 4 本及び原著 3 本、研究報告 1 本の掲載が確定していることが報告された。

電子ジャーナル化にむけての準備については、山崎編集副委員長、中村編集委員のほうで当たっており、5 月に J-Stage を訪問し説明を受けたことが報告された。前編集委員会からの申し送り事項として、電子ジャーナル化を検討してきたが、当初検討を始めた時と現在では状況が変わっていることが報告された。現在 J-Stage を利用するためには、PDF 作成及びアップロード、編集等の作業は学会内で行う必要があり、その作業を国際文献印刷社に依頼した場合、ページ当たり 350 円、アップロード費用として 1 号あたり 35,000 円の見積が出たことが報告された。Cinii 利用の場合は、この費用は不要とされている。但し J-Stage は過去の論集を電子化することはできないので、Cinii と併用するかどうか、電子化した場合の紙媒体での印刷や公開範囲など検討しなければならないとの意見があった。

次回理事会時に、想定される費用見積について入手し審議を継続することになった。

5. 定例研究会の報告、企画について(関東) (小澤理事・朝倉理事)

小澤理事より定例研究会(関東)の企画について報告が行われた。第 217 回研究会は 9 月 16 日、来年大会に向けたテーマとリンクする内容で、筑波大学東京キャンパスにて佐藤恵先生を迎え「自立と支援の社会学」をテーマで行うことが報告された。

第 218 回研究会は、現在 2013 年 2 月～3 月に開催予定として、朝倉理事が看護部会との合同研究会開催で調整していることが報告された。

6. 定例研究会の報告、企画について(関西) (佐藤理事・池田理事)

ニューズレター 87 号にて報告済み。

7. 渉国際活動(および社会学系コンソーシアム) (金子理事)

金子理事より、8 月にブエノスアイレスで行われた ISA2012 大会や 2014 年横浜大会について報告が行われた。2014 年 ISA 横浜大会に向けては、RC15 をサポートする意思があることを表明しているが、まだ具体的なサポート内容を理事会で議論していないため、学会の対応としてはまず、国際交流委員会委員長の金子理事が正式な窓口として RC15 執行部への報告と今後の進行を協議することとした。

今後は、金子委員長が RC15 執行部と直接連絡を取ることとし、アドバイザーとして姉崎正平先生(RC15 理事)から助言をいただくことになった。

8. 2014 年 ISA 横浜大会・R15 への本学会の関わり方について(野口会長)

上記 7 の議題に含まれるため省略

9. 名誉会員の役職解除及び HP での氏名掲載について(木下理事)

木下理事より、現役役員が任期途中で名誉会員になった場合の役職解除について提案があり承認された。また、名誉会員の氏名をホームページに掲載することが提案され承認された。

10. HP の充実化について(伊藤理事)

伊藤理事より、先立って理事 ML でホームページでの学会概要等情報が足りないことについて指摘をうけ、今後の改善案について提案が行われた。参考情報として、日本健康教育学会、日本産業衛生学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会のホームページ資料が提出され、比較検討を行った。全面リニューアルのためには予算化が必要なため、当面は現ホームページの構成を維持しつつ、内容の充実を図ることで一致した。

11 月のニューズレター 88 号の送付時期を目途に、ホームページに学会概要または会長挨拶を掲載することで決定した。また、看護ケア部会からの要望として、現在の定例研究会同様過去の

看護ケア部会研究会報告が閲覧できるよう、メニューに看護ケア部会を追加することで承認された。ホームページの更新については10月より調整を行う。

11. 震災による年会費減免申請について（木下理事）

木下理事より、会員1名から震災による年会費減免申請の報告があり、承認された。

12. 入退会者の承認（木下理事）

木下理事より、5月21日～8月24日まで入金が確認された新入会者10名と、物故1名、退会2名の報告が行われた。新入会者リストの所属に確認が必要な対象者が数人あり、事務局より後日訂正リストを理事MLで報告することを前提に承認された。

13. 会員専用ページ導入提案について（事務局）

事務局より、会員専用ページ導入に向けての概要説明や導入手順について説明が行われた。導入に当たり、予算との関係もあり、会員番号とパスワードの周知案内の方法や費用に関する見積を次回理事会で提出し、継続検討とした。

14. その他

なし

15. 次回の理事会日程

11月18日、12月1日で調整

以上

（総務担当理事：木下康仁）

VI. 編集委員会報告

- 1) 第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を10月14日国際文献印刷社にて開催いたしました。9月締切論文の査読者の選定等の編集作業および各種事項を審議しました。
- 2) 電子ジャーナル化に向けて。前期編集委員会ではプラットフォームとしてJ-stageを用いることを決定していましたが、当時無料で提供されていたJSTアーカイブ事業の廃止やファイル準備のための必要経費等を考慮して、再度検討しているところです。また、電子ジャーナル化を見越して「投稿規程」等の改訂（著作権に公衆送信権を含める）を行いました。さらに、学会に著作権が譲渡されていない過去の論文について、著作権譲渡の公示を行う準備を進めることを決定しました。準備が整い次第、学会ウェブサイトおよびニューズレターでお知らせします。
- 3) 「執筆要項」も改訂しました。『論集』が2段組に印刷されるようになったことにとまなう若干の措置です。また、未発表論文であるかどうかの判断基準に日本社会学会『社会学評論スタイルガイド（第2版）』の規定を準用することを明記しました。
- 4) 発行年の表記について。国立国会図書館などのデータベースに、裏表紙等の表記がそのまま収録されるため、表紙などにおいてこれまで採用していた発行‘年度’の表記をやめ、発行‘年’の表記に変更することにしました。次号23巻2号から変更します。

（編集担当理事：蘭 由岐子）

VII. 研究活動報告と案内

1) 研究活動報告

<報告：217 回定例研究会（関東）>

2012年9月16日に、筑波大学文京キャンパスにおいて、佐藤恵氏（法政大学キャリアデザイン学部准教授）により、「自立と支援の社会学：阪神大震災とボランティア」というテーマで1時間程度の報告がなされ、その後1時間程度の質疑を行った。佐藤氏の報告は、最初に、自らの研究の立場を概括的に述べた後、著書である「自立と支援の社会学：阪神大震災とボランティア」（東信堂、2010年）の内容の説明を中心に行われ、最後に、東日本大震災への示唆に関して資料をもとに説明がなされた。内容は、阪神大震災を契機とした障害者と支援者による「支えあい」の取り組みとそれに関わる第三者（コミュニティ、市民の共感、行政）との関係について、神戸市での現場での聞き取りをもとに、社会的に考察したことを、著書の章立てにそってポイントを絞った説明がなされた。その後の質疑では、災害時、緊急時の行政をどう考えるのか、東日本大震災でも阪神大震災でみられた課題が再現したこと、などの点について意見交換がなされた。（文責：小澤 温）

（研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温）

<報告：看護・ケア研究部会：2012年度 第1回・第2回定例研究会>

2012年度第1回定例研究会が、6月30日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、白瀬由美香さん（国立社会保障・人口問題研究所）が「イギリスの看護師の専門性と自律性：資格・教育・人事システムに基づく考察」について報告しました。報告要旨は次の通りです。看護師の役割や業務範囲の在り方に関する近年の議論では、アメリカのNPやCNSなどを事例とした高度実践看護師の状況がしばしば言及されている。しかしながら、医療制度や専門職資格体系に関する日本との社会的基盤の違いについては必ずしも議論がなされていない。本報告は、諸外国の看護師制度をどのように理解すればよいかという問題関心のもと、イギリスの看護師の資格・教育・人事システムについて検討を行った。その上で、看護師の専門性と自律性に関する特徴について考察をした。イギリスでは基礎教育段階から成人・小児・精神保健・知的障害という4つの分野別に看護師が養成されており、その後のキャリアパスについても、限られた範囲（診療科、疾病、年齢層）の患者を対象とした実践の高度化を追求していくシステムとなっていた。さらに、専門性の追求とは臨床実践だけを指すのではなく、マネジメント、教育、調査研究という4つの方向性があった。そして、看護助産協議会（NMC）という団体が看護師免許の管理（3年ごとの登録の更新、免許の取り消し）、養成カリキュラムの認可などを行っていることは、看護職が国家や他の医療専門職、一般市民に対して、職業集団として自律性を持つことを示していると考えられた。イギリスでは看護師の従事する業務範囲が法令等で規定されておらず、臨床現場における各々の看護師は、雇用契約で定められた範囲内で自律的な活動をしていた。こうした事実に対して、会場の参加者からも多くの質問、意見が出され、日本の看護師が置かれた現況についても活発な議論がなされた。

第2回定例研究会が、9月15日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、まず、朝倉京子さん（東北大学）が「看護師の自律的な判断の様相」について報告しました。報告要旨は次の通りです。臨床経験の豊富なジェネラリストの看護師達がどのように自律的な判断を行っているのかを質的帰納的に明らかにすることを目的とし、臨床経験8年目以上の看護師19名に半構成的面接を行った。分析の結果、3種類5つのカテゴリーが抽出され、経験豊富な看護師達は

患者の希望や意思をつなぐという共通の目標に向かって、自らの知覚を駆使し他の看護師と判断を共有しながら、療養上の世話に係る判断を自律的に行う一方で、医師の指示を吟味し、必要な場合は医師の指示を補うほどの影響力を有する自律的な判断を下している様子が記述された。報告後、学際的な意見交換が行われ、今後の分析の方向性について重要な示唆を得た。

次に、谷川千佳子さん（北海道大学大学院）が「看護職場の労働編成」について報告しました。報告要旨は次の通りです。100床台規模病院の外来看護部門を事例に、参与観察と聴き取り調査から外来看護労働の構造を労働編成と労働過程のあり方の実態を報告した。労働編成については特に看護の職場における能力主義管理に基づく人事労務管理と配置について取り上げた。労働過程については、外来診察の実際を時系列で観察し、そのスケジュール管理と人員配置の教育的志向性をとりあげた。総じて、職務遂行には立体的な能力が求められ、日々訓練が行なわれているとの趣旨で報告した。質疑応答では、看護を国内の一産業として位置づけようとするならば他産業との対比があると見えやすいだろう、電子カルテ化や人員配置合理化は当該規模の医療機関でも今後推進されると見込まれるため研究対象施設の規模を広げることを勧める、労働過程分析のための観察方法再考についてなど多くのご助言を賜った。今後も看護師自らの陶冶とそのインセンティブ、それを支える組織的構造の実態に迫りたい。

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

（看護・ケア研究部会長：三井 さよ）

2) 案内

<第 218 回定例研究会（関西）>

日 時：平成 25 年 2 月 9 日（土）13:30～17:30

場 所：関西学院大学大阪梅田キャンパス 1403号室
（阪急「梅田駅」茶屋町口改札口より北へ徒歩 5 分）

参照 URL：http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/

講 師：藤井ひろみ先生／神戸市看護大学、ほか 1 名を予定（現在調整中）

司 会：佐藤哲彦（関西学院大学）

タイトル：患者と保健医療従事者のためのクィア・スタディーズ入門

概 要：今回の研究会は「患者と保健医療従事者のためのクィア・スタディーズ入門」と題し、クィア・スタディーズと保健医療社会学の接点について検討する。保健医療の現場には人間のセクシュアリティが露わになる場面が少なからずある。そこでまずクィア・スタディーズの基本的概念枠組みについて議論し、そののち、藤井ひろみ先生より「看護における対象理解とクィア・スタディーズ」と題して、具体的な保健医療実践のなかでそれがどう関わっているのかについてお話しいただく。今回は、クィア・スタディーズを通じて保健医療の現場における多様な患者の様々なセクシュアリティに纏わる現象が、どのように解釈可能となるのか、その可能性を共に考えてみたい。

連絡先：佐藤哲彦

（研究活動担当理事・関西：池田光穂、佐藤哲彦）

< 第 219 回定例研究会（関東） >

日 時：平成 25 年 3 月 3 日（日）14:00～16:00

場 所：筑波大学東京キャンパス 4 階 432 教室（茗荷谷駅 徒歩 5 分）

講 師：田中俊之先生/学習院大学等非常勤講師

テーマ：現代日本社会における自殺者数の推移について——男性学の視点から

概要：日本では、1998 年に年間の自殺者数が 3 万人を突破する。その後、2003 年の 34,427 人をピークに、2011 年まで連続して 3 万人という数字が続くことになる。男性の自殺者数は、1997 年の 16,416 人から翌 1998 年には 23,013 人と急増し、2011 年の 20,955 人にいたるまで 14 年連続して 2 万人代であった。人口 10 万人当たりの自殺者数である自殺死亡率でみれば、過去最悪の数字となった 2003 年の 40.1 は、女性の 2.77 倍に達している。指摘しておかなければならないのは、バブル期の 1986 年から 1990 年においても日本では自殺者は 2 万人を超えていたという事実である。そして、今日ほどではないにせよ、その数にはやはり男女差があった。すなわち、自殺においてはもともと男女差があり、1998 年以降に、その差を広げるような要因があったと理解するのが適切である。このように性別によって大きな偏りのある自殺という現象を、男性学の視点から考察する。

連絡先：小澤 温

（研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温）

< 看護・ケア研究部会：2012 年度 第 3 回定例研究会 >

日 時：11 月 10 日（土）13:30～17:00

場 所：東京女子医科大学看護学部 第 1 校舎 123 教室

第 1 報告者：安藤こずえさん（東京女子医科大学病院）

タイトル：認知症高齢者が一人暮らしを継続するための支援のありよう

第 2 報告者：清水準一さん（首都大学東京）

タイトル：保健医療系調査におけるテキストマイニングの活用（仮）

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

（看護・ケア研究部会長：三井さよ）

VIII. 涉外国際担当理事報告

1) 2014 年 7 月、ISA (International Sociological Association、国際社会学会) の第 18 回世界社会学会議 (World Congress of Sociology) が横浜で開催されます。世界の社会学者と交流を深める良い機会ですので、会員の皆様は積極的な参加をご検討ください。

・日程：2014 年 7 月 13～19 日

・場所：横浜（日本）

・テーマ：Facing an Unequal World: Challenges for Global Sociology

横浜大会に関する詳細について、ISA および日本社会学会が情報を発信しておりますので、そ

ちらのウェブサイトをご参照ください。

- ・ISA（国際社会学会） <http://www.isa-sociology.org/congress2014/>
- ・日本社会学会 <http://www.wcs2014.net/>

また、本学会 HP に ISA 横浜大会のページを設けました。随時情報を掲載する予定です。

2) ISA 横浜大会以外にも、学会 HP（関連団体等の情報）に保健医療社会学関連の国際会議情報を掲載します。学会 HP に掲載してほしい国際会議の情報がありましたら、ご連絡ください。

連絡先：金子雅彦

（渉外国際担当理事：金子雅彦）

IX. メール配信の運用開始について

学会の緊縮財政下でニューズレターの発行回数が減るなど、学会からの情報発信の機会が少なくなっております。それを補完するため、また時機を得た情報発信のため、メール配信の運用を進めていきます。

まずは11月末までに第39回大会告知をメールにて配信しますので、それが届かない会員の方は、学会事務局にお問い合わせいただき、会員の登録情報の確認と更新をお願いします。会員情報届用紙は、学会ホームページからダウンロードできます。なお、登録情報は、会務の遂行、会員へのサービスの提供、これらに付随する目的のみで利用します。

（広報担当理事：伊藤美樹子）

X. 新入会員および退会者の承認

※個人情報のため、省略。

編集後記

本学会がどんな学会なのか、もっと分かりやすくすべきではないかというところから今回のホームページ改訂作業が始まりました。理事会や学会事務局担当者と改訂をすすめてきましたが、いかがでしょうか。学会事務局宛に感想などをお寄せいただけると幸いです。（み）



Contents		発行: 日本保健医療社会学会 編集: 伊藤美樹子 学会事務局・印刷: (株)国際文献社 東京都新宿区山吹町 358-5 jshms-office@bunken.co.jp
I. 第 39 回大会長挨拶	VII. 研究活動報告と案内	
II. 第 39 回大会案内	VIII. 新入会員および退会者の承認	
III. 西 三郎先生追悼	IX. 学会誌電子アーカイブ化に関する告知	
IV. 理事会報告		
V. 渉外国際担当理事報告		
VI. 編集委員会報告		

I. 第 39 回大会長挨拶

小澤 温 (筑波大学)

今冬は例年以上の厳しい寒さですが、その中でも徐々に春の気配を感じる季節となりました。5月18日(土)、19日(日)の第39回大会まで、あと3ヶ月となりました。

メインテーマである「『障害』と『支援』をどう考えるのか」の主旨、これに関連する教育講演2本、シンポジウムの内容につきましては、すでに先のニューズレターでお伝えしたとおりです。この他、多彩なテーマの5題のラウンドテーブル・ディスカッションの応募が得られ、一般演題も徐々に集まってきており、大会の全体像も見えてまいりました。

今回は、事務局(筑波大学・東京キャンパス)と大会校(東洋大学・朝霞キャンパス)とが異なり、変則的な開催ですが、緊密な連絡を取りながら少しずつ準備を進めています。ただし、変則的な開催のため至らない点も数々あると思いますが、参加者の皆さまに実りある議論と豊かな交流をしていただける環境を整えるようできる限り最善を尽くす所存です。多くのみなさまのご参集をいただけますよう、担当者一同心よりお待ち申し上げます。

II. 第 39 回大会案内

大会1日目: 5月18日(土) 12:00~18:30: 参加者受付

9:30~11:30	理事会
11:30~12:50	評議員会
13:00~15:00	編集委員会
13:00~14:40	一般演題セッション(口演)
13:00~15:00	ラウンドテーブル・ディスカッション 「病の語り: 哲学と人類学・社会学の架橋」
15:10~15:40	大会長講演 小澤 温 (筑波大学) 「今改めて『障害』と『支援』を考える」
15:50~16:50	教育講演1 「障害の定義と障害者政策を考える」 佐藤 久夫 (日本社会事業大学・内閣府障害者政策委員会)
17:00~18:00	教育講演2 「社会学からみた障害の概念」 星加 良司 (東京大学大学院教育学研究科)
18:30~20:30	大会懇親会 (東洋大学 朝霞キャンパス 食堂)

大会2日目: 5月19日(日) 8:50~16:30: 参加者受付

9:00~10:20	一般演題セッション(口演)
9:00~11:00	ラウンドテーブル・ディスカッション
10:30~11:25	ポスターセッション発表
11:30~12:30	総会 園田賞(第7回日本保健医療社会学会奨励賞)授賞式

12:20～13:00	看護・ケア研究部会総会
13:00～15:00	シンポジウム 「『障害』と『支援』を考える」 シンポジスト 八巻 知香子 (国立がん研究センター) 川内 義彦 (東洋大学) 大島 巖 (日本社会事業大学)
15:10～17:10	一般演題セッション (口演)
15:10～17:10	ラウンドテーブル・ディスカッション

参加費 (事前参加申込は 2013 年 3 月 31 日 (日) まで)

	事前申込 (2013/3/31 まで)	当日受付 (2013/4/1 以降)
学会員	5,000 円	6,000 円
非学会員	6,000 円	7,000 円
学生 (学会員)	3,000 円	4,000 円
学生 (非学会員)	4,000 円	5,000 円
懇親会費	4,000 円	

※ 大会当日の参加費の支払いには、つり銭のないようにご協力をお願いいたします。

参加費支払い方法

- ・ 学会員の方は、2012 年 11 月発行のニューズレター-88 号および 2013 年 2 月発行のニューズレター-89 号に添付されている郵便払込票をご利用ください。
- ・ それ以外の方は、郵便局にある郵便払込票の通信欄に以下の内容をご記入の上、下記のゆうちょ銀行振替口座に参加費をお振込みください。
 - 学会員／非学会員
 - 学生
 - 懇親会参加の有無
 - 氏名 (ふりがな)
 - Email アドレス
 - 所属機関名
 - 住所・電話番号

払込先 ゆうちょ銀行 振替口座 口座番号：00100-8-512821 加入者名：第 39 回日本保健医療社会学会大会

- ・ 「払込取扱票」は、お一人様につき 1 枚の利用をお願いします。払込手数料はご自身の負担となります。
- ・ 「払込取扱票」をもって領収書にかえさせていただきます。年次大会まで大切に保管してください。
- ・ 払いただいた参加費は、いかなる理由でもお返ししませんのでご了承ください。

東洋大学・朝霞キャンパスへのアクセス (東洋大学ホームページ <http://www.toyo.ac.jp>)

- 東京・羽田方面より
東武東上線、地下鉄有楽町線、地下鉄副都心線「朝霞台」で下車 (池袋から所要時間 約 18 分、急行・準急利用)、徒歩 10 分
- 大宮・八王子方面より
JR 武蔵野線「北朝霞」で下車、徒歩 10 分

大会ホームページ：<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2013/>

大会事務局：筑波大学・東京キャンパス・小澤研究室
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

大会校事務局：事務局長 的場智子 (東洋大学・朝霞キャンパス)
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡 48-1

西 三郎 名誉会員 ご逝去

日本保健医療社会学会名誉会員 西 三郎氏が、平成 24 年 11 月 23 日にご逝去されました。これまでの故人の功績を讃えるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

Ⅲ. 西 三郎先生追悼

「偉大なる業績を引き継ぎながら、今後へと発展させていく必要性」

星 旦二（首都大学東京）

西 三郎先生が、2012 年 11 月 23 日（金）に御逝去されました。まさに、「巨星落ちる」の思いです。

学会事務局より、西先生の追悼文依頼が私に参りました。私が西先生にとってもお世話になったことは事実ですが、著書や学術論文での共著がないことから固辞してきました。ただ、「他にはいない」との理事長からのお言葉をいただき、十分な追悼文にはなりにくいことを前提で、書かせていただくことにいたしました。

先生は、1927 年に東京にお生まれになり、千葉医科大学をご卒業後、同大学院医学研究科を卒業され医学博士を取得されています。その後、厚生省国立公衆衛生院（現国立保健医療科学院）の公衆衛生学部の部長、その後には、東京都立大学人文学部教授、愛知みずほ大学学部長などをされていらっしゃいました。

科学研究では、「市町村保健福祉計画の計画行政学的視点からの評価に関する研究」がありました。出版活動も多分野にわたり旺盛であり、保健医療福祉関係の教科書だけではなく、「透析者のくらしと医療」「難病ケアシステム」「医療福祉学の道標」「介護サービス計画策定の基礎知識」「高齢者ケアアセスメント事典」「医療費の統計と分析—政府管掌健康保険を中心とする実証研究（1974 年）（経済企画庁経済研究所研究シリーズ〈第 29 号〉）」など、幅広い分野での優れた実績を持っておられました。

私は、個人的にもご指導いただき、特に「公衆衛生行政」に関することがメインでした。私たちが立ち上げた、保健所・保健センター現場事例を重視する「いきいき公衆衛生の会」は、毎年の夏ゼミと、日本公衆衛生学会総会での自由集会を開催しましたが、先生は、途絶えることなく参画されていらっしゃり、若い世代への厳しいご指導とともに、常に暖かいアドバイスを数多くいただきました。事実、公衆衛生に関わる多くの職種からの厚い信頼を得ていました。

先生が大事にされていらっしゃった本質的な理念の一つは、「公的責任」の重要性だったのではないかと考えています。様々な事例検討で思い起こすことは、この言葉の具現化でした。今でも記憶が鮮明に残っています。

私は、後追的に、国立公衆衛生院、東京都立大学勤務を追いかけていったようです。先生が蓄積なさった、公衆衛生の体系をより発展できるよう努力し、追いかけて追い越すべきことを改めて銘記しようと思いました。「天国での安らかなくらし」をお祈りいたします。偉大な功績に対し、舌足らずの追悼文で申し訳なく思います。

Ⅳ. 理事会報告

《平成 24 年度：第 3 回理事会報告》

日時：2012 年 12 月 1 日（土） 13：00～16：00

会場：（株）国際文献社 アカデミーセンター 4 階会議室

出席者：野口会長、蘭理事、伊藤理事、小澤理事、金子理事、木下理事、事務局 金村（記）

欠席者：朝倉理事、池田理事、佐藤理事、山崎理事

<議題>

1. 第39回大会進捗報告（小澤）

- ・小澤理事より第39回大会準備進捗状況について報告が行われた。
- ・ニューズレター88号に参加費振込用紙を同封し、演題及び参加申込案内を行った。振込用紙はニューズレター89号発送時にも同封する。ポスター類も89号送付時に同封する予定である。
- ・また11月22日付けで学会ホームページに大会告知案内を掲載したことが報告された。
- ・演題発表募集及び抄録投稿受付は第39回ではWEB受付のみとし、RTDは演題のエントリーをWEBで行うことが報告された。各種登録の締切については、RTDのエントリー締切は12月、RTD抄録締切は2月末を予定とする。一般演題抄録投稿締切は1月末としているが、登録状況次第では延長になる可能性もある。

2. ニューズレター89号の発行（伊藤）

- ・伊藤理事よりニューズレター89号の発行予定と内容について報告が行われた。
- ・また、メール斉配信システムを積極的に利用し、定例研究会開催の1か月前を目途にメール配信を行う方針であることが報告された。

3. 編集委員会報告（蘭）

- ・蘭理事より編集委員会活動状況について報告が行われた。
- ・論集第23巻2号には、第38回大会報告及び原著2本、研究ノート2本の掲載が確定していることが報告された。
- ・継続審議となっている電子ジャーナル化については編集委員会内での議論の結果、費用の面を考慮し、当面は国立情報学研究所電子図書館（以下NII-ELS）を利用することが提案され承認された。
- ・電子版の公開は学会誌発行から1年半後に行うこととする。
- ・電子版公開に先立ち著作権委譲の確認が必要なため、ホームページやニューズレターで公示を行うことが決定され、ホームページでの案内を12月に先行して行い、ニューズレターでの案内は、2月発行予定の第89号で行うことが承認された。
- ・任期途中で委員交替になる場合に備え、編集委員会規程4.の改訂について提案が行われた。なお、改訂後の文言は以下の通り。

改) 4. 編集委員会構成員の任期は、理事の任期と同じく2年とする。なお任期途中で構成員の交代があった場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

- ・論集表紙に記載している学会誌の年度表示について、国立国会図書館などのデータベースでは、裏表紙等の表記がそのまま収録されるため、これまでの発行年度の表記をやめ、発行年の表記に変更することにした。表表紙、裏表紙の巻号の表記部分に発行年を記載し、背表紙は発行年度から発行年に表記を変更する。次号23巻2号から2013年の表記で変更する。

4. 定例研究会の報告、企画について（関東）（小澤・朝倉）

- ・小澤理事より、第219回の定例研究会は2013年3月3日、筑波大学東京キャンパスにて開催することが報告された。なお、第219回は朝倉理事が担当する。

5. 定例研究会の報告、企画について（関西）（佐藤・池田）

- ・第218回定例研究会において講師に謝金のほか交通費を支給したい要望があり、研究活動予算の範囲内での支出を承認した。

6. 渉外国際活動（および社会学系コンソーシアム）（金子）

- ・金子理事より、世界へのメッセージ、ISA横浜大会の進捗状況について報告が行われた。社会学系コンソーシアム加盟の学協会で編集する『世界へのメッセージ』への本学会の原稿は、山崎先生と姉崎先生が執筆・発表した「Health & Medical Society in Japan: Past, Present and Future」を採用することが決定した。

- ・日本保健医療社会学会として RC15 などにセッション企画を申請するか否かについて確認が行われたが、2014 年横浜大会では学会としてのセッション申請は行わず、会員個人の自由意思に任せることで決定した。
7. 時期役員選挙について(木下)
 - ・木下理事より次期役員選出のための規定やスケジュール、文案について報告が行われた。
 - ・選挙管理委員として 2 名が候補として承認された。
 - ・告知文案については、規約変更に伴う有資格者に関する記載内容の訂正をしたことが報告された。なお、選挙人名簿は、入会時期、年会費納入状況、役員歴等による選挙権・被選挙権の区分が必要なため、○、◎、△等の記号を付けることとした。
 - ・投票の告知及び発送については、2 月 8 日をめどに行う。
 8. 園田賞選定委員会及び日程について(木下)
 - ・選考委員会を設置した。
 9. 入退会者の承認 (木下)
 - ・事務局より前回理事会承認日以降～11 月 30 日までの入退会者報告が行われ、入会者 2 名、物故 2 名、退会者 3 名が承認された。
 10. 会員専用ページ導入提案について (事務局)
 - ・事務局より会員専用ページ導入見積及び見本について報告と説明が行われた。
 - ・現状では学会や会員としてのメリットがはっきりしないため、導入については継続して検討を行うことにした。
 11. その他
 - ・特になし
 12. 次回の理事会日程
 - ・3 月 14 日～17 日の開催で調整を行うことにした。

以上
(総務担当理事：木下康仁)

V. 渉外国際担当理事報告

- 1) 2014 年 7 月、ISA (International Sociological Association、国際社会学会) の第 18 回世界社会学会議 (World Congress of Sociology) が横浜で開催されます。世界の社会学者と交流を深める良い機会ですので、会員の皆様は奮ってご参加ください。本学会ウェブサイトには ISA 横浜大会のページを設けました。
 - ・日程：2014 年 7 月 13～19 日
 - ・場所：横浜 (日本)
 - ・テーマ：Facing an Unequal World: Challenges for Global Sociology横浜大会に関する詳細について、ISA および日本社会学会が情報を発信しておりますので、そちらのウェブサイトをご参照ください。すでに各 RC (研究テーマごとのリサーチコミッティ) でセッション企画の募集が始まっていますが、締切日が RC によって異なりますのでご注意ください。
 - ・ISA (国際社会学会) <http://www.isa-sociology.org/congress2014/>
 - ・日本社会学会 <http://www.wcs2014.net/>
- 2) ISA 横浜大会以外にも、本学会ウェブサイト (関連団体等の情報) に保健医療社会学関連の国際会議情報を掲載します。学会ウェブサイトに掲載してほしい国際会議の情報がありましたら、ご連絡ください。

連絡先：金子雅彦

(渉外国際担当理事：金子雅彦)

VI. 編集委員会報告

- 1) 遅くなりましたが、『保健医療社会学論集』第23巻2号が発行されました。
- 2) 電子ジャーナル化に向けての準備として、学会に著作権が譲渡されていない過去の論文について著作権譲渡の公示を行うために、『保健医療社会学論集』電子アーカイブ化に関する告知」をウェブサイトに掲載いたしました。本ニューズレターの最後に再掲いたしますので、必ずご一読の上、ご了承いただければと存じます。

(編集担当理事：蘭由岐子)

VII. 研究活動報告と案内

1) 報告

<報告：看護・ケア研究部会：2012年度第3回・第4回定例研究会>

2012年度第3回定例研究会が、昨年11月10日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、まず、安藤こずえさん（東京女子医科大学病院）が「認知症高齢者が一人暮らしを継続するための支援のありよう」について報告しました。報告要旨は次の通りです。一人暮らしを継続できている認知症高齢者と担当介護支援専門員を対象として、認知症高齢者が一人暮らしを継続するための支援のありようを探求することを目的とした。都内4ヶ所の介護支援専門員6名と介護支援専門員が担当する一人暮らしの認知症高齢者6名に参加観察とインタビューガイドを用いた半構成的面接法、およびケース記録による記録調査を行い、質的な分析方法に基づいて分析した。その結果、5つのカテゴリーが抽出され、認知症高齢者が一人暮らしを継続するための支援のありようは、【一人暮らしを続けるために努力している本人を後押しする】ために、本人にとって身近な存在である家族に対して【一人暮らしが不可能だと感じたら家族の助けを借りる】ことや、支援への抵抗が生じないように【本人が支援を受け入れるような技を駆使する】こと、また近隣の力を借りることや多職種との地域連携を図り【支援の輪を広げて一人暮らしの限界を乗り越えていく】こと、生命や生活の危険回避が出来なくなった時に【本人と近隣の安全は必ず守る】という働きかけをしていることであった。報告後の質疑応答では、認知症高齢者の一人暮らしを研究テーマに選んだ動機の確認や、分析の手順、カテゴリーの命名について、活発な意見交換と助言をいただき、さらなる分析の視点として重要な示唆が得られた。

次に、清水準一さん（首都大学東京）が「保健医療系調査におけるテキストマイニングの活用」について報告しました。報告要旨は次の通りです。近年、保健医療福祉の研究においてもテキストマイニングの利用が散見されている。テキストデータを数値化することで、様々な多変量解析の手法を活用し、回答の傾向を把握することができることを確認したうえで、①社会調査の自由回答では、内容も広範かつ誤字脱字や表現が多様であることなどから分析する一つの単語が多義的になりうること。②一般的な質的研究に比べ分析過程は明示的であるものの、解析の意味解釈は研究者の主観、専門性に左右されるものであること。③分析の条件等については、明確なコンセンサスがなかったことなどの課題が示された。発表後は使用するソフトウェアやテキストデータの分析単位の決め方、必要となるサンプルサイズなど具体的な使用方法を中心に活発な質疑が交わされた。

第4回定例研究会が、2013年1月12日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、吉田千鶴さん（帝京科学大学）が「派遣看護師として介護施設ではたらく看護師の思い」について報告しました。報告要旨は次の通りです。今日では看護職のはたらき方が多様化し、正規雇用だけではなく、非正規雇用、短時間勤務などの看護師が大規模病院でも存在するようになった。本研究では介護施設で派遣看護師としてはたらく看護師を協力者とし、介護施設で派遣看護師としてはたらく意味を明らかにした。研究協力者は雪だるま方式で募り半構造化面接法を用いてインタビューを実施し、質的帰納的に分析した。また、倫理的配慮はA大学倫理審査受審後承諾を得て実施した。同意の得られた研究協力者10名の語りを逐語録にし、データ分析した結果35個の概念、9個のサブカテゴリー、3個のカテゴリーを生成した。以下にカテゴリーを《 》、サブカテゴリーを〈 〉で示す。10

名の研究協力者たちはさまざまな理由で病院を辞め、次の職場を決める際、〈自分のペースではたらく〉や〈自由に職場選択〉できる職場を選び〈とりあえず派遣看護師としてはたらく〉ことを選択していた。派遣看護師として勤務を始めるとケアを通して〈派遣看護のちょっとしたやりがい〉を感じることができ〈派遣や介護施設ではたらいたからこその気づき〉を得ていた。しかし派遣ではたらいっていると対象者やスタッフと関係性が継続されないこと、さらにはケア継続も困難になり〈派遣で働き続ける不安やむなしさ〉も感じていた。

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

(看護・ケア研究部会長：三井 さよ)

2) 案内

<第219回定例研究会(関東)>

下記のように定例研究会を開催します(前号のニューズレターでもお知らせしています)。

日 時：平成25年3月3日(日) 14:00~16:00

場 所：筑波大学東京キャンパス 4階 432教室 (茗荷谷駅 徒歩5分)

講 師：田中俊之先生/学習院大学等非常勤講師

テーマ：現代日本社会における自殺者数の推移について——男性学の視点から

概要：日本では、1998年に年間の自殺者数が3万人を突破する。その後、2003年の34,427人をピークに、2011年まで連続して3万人という数字が続くことになる。男性の自殺者数は、1997年の16,416人から翌1998年には23,013人と急増し、2011年の20,955人にいたるまで14年連続して2万人代であった。人口10万人当たりの自殺者数である自殺死亡率でみれば、過去最悪の数字となった2003年の40.1は、女性の2.77倍に達している。指摘しておかなければならないのは、バブル期の1986年から1990年においても日本では自殺者は2万人を超えていたという事実である。そして、今日ほどではないにせよ、その数にはやはり男女差があった。すなわち、自殺においてはもともと男女差があり、1998年以降に、その差を広げるような要因があったと理解するのが適切である。このように性別によって大きな偏りのある自殺という現象を、男性学の視点から考察する。

連絡先：小澤 温

(研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温)

<看護・ケア研究部会：2012年度 第5回定例研究会>

日 時：3月9日(土) 13:30~16:30

場 所：東京女子医科大学看護学部 第2校舎 241教室

報告者：千葉京子さん(日本赤十字看護大学)

タイトル：ピック病と診断された若年性認知症者の妻の体験

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

(看護・ケア研究部会長：三井 さよ)

VIII. 新入会員および退会者の承認

※個人情報のため割愛しております。

IX. 学会誌電子アーカイブ化に関する告知

2012年12月15日

会員ならびに著者各位

日本保健医療社会学会

『保健医療社会学論集』電子アーカイブ化に関する告知

日本保健医療社会学会（以下「本学会」という）は、1990年以來、学会誌『保健医療社会学論集』（以下「本誌」という）を刊行して参りました。23年の長きにわたり本誌を刊行できましたことは、ひとえに会員各位のご支援、ご協力のおかげです。深く感謝いたします。

さて、このたび、本会では、国立情報学研究所の電子図書館サービス（NII-ELS）において、電子アーカイブ化することにいたしました。電子アーカイブ化とは、誌面を電子データ化し、過去の本誌に掲載された論文などの文献を電子化して公開し、インターネット上で閲覧可能な状態にすることをいいます。

つきましては、みなさまが執筆されました論文等の記事を電子化し、公開することにつき許諾をいただきたく、お願い申し上げます。本来であれば会員ならびに著者のみなさまおひとりおひとりに「公開の許諾依頼手続き」をおこなうべきところではございますが、この公告をもって、電子アーカイブ化の許諾をお願い申し上げる次第です。

この件に関しましてご了承いただけない場合、あるいは、ご質問等がおありの場合、**2013年6月30日までに**本会事務局に文書または電子メールでお申し出下さい。

本会は、このお知らせが著者の皆様の目に触れることを前提としておりますが、何らかの事情でこの件をお知りになる機会がなかった場合には、期限を過ぎましても、あらためて個別にご相談させていただく所存です。

なお、お申し出のない場合には、ご了承いただけたものとし、電子アーカイブとして公開する時期が参りました段階で、論文等（総説、原著、研究ノート、書評等、編集後記を除くすべての論稿）を掲載させていただきたいと存じます。

連絡先

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

（株）国際文献社 アカデミーセンター

日本保健医療社会学会事務局

TEL : 03(5389)0237, FAX : 03(3368)2827

E-mail : jshms-office@bunken.co.jp

編集後記：理事を二期させていただきました。この間、論集の表紙や組版や、事務局体制、園田賞の創設、メール配信など新しい動きがありました。一方で、芦沢先生、園田先生、原田先生、西先生と名誉会員の先生方が鬼籍に入られました。姉崎先生と山崎先生が世界へのメッセージとして（詳細は本文参照）「Health & Medical Society in Japan: Past, Present and Future」を纏めてくださったのは非常に意義深く、時機を得ていると感じます。（み）

The Japanese Society of Health and Medical Sociology
日本保健医療社会学会ニューズレター

No. 90 2013/4/15

Contents

- | | |
|----------------|-----------------------|
| I. 二年間を振り返って | VI. 研究活動報告と案内 |
| II. 理事・監事選挙結果 | VII. 総会ならびに園田賞授賞式のご案内 |
| III. 理事会報告 | VIII. 新入会員および退会者の承認 |
| IV. 渉外国際担当理事報告 | |
| V. 編集委員会報告 | |

発行: 日本保健医療社会学会

編集: 伊藤美樹子

学会事務局・印刷: (株)国際文献社

東京都新宿区山吹町 358-5, アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

I. 二年間を振り返って

学会長 野口裕二

2011年5月の大阪大学での総会で会長をお引き受けしてから、あっという間に2年が過ぎようとしています。この間にできたことはほんのわずかですが、積み残しの課題も含めて振り返ってみたいと思います。

今期の理事会にとっての第一の課題は何といっても財政の健全化でした。前期理事会のご尽力で会費値上げが実現しましたが、それでも緊縮財政を徹底する必要があり、会議回数の削減や印刷費の見直しなど経費節減に努めました。それでもまだ財政が好転したとは言いがたい状況であり、今後もなお継続的な努力が必要です。

第二の課題は事務局体制の強化でした。これも前期理事会のご努力で事務局の外部委託が実現しましたが、理事会と事務局とでどう役割分担していくかは試行錯誤の連続でした。総務担当理事と事務局の努力により、2年かけてようやく形が整ったのではないかと思います。

第三の課題は学会組織の見直しでした。理事会の世代交代を円滑にするため、多選に関する制限を設けるなどの規約改正をおこないました。また、総会、理事会、評議員会などの組織の位置づけの見直しにも取り組みました。会員数の増加にみあった組織体制へと一歩近づけたのではないかと思います。

このほか、学会ホームページの全面改訂やISA横浜大会に向けての準備にも取り組みました。また、故園田恭一先生のご遺族から多額のご寄附をいただき、園田基金を設け、学会奨励賞に園田賞の名称を冠することにしたことも大きな出来事といえます。

以上のように、いくつかの課題に取り組みましたが、学会活動の中心はいうまでもなく研究活動の推進です。神戸市看護大学での大会、筑波大学・東洋大学共催の大会の運営にご尽力いただいた関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。また、学会誌に貴重な原稿をお寄せくださったすべての方々にも感謝申し上げます。

まだまだ取り組むべき課題は多く、至らなかった点も数多いと思いますが、なんとか二年間を乗り切ることができそうです。会員の皆様のご協力に感謝するとともに、今後のさらなるご支援をお願いいたします。

II. 理事・監事選挙結果

選挙管理委員会委員 本多康生、大宮朋子

選挙管理委員会は、2013-2014 年度日本保健医療社会学会理事・監事選挙を 2013 年 2 月に実施しました。選挙は、2013 年 2 月 8 日に告示、投票用紙を送付し、同月 28 日締切、3 月 3 日に開票されました。開票会場は (株) 国際文献社アカデミーセンター 4 階会議室で、選挙管理委員、および総務担当理事立ち会いのもと開票を行いました。

選挙の結果、有権者数は 434 名、理事選挙の有効数は 65、無効数 1、監事選挙の有効数 53、無効数 13 でした。

理事選挙結果 (敬称略、得票の多い順・同票の場合五十音順)

1. 木下 康仁	23 票
2. 黒田浩一郎	19 票
3. 三井 さよ	18 票
4. 池田 光穂	16 票
4. 小澤 温	16 票
6. 進藤 雄三	15 票
7. 朝倉 京子	14 票
次点 樫田 義雄	13 票

監事選挙結果 (敬称略、得票の多い順・同票の場合五十音順)

1. 蘭 由岐子	5 票
1. 山崎喜比古	5 票
次点 樫田 美雄	4 票
清水 準一	4 票

選挙管理委員会は、上記選挙結果を理事会に報告しました。選挙による選出理事数は規約により 7 名、監事は 2 名であるため、上位 7 位までの理事当選者、および上位 2 位までの監事当選者の方に、理事・監事の就任承諾の可否を確認した後、新理事・監事決定となります。就任辞退者が出た場合は、次点者がその任にあたります。

(学会事務局：(株) 国際文献社)

III. 理事会報告

《2012 年度第 4 回理事会》

日時：2013 年 3 月 17 日 (日) 15:00～18:00

会場：(株) 国際文献社 アカデミーセンター 4 階会議室

出席者：野口会長、木下理事、蘭理事、山崎理事、伊藤理事、小澤理事、朝倉理事、金子理事、佐藤理事、事務局 金村(記)

欠席者：池田理事

<議題>

1) 第 39 回大会の準備・進捗状況について（小澤）

- ・小澤理事より第 39 回大会準備進捗状況について、2 月 20 日まで延長募集を行った結果 40 題の申込があったこと、RTD は 5 題を予定していることが報告された。また、会場内で使用するパソコンについては業者からのレンタルする予定であることが報告された。

2) 第 40 回大会開催日程・準備について（朝倉）

- ・朝倉理事より第 40 回大会の開催日及びテーマ等について提案が行われた。
- ・開催日は、2014 年 5 月 17 日～18 日を第 1 候補とする案が出され、了承された。
- ・テーマは「保健医療福祉のヒューマンリソース」とし、人材の開発と確保を中心に行うことが提案された。理事会から、被災地での保健医療福祉職の人材確保等の演者を含めることについて、強い希望が寄せられた
- ・ホームページについては、第 39 回大会で演題投稿システムを含む基盤を作っているため、引き続き同システムを利用する方向とする。

3) 次期役員選挙結果・新理事・引き継ぎ等について（木下）

- ・木下理事より、3 月 3 日に総務担当理事の立会のもと役員選挙の開票が行われたことが報告され、選挙管理委員による書面での結果報告が行われた。
- ・理事の上位 7 名に就任意思を確認し全員承諾されたことが報告された。3 月 26 日に野口会長、木下総務担当理事、新理事予定者で打合せを行い、会長と指名理事 3 名の選任を行うことが報告された。
- ・監事については、指名理事の選任ののち、選挙結果に基づき承諾の手続きに入るようになった。

4) 次期評議員選定について（木下）

- ・木下理事より、選挙結果をうけ次期評議員候補者について検討の要請があり、新規に 6 名が候補に挙げられた。3 月 26 日の打ち合わせにおいて提案し新理事予定者の意見を聞いて候補として選定することになった。

5) 園田賞（学会奨励賞）候補について（選考委員会）

- ・園田賞（学術奨励賞）の選考結果が報告され、承認された。
- ・今年度の対象論文は 4 本（原著論文 3 本、研究ノート 1 本）であった。
- ・なお、歴代受賞論文については HP で告知することについて野口会長より提案があり、事務局で題名・巻号をまとめ、HP に掲載することにした。

6) ニュースレター 90 号の発行について（伊藤）

- ・伊藤理事より、ニュースレター 90 号は理事・監事の選挙結果ならびに総会の案内を掲載する予定との報告があった。特別号（大会抄録集）に合わせて発行し、同封して発送を行う。原稿の締め切りは 3 月末までとする。

7) 編集委員会報告（蘭）

- ・蘭理事より編集委員会活動状況について報告が行われた。

- ・論集 23 巻 2 号の発行が済み、第 38 回大会報告と原著 2 本、研究ノート 2 本、電子アーカイブ化関連告知を載せて発行されたことが報告された。
- ・特別号に広告については、3 月 15 日締め切りで募集をしていたが、1 社しか応募がなく、1 週間期限を延長したことが報告された。
- ・広告については、理事からも関係各社にまた呼びかけることにした。
- ・投稿論文等の郵便物保管について、編集事務局より業者への保管希望があったことが報告された。4 月 13 日の編集委員会で保管内容物を確認し、保管の必要がある内容であれば次年度予算に計上し保管をすることにした。
- ・そのほか、保管年数の取り決めや PDF でのデータ保管など、今後継続して検討することにした。

8) 定例研究会の報告、企画について(関東)

- ・朝倉理事より 3 月 3 日に行われた定例研究会(関東)について報告が行われた。参加者は少なかったが、よいディスカッションができ充実した内容だったことが報告された。
- ・今年度は看護・ケア研究部会とのコラボレーション企画は実現できなかったが、引き続き検討をしていくことにした。

9) 定例研究会の報告、企画について(関西)

- ・佐藤理事より定例研究会(関西)活動状況について報告が行われた。
- ・昨年は 2012 年 6 月 30 日と 2013 年 2 月 9 日で 2 回行われた。

10) 渉外国際活動(および社会学系コンソーシアム)

- ・金子理事より社会学系コンソーシアム「世界へのメッセージ」の原稿については、姉崎・山崎先生共著論文の転載許可をイタリア学会誌から得て、コンソーシアム事務局に提出したことが報告された。
- ・2014 年 ISA 横浜大会での医療施設見学ツアーについて、多磨全生園を候補としているが、姉崎先生から横浜の医療施設の見学提案もあり、新体制の中で継続して審議していくことにした。

11) 今年度決算の見通し(木下)

- ・事務局より 3 月 15 日時点での予算執行状況について説明が行われた。
- ・支出は予算を下回る予定であるが、収入面で会費収入が伸び悩んでいることが報告された。

12) 来年度予算案(木下)

- ・木下理事より来年度予算見込について基本的には前年度ベースとするが、緊縮財政を続ける必要があることが報告された。
- ・ISA 横浜大会絡みで費用が発生する場合は、園田基金より支出することを検討することになった。
- ・なお、第 39 回大会で構築した大会関連 HP 立ち上げ費用については、学会予算に計上することが提案され了承された。

13) 入退会者の承認（学会事務局：（株）国際文献社）

- ・事務局より、3月15日時点での入退会者（新入会者17名、退会者13名）が報告された。
- ・また、2009年度からの会費未納で15名が3月末で資格停止退会になることが報告された。

14) その他

- ・事務局より現在保管している学会誌の箱数と在庫数について報告が行われ、倉庫保管については、当面現状維持で保管を行うこととした。
- ・また、欠号となっている巻号については、会員の協力を得て学会として全巻号保存する必要性が確認された。

15) 次回の理事会日程について

- ・第39回大会時の5月18日に新旧合同により開催する。

以上

（総務担当理事：木下康仁）

IV. 渉外国際担当理事報告

1) 2014年7月13～19日、ISA（International Sociological Association、国際社会学会）の第18回世界社会学会議（World Congress of Sociology）が横浜で開催されます。これから各RC（研究テーマごとのリサーチコミッティ）などで報告募集が始まります。世界の社会学者と交流を深める良い機会ですので、会員の皆様は奮ってご参加ください。詳細については、ISAおよび日本社会学会が情報を発信しておりますので、そちらのウェブサイトをご参照ください。

- ・ISA（国際社会学会） <http://www.isa-sociology.org/congress2014/>
- ・日本社会学会 <http://www.wcs2014.net/>

2) 社会学系コンソーシアム加盟の学協会で編集する『世界へのメッセージ』（ISA横浜大会参加者に配布する英文冊子）に掲載する本学会の原稿の件です。姉崎正平名誉会員と山崎喜比古会員が共著でイタリアの学術雑誌『Salute e Società』に寄稿した論文「Health & Medical Sociology in Japan: Past, Present and Future」を、『世界へのメッセージ』の原稿として採用することにしました。イタリアの学術雑誌側の了承を得て、コンソーシアムに提出しました。

3) ISA横浜大会以外にも、本学会ウェブサイト（関連団体等の情報）に保健医療社会学関連の国際会議情報を掲載します。学会ウェブサイトに掲載してほしい国際会議の情報がありましたら、ご連絡ください。

連絡先：金子雅彦

（渉外国際担当理事：金子雅彦）

V. 編集委員会報告

- 1) 編集委員会では、現在、『論集』第24巻1号を編集しているところです。投稿論文のほかに書評論文および書評等を掲載する予定です。
- 2) 4月13日（土）に国際文献社アカデミーセンターにて、編集委員会を開催します。

（編集担当理事：蘭由岐子）

VI. 研究活動報告と案内

1) 報告

<報告：218回定例研究会（関西）>

関西地区研究会を2013年2月9日（土）13時30分～17時30分に関西学院大学大阪梅田キャンパス1402号室において開催した。今回のテーマは「患者と保健医療従事者のためのクィア・スタディーズ入門」とした。そこでまずは吉仲崇さん（横浜市立大学大学院博士後期課程）に「クィア・スタディーズ」とは？——「セクシュアリティ」および「クィア」の日本における言説プロセスの変遷」と題して、クィア・スタディーズとはどのようなものかについて、主として歴史的言説的視点から論じていただいた。そこで提出された主な論点は、性をめぐる様々な言葉、概念、表象の使用法とその変化、さらにそれらをめぐるポリティクスと闘争の過程を通して、セクシュアリティやクィアという言葉とその動きを理解する必要があるということであった。概括的にいえば、1960年代、70年代、さらに80年代初頭において、ゲイボーイやホモ、ニューハーフなど性の多様性を示す「存在・表象」が可視化されると同時にそれらを取り巻くポリティクスも可視化されるようになり、また80年代後半から90年代にかけてはアイデンティティ化した「セクシュアリティ」の特徴とその問題が見られるようになった。さらに90年代半ばに登場した「クィア」という言葉は、これまでのような特定のカテゴリーを示す言葉とは異なり（したがって従来のような「～ではない」（例えば「異性愛者ではない」）という否定形として構築されるものではなく）、一種の問い直しの運動として機能するものとされ、そのために抑圧的な言説だけではなく解放を志向する言説や対抗的な言説さえも問い直し、さらには理論と実践の関係をも問い直す運動の契機としてあることなどを、具体的な事例を示しながら論じていただいた。次に藤井ひろみさん（神戸市看護大学）には「看護学とクィア・スタディーズ——レズビアン・バイセクシュアル女性と医療従事者の相互作用研究からの示唆」と題して、現行の医療において患者は異性愛者であることを前提として扱われ、そうでなければ医療を受けられないという患者側の状況がある一方で、看護や医療に関わる者にとってどのようにしてよい実践（good practice）があり得るか、すなわち性的指向にかかわらず平等にケアを提供することは可能なのかどうかについて、藤井さんが行われた調査結果から示唆されるものを論じていただいた。結果からは、そのような実践は可能であり、ただし患者がカミングアウトすることで医療者が変わるだけではそれ自体はケアにはならず、ケアの実践者が行っているもう少し微細な相互行為における配慮などが重要であることなどが示唆された。今回は多くの大学で入試や入試判定などが重なったため、参加

者7名という小規模の研究会ではあったが、時間も延長して活発に議論が展開され、その後の懇親会でも参加者全員で引き続き議論するなど、充実した研究会となった。(文責：佐藤哲彦)

(研究活動担当理事・関西：佐藤哲彦、池田光穂)

<報告：219 回定例研究会（関東）>

平成25年3月3日に筑波大学文京キャンパスにおいて、田中俊之先生(学習院大学)により、「現代日本社会における自殺者数の推移について」(当日副題：現代日本社会における男性の非抑圧性)というテーマで1時間程度の報告がなされ、その後1時間程度の質疑を行った。

はじめに、田中氏の著書「男性学の新展開」(青弓社、2009)に基づき、1980年代以降に日本において男性をめぐる展開された言説が整理された。そこでは、現代の日本社会では「理想的な男性像」が「フルタイム労働に従事しながら妻子を養う男性」であることを明らかにし、「平凡なものの権力性」が男性の正規雇用の原則が崩れた2000年代以降も人々の価値を支配している様相が示された。

次に、近年の日本における自殺者数・行方不明者数の推移とその性別比率について説明があり、1990年代頃より自殺者数・行方不明者数に占める男性割合が増加していることが示された。また、暴力が自己に向かう場合(自殺)と他者に向かう場合(他殺事件など)の例示がなされ、こういった社会現象の背景に親密性への過剰な期待などが考えられるとの考察が行われた。

その後の質疑では、男性の自殺者数が増加している社会的背景、男女の働き方などに関する実態が変化しているにも関わらず「平凡なものの権力性」が維持されている理由、男性の自殺をめぐる社会科学的分析の必要性などについて活発な意見交換がなされ、自殺をめぐる社会科学研究は保健医療社会学の重要な研究テーマであることを確認した。(文責：朝倉京子)

(研究活動担当理事・関東：朝倉京子、小澤 温)

<報告：看護・ケア研究部会：2012年度 第5回定例研究会>

2012年度第5回定例研究会が、3月9日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、まず、千葉京子さん(日本赤十字看護大学)が「ピック病と診断された若年性認知症者と妻」について報告しました。報告要旨は次の通りです。本研究の目的は、ピック病と診断された若年性認知症者の妻がどのような体験をしているかを明らかにすることであり、在宅で1年以上介護をしている妻3名に半構成的面接を行った。分析の結果、経済的困難なども体験していたが、一人の家族成員の病が、家族全体に破壊的な影響を及ぼし、妻が苦悩していることが明らかとなった。また、「愛おしさ」に焦点をあて、夫の人格の変容が夫婦関係の変容をもたらす様子を示した。報告後、相互行為や応答性について学際的な意見交換が行われ、今後の考察について重要な示唆を得た。

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

(看護・ケア研究部会長：三井 さよ)

<看護・ケア研究部会：2013年度 部会総会>

日 時：5月19日（日）12:20～13:00
場 所：東洋大学 朝霞キャンパス・2号館（メイン会場）・303教室
議 題：2012年度会計報告、2013年度活動計画案等

※昼休みの時間帯に開催いたしますので、各自、昼食をご持参ください。

（看護・ケア研究部会長：三井さよ）

Ⅶ. 総会ならびに園田賞授賞式のご案内

下記のとおり、総会を開催いたしますので、ご出席いただきますようお願いいたします。園田賞授賞式は、総会終了後に引き続き行います。

記

日 時：5月19日（日）11:30～12:00
場 所：東洋大学 朝霞キャンパス 講義棟 214教室
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡 48-1

Ⅷ. 新入会員および退会者の承認

※個人情報のため、省略。

編集後記：広報を担当させていただき、早2年。経費削減の折から、レターでは、文字のサイズや行間を小さくし、なるべくたくさんの情報を載せられるように工夫してきました。ホームページは更新が追いつかず、力量不足でタイムリーな情報発信ができませんでした。次号から担当が替わります。これまでありがとうございました。（み）



The Japanese Society of Health and Medical Sociology
日本保健医療社会学会ニュースレター

No. 91 2013/09/01

Contents

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 学会長就任のご挨拶 | 7. 理事会報告 |
| 2. 第39回大会報告 | 8. 渉外国際理事報告 |
| 3. 第40回大会告知 | 9. 編集委員会報告 |
| 4. 総会報告 | 10. 研究活動報告と案内 |
| 5. 学会奨励賞報告 | 11. 新入会員および退会者の承認 |
| 6. 今期理事、監事、評議員の紹介 | 12. 92号からの電子化の案内 |

発行: 日本保健医療社会学会
編集: 会報広報担当(池田光穂)
学会事務局・印刷: (株)国際文献社
東京都新宿区山吹町 358-5, アカデミーセンター
jshms-office@bunken.co.jp

1. 学会長就任のご挨拶

黒田 浩一郎 (学会長)

本ニュースレターの「4. 総会報告」にありますように、今年5月の東洋大学での総会で、会長に推挙・承認され、2013～2014年度の会長を引き受けさせて頂くことになりました黒田浩一郎(龍谷大学社会学部)です。その総会でご報告し、また、学会ホームページの「委員等名簿」のページにもすでに掲載しておりますが、この期の理事とそれぞれの担当をあらためてお知らせします。

総務	三井 さよ	(法政大学社会学部)
学会誌編集	小澤 温	(筑波大学大学院人間総合科学研究科)
学会誌編集	朝倉 京子	(東北大学大学院医学系研究科)
会報広報	池田 光穂	(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)
研究活動(関東)	木下 康仁	(立教大学社会学部)
研究活動(関東)	清水 準一	(首都大学東京大学院人間健康科学研究科)
研究活動(関西)	進藤 雄三	(大阪市立大学大学院文学研究科)
研究活動(関西)	林 千冬	(神戸市看護大学)
渉外・国際	金子 雅彦	(防衛医科大学校医学教育部)

この陣容で理事会運営に取り組んでまいりますので、2年間、よろしく願いいたします。その理事会が取り組むべき課題ですが、前期理事会によって、あるいはそれ以前の理事会から取り組まれた課題に引き続き取り組んで行かなければならないと考えています。これは、大きく次の2つにまとめられると思います。ひとつは、学会理事会・事務局体制の強化で、具体的には、国際文献社への学会事務委託とそのための会費値上げを受けて、具体的な委託内容のさらなる調整と、学会会計の健全化・安定化を図って行かなければならないと考えています。もうひとつは、いわゆる情報通信技術の発展に対応した、理事会から学会員あるいは学会外への情報発信とそれらとのあいだでのコミュニケーションの新しいやり方を取り入れ、これを迅速化・促進することを図って行かなければならないと考えています。具体的には、インターネット(とくに電子メールとウェブ)を通じた情報発信・コミュニケーションの迅速化・促進です。

これらの課題に対する理事会の取り組みにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

以上は、しかし、学会とくに理事会・事務局の活動の「形式」に関わることで、その「内容」としましては、いうまでもなく、これまでの同じように、会員個々の研究と、その成果の学会活動（とくに機関誌と大会）での発表とそれをめぐる議論を通して、保健医療社会学と総称されるような知識（と技術）を集散的に作り上げ、それをもって、この知識・技術の社会へのインパクトを集散的に高めていくことが課題であります。これは、理事会・事務局というよりも、むしろ学会全体の課題であり、これに対しても、会員の皆様のご理解とご協力を切にお願いする次第です。

最後に、重ねて、2年間、よろしくお願いいたします。

2. 第39回大会報告

小澤 温（第39回大会長）

日本保健医療社会学会第39回大会は5月18日、19日の2日間にわたって、東洋大学・朝霞キャンパスにおいて、204名の参加により盛会のうちに終了することができた。今回の大会は、筑波大学と東洋大学との共催ということで、大会長の所属大学と事務局長の所属大学が異なる変則的な開催であったが、事前の意思疎通を入念に行いながら対応することができた。当初は、筑波大学・東京キャンパスの開催を目指したが、土日の教室確保の困難さにより断念し、筑波キャンパスでの開催は都心からの交通アクセスなどの点で断念した経緯があり、会場は大会長の前任校の東洋大学・朝霞キャンパスでの開催となった。

第39大会を開催するにあたって、学内に相談スタッフがないこともあり、メインテーマの設定と講演、シンポジウムの企画はたいへん悩ましい問題だった。そのため学会に積極的に関与している若手（これからの本学会を担うとわたしが判断した研究者）に声をかけながら、準備委員会を立ち上げて検討した。その結果、メインテーマを「『障害』と『支援』をどう考えるのか」とし、教育講演は、佐藤久夫氏（日本社会事業大学）と星加良司氏（東京大学）、メインシンポジウムでは、大島巖会員（日本社会事業大学）、川内義彦氏（東洋大学）、八巻知香子会員（準備委員会メンバー）に依頼した。各講演者とも準備委員会で議論した趣旨を十分理解した上で対応したので、講演、シンポジウムとも充実した内容であった。

今大会は大会ホームページで演題募集と登録を行うことを初めて試みたこともあり、会員が不慣れであったこともあり、問い合わせに追われ、演題登録の低調さで心配な時期もあったが、最終的に、RTD5演題、自由発表39演題となったことはまずまず成功と考えている。

最後に、東洋大学での準備（教室使用、大学からの学会補助金など）で多大な尽力をいただいた的場智子会員（大会事務局長）、企画準備委員として関わった田代志門会員、本多康生会員、松繁卓哉会員、八巻知香子会員、若林チヒロ会員にこの場を借りてお礼申し上げます。

3. 第40回日本保健医療社会学会大会のご挨拶

朝倉 京子（東北大学大学院医学系研究科）

東日本大震災から4年目となる2013年5月17日（土）、18日（日）に、仙台で第40回大会

を開催いたします。東北地方での大会の開催は今回が初めてとなりますが、第40回という節目の大会を、仙台で開催させていただけることを大変嬉しく思っております。なお、第40回大会のメインテーマは「保健医療福祉のヒューマンリソース」といたしました。

人口構造の変化により、日本国内では保健医療福祉のニーズが高まっており、保健医療福祉領域での質の高い人材の確保がますます重要になっています。しかしながら、保健医療福祉職の長期安定的な確保の難しさは常に議論されてきたところです。

日本の保健医療福祉職は数量的に充足されているとはいえない状況があります。医師は、かねてから地域・診療科偏重が指摘され、その格差が拡がりつつあります。看護師は、経済不況の影響もあって、長らく高止まりしていた離職率が下がる傾向にあるものの、毎年11%前後が離職しています。介護職の不足はさらに深刻で、離職率は20%程度であり、仕事がハードにも関わらず給与が低いなどの種々の問題が指摘されています。

保健医療福祉職の人材確保を巡っては、その従事者数の問題だけではなく、質の問題も重要です。看護師は、3～4年という比較的長い養成期間を経て現場に出るものの、多くの看護師がキャリアを十分に積み重ね卓越した実践ができる前の段階で現場から去っています。介護現場では、国家資格保有者と非保有者が混在して同じ業務に当たるといった混沌とした状況があり、提供されるケアの質を一定に保つことが難しい状況にあります。

とりわけ震災後の東北地方では、保健医療福祉職の確保を巡って大きく状況が変化しています。津波の被害を受けた東北沿岸部は、震災前から医療過疎地域で、医師数については全国平均の半分程度でしたが、その状況に震災が追い打ちをかけました。平成25年3月現在、例えば気仙沼市と南三陸町では、医療機関の再開率は約70%です。その後、東北地方では、被災地域に対する医師の安定的供給を目的に、医学部の定員増などの施策が実施されましたが、多くの課題は未解決のままです。原発事故の影響が大きい福島県では、医療従事者の県外流出がなお一層深刻な問題となっています。

以上のような社会状況をふまえ、第40回大会では、質の高い保健医療福祉人材の確保に関する諸問題を、東日本大震災の影響も加味しつつ考えたいと思います。

第40回大会の開催に重ねて、承応4年(1655年)に始まった由緒ある仙台・青葉祭りも開催される予定となっています。杜の都仙台の新緑が最も美しい季節でもあり、新緑の大通りを巡行する山鉦の雄壮さや、すずめ踊りの賑やかさをお楽しみいただけたらと思います。事務局一同、仙台への皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

第40回日本保健医療社会学会大会のご案内

日 時	2014年5月17日(土)、18日(日)
場 所	東北大学医学部、東北大学病院
メインテーマ	保健医療福祉のヒューマンリソース
大 会 長	朝倉京子(東北大学大学院医学系研究科)
大会事務局長	佐藤みほ(東北大学大学院医学系研究科)
大会事務局	東北大学大学院医学系研究科看護教育・管理学分野内 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
大会ホームページ	準備中(9月ころ開設予定。随時、新情報を掲載します。)

4. 総会報告

木下 康仁（前・総務理事）

議長に山本武志会員が選出され議事が進行され、すべての議案が承認された。以下、要点を報告する。

第1号議案：2012年度事業報告

1. 学会長より

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について報告する。

- (1) 第39回日本保健医療社会学会大会（筑波大学・東洋大学共催で2013年5月）、第40回（東北大学、2014年5月）、第41回（法政大学、2015年度）の開催
- (2) 学会事務局の業務委託体制の整備
- (3) 組織に関わる部分について学会規約の見直しを行い、改正案を第4号議案で審議する
財政健全化のため経費の節減に努めた。

2. 研究活動担当理事より（関東、関西、看護・ケア研究部会）

定例研究会を関東2回、関西2回、看護・ケア部会5回開催した。

3. 学会誌編集担当理事より

- (1) 『保健医療社会学論集』第23巻特別号、同1号、同2号を刊行した。
- (2) 電子ジャーナル化・電子アーカイブ化の準備を進めた。
- (3) 編集委員会体制の整備を進めた。

4. 渉外国際担当理事より

(1) 社会学系コンソーシアム

『世界へのメッセージ』（ISA横浜大会参加者に配布する英文冊子）に掲載する本学会の原稿を提出した。

- (2) 国際交流委員会の委員やアドバイザーを中心に国際的交流を行った。

5. 会報・広報担当理事より

- (1) 日本保健医療社会学会ニューズレターを3回（No. 87～89）発行した。
- (2) ホームページのリニューアルと定期的更新を行った。
- (3) 会員情報登録に登録された電子メールを用いて第39回大会関連ニュースや定例研究会の告知を行なった。

6. 総務担当理事より

- (1) 事務局との運営体制の安定化と緊縮予算による財政状況の改善に努めた。
- (2) 役員選挙を実施し新役員候補の選任を行った。
- (3) 2013年4月1日現在の会員動向を報告した。
- (4) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置を2012年度も継続した。

第2号議案：2012年度決算報告・監査報告

日本保健医療社会学会2012年度決算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

一般会計 (単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
収入の部				支出の部			
会費収入	5,364,000	4,832,000	532,000	印刷製本費支出	1,500,000	1,265,924	234,076
学会誌刊行物売上	100,000	131,420	-31,420	郵送費支出	280,000	213,550	66,450
広告収入(特別号)	80,000	80,000	0	交通費支出	525,000	446,440	78,560
受取利息	200	721	-521	学会業務委託費支出	1,694,602	1,752,165	-57,563
その他	5,000	150,000	-145,000	【発送関連業務費支出】	107,625	111,134	-3,509
				【事務関連業務費支出】	1,024,852	1,083,528	-58,676
				【編集関連業務費支出】	443,625	417,245	26,380
				【HP関連メンテナンス支出】	73,500	73,500	0
				【その他(資料保管代)】	45,000	66,758	-21,758
				選挙関係費	200,000	194,416	5,584
				消耗品費支出	100,000	75,000	25,000
				会議費支出	40,000	0	40,000
				大会・研究会・部会補助費支出	320,000	269,385	50,615
				社会学系コンソーシアム年会費支出	20,000	20,000	0
				その他支出	5,000	13,083	-8,083
				予備費支出	1,429,708	0	1,429,708
当期収入合計	5,549,200	5,194,141	355,059	当期支出合計	6,114,310	4,249,963	1,864,347
前期繰越額	565,110	565,110	0	次期繰越額	0	1,509,288	-1,509,288
収入合計	6,114,310	5,759,251	355,059	支出合計	6,114,310	5,759,251	355,059

園田基金 (単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
収入の部				支出の部			
				奨励賞賞金	50,000	50,000	0
				交通費	50,000	81,220	-31,220
				消耗品費	10,000	0	10,000
				業務委託費	20,000	21,000	-1,000
				雑費	1,000	0	1,000
				予備費	3,175,107	0	3,175,107
当期収入合計	0	0	0	当期支出合計	3,306,107	152,220	3,153,887
前期繰越額	3,306,107	3,306,107	0	次期繰越額	0	3,153,887	-3,153,887
収入合計	3,306,107	3,306,107	0	支出合計	3,306,107	3,306,107	0

日本保健医療社会学会2012年度会計についての監査の結果、適正なものと考えます。

2013年4月28日 会計監査 米林喜男

2013年4月28日 会計監査 清水準一



貸借対照表

平成25年3月31日現在

貸借対照表

平成25年3月31日現在

日本保健医療社会学会

一般会計

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
普通預金	2,455,482	未払費用	1,194,759
郵便貯金	2,455,482	前受金費	179,000
郵便振替	130,116	預り金	6,719
未収金	304,186		
流動資産合計	2,889,764	流動負債合計	1,380,478
		2.固定負債	
		固定負債合計	0
		負債合計	1,380,478
2.固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産合計	1,509,288
資産合計	2,889,764	負債及び正味財産合計	2,889,764

日本保健医療社会学会

園田基金

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
郵便振替	3,235,107	未払費用	81220
流動資産合計	3,235,107	流動負債合計	81220
		2.固定負債	
		固定負債合計	0
		負債合計	81220
2.固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産合計	3,153,887
資産合計	3,235,107	負債及び正味財産合計	3,235,107

第3号議案：2013年度事業計画

1. 学会長より

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について提案する。

- (1) 第40回大会を東北大学（大会長・朝倉京子理事）において開催する。
- (2) 2013年度の予算は緊縮財政が続くが、可能な削減策と増収策について検討する。
- (3) 2014年7月に開催される世界社会学会議横浜大会に向けて、国際社会学会（ISA）RC15と連携をはかりながら、本学会の国際化を推進する。
- (4) 事務局体制の充実に務める。

2. 研究活動担当理事より

- (1) 定例会・研究部会は2012年度と同じ方向での事業の継承・発展をはかる。関東定例研究会と看護・ケア部会との共同開催の可能性について検討する。
- (2) 園田賞（学会奨励賞）選考を従来通りの方式にて行う。
- (3) 学会大会企画について、大会事務局と連携・協力して実施する。

3. 学会誌編集担当理事より

- (1) 『保健医療社会学論集』第24巻特別号を刊行し、第24巻1号と同2号を刊行する。
- (2) 電子ジャーナル化・電子アーカイブ化の実行。
- (3) 公正かつ透明な査読プロセスを安定的に運用するための編集委員会体制の確立。

4. 渉外国際担当理事より

- (1) ISA横浜大会（国際社会学会第18回世界社会学会議、2014年7月13～19日、パシフィコ横浜）に会員が参加するよう呼びかける。
・大会参加者向けに、医療施設見学ツアーなどの企画を検討する。
- (2) 社会学系コンソーシアム
社会学系コンソーシアムが行う諸事業に協力する。
- (3) 他の国際会議
ISA横浜大会以外の国際会議などに参加して、世界の保健医療社会学者との交流を深める。

5. 会報・広報担当理事より

- (1) ニュースレターについて
年4回程度発行する。また電子メールを用いた発信も適宜行なう。
- (2) ホームページの更新を理事会開催ごとに年4～5回程度行う。

6. 総務担当理事より

- (1) 学会財政構造の安定化を進める。
- (2) 会員情報を整備する。
- (3) 新会員の確保
- (4) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置を2013年度も継続する。

(5) 大会開催校の負担軽減のための具体策を検討する。

第4号議案：学会規約の改正

評議員会、理事会、委員会の位置づけを明確にするための規約改正を行い、以下の下線部が承認された。

第13条

1. 本会に評議員をおく。
2. 評議員の任期は1期2ヶ年とし、理事会の議を経て会長が委嘱する。

第4章 組織

第14条

1. 本会の重要事項を審議する最高機関として総会をおく。
2. 総会は年1回、会長が招集する。

第15条

1. 本会の運営に関わる事項を審議する機関として理事会をおく。
2. 理事会は会長が招集する。

第16条

総会及び理事会の議は出席者の過半数の賛同によって決する。

第17条

1. 理事会を補佐する機関として評議員会をおく。
2. 評議員会は会長が招集する。

第18条

1. 本会の活動を推進する機関として委員会をおく。
2. 委員長は理事会の議を経て会長が任命する。
3. この他、委員会について必要な事項は別に定める。

第19条

1. 本会に特定のテーマに関する研究を推進する研究部会をおくことができる。
2. 研究部会は理事会の承認を経て設置する。
3. この他、研究部会について必要な事項は別に定める。

これに伴い、第5章会計、18条が20条となり、以降順に条番号が変更となる。

また、附則1と8が以下となる。

付則1 本会の事務局は、株式会社国際文献社（代表取締役 笠井健、東京都新宿区山吹町358番地5 アカデミーセンター）に置く。

付則8 本規約は2013年6月1日より改正施行する。

第5号議案：2013年度予算計画

日本保健医療社会学会 2013年度予算書（案）

自 2013年4月1日 至 2014年3月31日

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	1,509,288	印刷製本費	1,450,000
会費収入	5,026,000	郵送費	280,000
学会誌刊行物売上	100,000	交通費	600,000
広告収入（特別号）	37,500	学会業務委託費	1,967,893
受取利息	400	発送関連業務	125,175
その他（許諾抄録使用料）	5,000	事務局業務	1,070,023
		編集関連業務	464,625
		HP 関連メンテナンス	241,500
		その他（資料保管代）	66,570
		消耗品費	100,000
		会議費	20,000
		大会・研究会・部会活動補助費	380,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他（振り込み手数料等）	5,000
		予備費	1,855,295
合 計	6,678,188	合 計	6,678,188

日本保健医療社会学会 2013年度予算書案(園田基金)

自 2013年4月1日 至 2014年3月31日

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	3,153,887	奨励賞賞金	50,000
		交通費	70,000
		消耗品費	10,000
		業務委託費	21,000
		雑費	1,000
		予備費	3,001,887
合 計	3,153,887	合 計	3,153,887

第6号議案：次期会長の推挙

規約第11条第4項「会長は理事会の議を経て、総会において推挙する。」に基づき、黒田浩一郎氏（龍谷大学）が推挙され、満場一致で承認された。

次期理事・次期監事・次期評議員（41名）の紹介（氏名は別掲）

園田賞（第7回学会奨励賞）の表彰

選考委員会より選考結果の報告があり、野口会長から受賞者の京極重智会員に賞状と賞金が授与された。

次期大会長挨拶

朝倉京子次期大会長から東北大学にて開催の挨拶

以上

5. 学会奨励賞報告

2012年度園田賞選考委員会

園田賞（第7回日本保健医療社会学会奨励賞）の審査報告

平成24（2012）年度の園田賞の選考対象になった論考は4本（原著論文3本、研究ノート1本）である。審査は、新規性、独創性、着想、今後の展開に関する4項目の客観的評価と、個々の審査委員による総論的評価1項目という観点から、それぞれの採点の集計を行い、総合点の高い論考を絞った上で更に検討を重ねた。その結果4名の選考委員の審議の結果、京極重智（しげとも）氏による「認知症高齢者の世界」に「寄り添う」ことへの一考察『保健医療社会学論集』第23巻2号を選考した。

京極氏の論考（研究ノート）は、近年パーソンセンタードケアに代表される認知症高齢者に「寄り添う」ということが介助者たちに重要視されているにも関わらず、その「構造」が理論的に十分に解明されていないという現状認識から出発する。そこから、アービング・ゴッフマンの「舞台論（dramaturgy）」に依拠しつつ、認知症高齢者と介助者がそれぞれもつ世界＝舞台について考察を深める。ここでいう舞台とはゴッフマンの相互作用論が指摘した「状況の定義」がなされる場のことである。京極氏はさらにアルフレッド・シュッツの多元的現実論を援用し、認知症高齢者における固有の舞台＝世界認識の可能性を提示する。さらに認知症高齢者と介助者の「繋がり」が可視化される契機として、両者の舞台において相互主観的に共有される場に存在する「物質的誘因または物質的基盤」（シュッツの用語）に着目する。そこで介護福祉領域で働く若い人材に人気があると言われる劇画『ヘルプマン！』（作者：くさか里樹（りき））に見られる、ある情景（シーン）を取り上げ、認知症高齢者と介助者の世界認識の齟齬と対立について先の理論的枠組みを用いて丁寧に解説を加える。現象学的社会学の理論的成果をもとに、認知症高齢者に対して介助者が「寄り添う」ことに関する批判的観点の指摘と、その分析の手際の良さに関して審査委員から高い評価を得た。他方で、しばしば安易に使われる傾向がある「寄り添う」ということを問い直す契機と京極氏が位置づけているに於ては、現場でその知見を実践しながら再考するための、より具体的な方途の提示がまだまだ十分ではないという意見もあった。このことは、京極氏が実施中の現場からの報告と共に今後の研究課題として期待したいと考える。

6. 今期理事、幹事、評議員の紹介

【理事】

学会長	黒田 浩一郎（龍谷大学社会学部）
総務	三井 さよ（法政大学社会学部）
学会誌編集	小澤 温（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
学会誌編集	朝倉 京子（東北大学大学院医学系研究科）
会報広報	池田 光穂（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）
研究活動（関東）	木下 康仁（立教大学社会学部）
研究活動（関東）	清水 準一（首都大学東京健康福祉学部）
研究活動（関西）	進藤 雄三（大阪市立大学大学院文学研究科）
研究活動（関西）	林 千冬（神戸市看護大学）
渉外・国際	金子 雅彦（防衛医科大学校医学教育部）

【監事】

蘭	由岐子（追手門学院大学社会学部）
山崎	喜比古（日本福祉大学社会福祉学部）

【評議員】

朝倉 隆司（東京学芸大学教育学部）、天田 城介（立命館大学大学院先端総合学術研究科）
 石川 ひろの（東京大学大学院医学系研究科）、伊藤 美樹子（大阪大学大学院医学系研究科）、井上 洋士（放送大学）、櫻田 美雄（神戸市看護大学）、片平 洸彦（健和会臨床・社会薬学研究所）、河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）、栗岡 幹英（奈良女子大学文学部）、佐藤 哲彦（関西学院大学社会学部）、佐藤（佐久間）りか（ディベックス・ジャパン：健康と病いの語りデータベース）、杉田 聡（大分大学医学部看護学科）、杉山 克己（青森県立保健大学社会福祉学科）、成 元哲（中京大学）、高山 智子（国立がん研究センター）、武川 正吾（東京大学大学院人文社会系研究科）、田中 マキ子（山口県立大学看護栄養学部看護学科）、種田 博之（産業医科大学）、中川 薫（首都大学東京人文科学研究科）、中川 輝彦（熊本大学大学院社会文化科学研究科）、中田 知生（北星学園大学社会福祉学部）、中村 美鈴（自治医科大学看護学部）、中山 和弘（聖路加看護大学看護学部看護学科）、二木 立（日本福祉大学社会福祉学部）、西田 真寿美（岡山大学医学部）、西村 ユミ（首都大学東京健康福祉学部）、野口 裕二（東京学芸大学教育学部）、平野 裕子（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）、藤澤 由和（静岡県立大学経営情報学部）、星 且二（首都大学東京大学院都市科学研究科）、細田 満和子（星槎大学共生科学部）、本郷 正武（和歌山県立医科大学医学部）、前田 泰樹（東海大学総合教育センター）、松田 亮三（立命館大学産業社会学部）、的場 智子（東洋大学ライフデザイン学部）、宮本 真巳（亀田医療大学看護学部）、武藤 香織（東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター）、矢原 隆行（広島国際大学医療福祉学部）、山田 富秋（松山大学人文学部）、山本 武志（札幌医科大学医療人育成センター教育開発研究部門）、吉田 澄恵（東京女子医科大学看護学部）

7. 理事会報告

三井 さよ（総務理事）

日時：2013年8月1日（木） 15：00～18：00

会場：(株) 国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：黒田会長、朝倉理事、池田理事、小澤理事、金子理事、木下理事、清水理事、
進藤理事、三井理事、事務局 金村・平野（記）

欠席者：林理事

<議題>

(1) 第39回大会会計報告

- ・第39回大会小澤大会長より、第39回大会の会計報告がなされた。東洋大学から上限額の300,000円の補助金が支給されたこともあり、150,000円の学会からの補助金が返納されることが報告された。なお有料参加者数は169名で、招待も含め204名が参加されたことが報告された。
- ・大会用の公印を作成したことが報告され、次回大会に引き続き使用することにした。
- ・ポスター・パンフレット等の印刷費用については、次年度以降も原則学会本部が負担するとし、黒字が出た場合は学会に返納することを確認した。

(2) 第40回大会について

- ・第40回大会朝倉大会長より第40回大会のメインテーマ及び講演者、予算案等について報告がなされた。メインテーマは「保健医療福祉のヒューマンリソース」とし、大会長講演、教育講演2題とシンポジウムを行う予定であることが報告された。震災関連の教育講演についてはメインテーマとの関係性も考慮し、講演内容を検討することにした。
- ・参加費については第39回大会同様の金額にすることが承認された。

(3) 学会ホームページ管理運用の仕方

- ・ホームページの更新依頼の仕方について黒田会長より提案がなされた。今まで、広報委員長からの依頼の元、事務局からウェブページ担当者に更新依頼を行っていたが、今後は広報担当委員長からウェブページ担当者に直接依頼することとした。

(4) ニュースレターの発行・配信について

- ・ニュースレターの電子化について池田理事より92号からの電子化が提案された。電子化については8月発行予定の論集1号とニュースレター91号で告知することにし、92号から電子化することが承認された。
- ・ニュースレターの過去のデータが事務局に保存されていないため、次年度以降、アーカイブ事業としてデータ化と収集について検討することにした。

(5) ニュースレター91号（本号）の発行

- ・池田理事より、ニュースレター91号の掲載予定記事について担当の確認があり、入稿締め切りは8月15日とし、9月発行予定であることが報告された。

(6) 編集委員会報告

- ・小澤理事より論集24巻1号の進捗状況について8月に刊行発送予定であることが報告された。

発行部数については在庫管理に関わる経費の負担を考慮し 24 巻 1 号より 700 部印刷することが確認された。

(7) 定例研究会の報告、企画（関東）

- ・清水理事より、定例研究会（関東）の今後の計画について、年 2 回開催予定であることが報告された。平成 25 年 8 月 3 日、首都大学東京荒川キャンパスで開催される定例研究会は来年、横浜で開催される世界会議への関心を高めてもらうためのテーマで行うことが報告された。

(8) 定例研究会の報告、企画（関西）

- ・進藤理事より、9 月に大阪市立大学梅田キャンパスにて開催予定ではあるが、内容については検討中であることが報告された。

(9) 定例研究会のメール配信について

- ・黒田会長より、定例研究会の案内をタイムリーにするため、開催のお知らせをメールで案内する案が提案された。広報担当理事が投稿とメール配信を行うことが承認された。

(10) 渉外国際活動報告

- ・金子理事より今季の国際交流委員会構成及び社会学系コンソーシアム「世界へのメッセージ」編集状況について報告があり、修正原稿を 7 月 21 日に提出したことが報告された。
- ・日本学術会議研究団体の登録について、代表者変更に伴う変更届を事務局から提出することが報告された。
- ・木下理事より、社会学系コンソーシアム「世界へのメッセージ」の編集過程について日本語提出分及び英語提出分は今年度内で完成する予定であることが補足説明された。

(11) 社会学系コンソーシアム評議員の選出と連絡について

- ・社会学系コンソーシアム評議員は総務担当理事が担当しているが、役員変更に伴い、今期からは総務担当理事の三井理事に変更することが確認された。なお、渉外・国際担当の金子理事は引き続き、評議員として登録を行うことで確認された。

(12) 入退会者の承認

- ・三井理事及び事務担当者より、7 月 29 日時点の入退会者報告が行われた。新入会者 6 名（通常会員 4 名、共同発表会員 1 名、定期購読会員 1 社）、退会者 3 名（通常会員 3 名）であることが報告され、承認された。

(13) 入退会及び再入会手続・報告・承認手続等について

- ・三井理事より入退会に関する届様式、入会承認の手順及び再入会制度の見直しについて報告と提案が行われた。
- ・届様式については、現在、入会申込書・変更届・退会届が一体化になっているものをそれぞれの用途に合うものとして、分離した案を提案し、承認された。
- ・入会承認手順については、入金確認後に理事会で承認をとる従来の方式を変更し、承認は月 1 回、事務局から提出する申請者リストに基づき、メール審議で承認を行うことにした。
- ・再入会制度については通常退会者と会費未納による資格喪失者との扱いの違いが不明瞭であるため、今後継続審議することにした。
- ・12 月以降の入会者については従来通り、当年度入会か翌年度入会かを確認のうえ、登録することにした。ただし、5 月大会発表や論文投稿のために年度をまたがって入会処理を行う場合は翌年度入会でも構わないが、年会費は年度内の完納で案内することが確認された。

(14) 次回の理事会日程について

- ・次回理事会は 2013 年 12 月初旬に開催する。

8. 渉外国際理事報告

金子 雅彦 (渉外国際理事)

- (1) 今期の国際交流委員会の委員構成は次のとおりです。委員長：金子雅彦 (防衛医科大学校医学教育部)、委員：浦野慶子 (帝京大学文学部)、平野裕子 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)、細田満和子 (星槎大学共生科学部)、松繁卓哉 (国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部)、アドバイザー：姉崎正平 (元日本大学医学部)、黒田浩一郎 (龍谷大学社会学部)、米林喜男 (亀田医療大学看護学部)
- (2) ISA 横浜大会 (第 18 回世界社会学会議) が、2014 年 7 月 13～19 日にパシフィコ横浜で開催されます。世界の社会学者と交流を深める良い機会ですので、会員の皆様は奮ってご参加ください。現在各リサーチコミッティ (Research Committee: RC) で発表申込を受付中です。受付締切は基本的に 9 月 30 日ですが、RC により異なる可能性がありますので、詳細については ISA の HP の横浜大会ページ (<http://www.isa-sociology.org/congress2014/>) などでご確認ください。また、上記 URL を含む諸情報を本学会 HP の ISA 横浜大会ページに掲載しています。
- (3) 社会学系コンソーシアム事業「世界へのメッセージ」(ISA 横浜大会参加者に配布する英文冊子) に掲載する本学会の原稿は、「世界へのメッセージ」編集委員会と連絡をとりながら、編集を進めています。
- (4) ISA の RC15 (Sociology of Health) 関係者から、ISA 横浜大会時に医療関連施設見学ツアーの要望がありました。RC15 会長らと協議しながら、国際交流委員会でツアー企画を検討しています。

9. 編集委員会報告

小澤 温 (学会誌編集理事)

- (1) 5 月 18 日に、新旧合同の編集委員会を開催し、引き継ぎ事項を確認し、24 巻 2 号から新編集委員会による編集作業を行うこととした。
- (2) 24 巻 1 号 (2013 年 7 月発行) から、印刷部数を 700 部に減らし、紙媒体に加えて PDF 化したファイルを保管することとした。
- (3) 24 巻 2 号は、第 39 回大会特集とし、講演 3 本、シンポジウム発表 3 本の原稿を依頼した。
- (4) 学会誌の電子ジャーナル化と公開に関して、国立情報科学研究所電子図書館 (NII-ELS) を中心に検討することとした。

10. 研究活動報告と案内

<報告と案内：関東>

第 220 回定例研究会 報告

日 時：平成 25 年 8 月 3 日 (土) 14:00～16:00

場 所：首都大学東京荒川キャンパス 1 階 182 教室 (熊野前駅 徒歩 3 分)

話題提供者：松繁 卓哉先生/国立保健医療科学院 主任研究官

指定発言者：浦野 慶子先生/帝京大学 専任講師

司会：清水 準一/首都大学東京大学院 准教授

テーマ：日本の保健医療福祉への海外からの関心と日本からの情報発信に向けて

平成 25 年 8 月 3 日に首都大学東京荒川キャンパスにおいて、松繁卓哉先生（国立保健医療科学院）から「日本の保健医療福祉への海外からの関心と日本からの情報発信に向けて」と題して 50 分程度の話提供がなされ、それを受ける形で指定発言者の浦野慶子先生（帝京大学）から、30 分程度のコメントが寄せられた。

松繁先生はご自身の海外での調査研究の経験を踏まえ、自国との文化的・社会的差異に鋭敏であることが重要と述べたうえで、海外からの日本の保健医療福祉への関心は高いが表層的な理解である場合もあり、Pharmaceuticalisation の議論を例に、統計資料では伝わらない日本の様々な文脈を踏まえた形で保健医療社会学が世界に発信していくことが必要であることを示された。また浦野先生は、松繁先生の話提供へのコメントに加え、昨年度のアメリカ社会学会での保健医療社会学関連のセッションにおける特色ある演題についても例示された。

発表後は 20 名程度の参加者による自由討議を行い、世界の研究動向等について活発な意見交換が見られた。特に 2014 年には ISA 世界社会学会議横浜大会が開催されることから、参加者からは過去の例を参考に演題申込みや発表方法等についても情報交換がなされた。

清水 準一（研究活動理事：関東）

※以下の囲み記事内容は今後開催予定のものです。会員の皆様には奮って御参加ください。

<報告と案内：関西>

平成 25 年度の関西定例研究会の第 1 回目を、下記要領にて行いますので、ふるってご参加ください。なお、第 2 回目は来年の 3 月を予定しております。

第 221 回定例研究会（関西）

日時：平成 25 年 10 月 5 日（土）15:30～17:30

場所：大阪市立大学梅田キャンパス（駅前第 2 ビル 6 階 文化交流センター）

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/academics/institution/bunko/index.html>

報告者：山田富秋先生（松山大学）

テーマ：ライフストーリー研究における理解の達成—薬害 HIV 感染被害の社会学的調査から

概要：

老いと障害、HIV 感染被害などを対象に、ライフストーリー、エスノメソドロジーなどを通してフィールドワークを実践して来られた山田先生に、今回はライフストーリーの観点からのご報告をお願いしました。HIV 問題というそれ自体社会学的課題設定にとって重要な意義を持つ対象に対して、なぜライフストーリーなのか、それは何を達成することを目指しているのか、といった問題を含めて、社会学的認識、方法に関する根源的な問題提起をいただけるのではないかと期待しています。多数の方々参加をお待ちしています。

進藤雄三・林千冬（研究活動理事：関西）

<報告と案内：看護・ケア研究部会>

看護・ケア研究部会 2013年度 第2回定例研究会

日時：9月28日（土）13:30～16:30

場所：東京女子医科大学看護学部 第2校舎 241教室

報告者：海老田大五朗さん（新潟青陵大学）

タイトル：相互行為から柔道整復を記述する——学位申請論文「柔道整復師と患者の相互行為」の概要について——

※当日お越しくくださる方で、事前に論文をお読みいただける方は、報告者のメールアドレスにご連絡ください。報告者が直接対応いたします。

看護・ケア研究部会 2013年度 公開企画 [福祉社会学会と共催]

日時：11月30日（土）13:30～16:30

場所：日本赤十字看護大学 広尾キャンパス 203教室

講師：長沼建一郎さん（法政大学）

討論者：宇城令さん（聖隷クリストファー大学）

岡部耕典さん（早稲田大学）

司会：三井さよ（法政大学）

タイトル：『介護事故』をどう考えるか？——法政策の現状と、現場の状況から——

概要：

介護・看護・介助における事故には、医療事故対策とは異なる発想と取り組みが必要です。なぜなら、起きる事故には、提供者側のことだけではなく、しばしば利用者の行動もかかわっているからです。安全だけを重視すれば、利用者の行動を制限することになり、その人なりの主体性を抑え込み、生活の幅を狭めてしまうことにもなりかねません。かといって、事故が起きる可能性は少しでも低くしたい。だとすれば、何をどう考えればいいのかのでしょうか。

今回は、介護事故の判例を精査してきた法学者の長沼さんをお招きし、法の世界で介護事故がどのように捉えられてきたのかを伺います。その上で看護現場や知的障がい者介助の現場に詳しい討論者から、それぞれの現場でのリアリティに照らし合わせての素朴な疑問や考えを伺い、フロアの皆さんと課題を共有していきたいと思えます。

実際の現場が抱える課題は、なかなかきれいに切り分けられるものではありません。それだけに、法の世界の考え方を参照しつつ、現場でどう考えていけばいいのか、一緒に考えていきましょう。

参加費：無料

看護・ケア研究部会問合せ先：事務局 本多康生

三井さよ（看護・ケア研究部会長・総務理事）

11. 新入会員および退会者の承認

※個人情報のため、省略。

12. 92号からの電子化の案内

2013年5月18日開催の第1回理事会（新旧合同理事会）において、「今後の電子化にむけてロードマップ案」をもって、本年度からのニューズレターの電子化に関して会報広報理事より提案させていただきました。理事会ならびに評議会においても、このことに特段の反対はありませんでした。むしろ「アーカイブ化が容易、すでに電子メールで案内を配信した過去の経験があり会員に違和感はない、コスト削減になる」等の意見が出て、承認と賛成の御意見が多かったように思われます。そのため、8月1日開催の第2回理事会において、92号（2013年12月発行予定）からの電子化への実施を提案させていただき、審議の上、了承されました。会員の皆様には、下記の点について御確認いただくようお願い申し上げます。

- (1) 次回92号からのニューズレターは、メールマガジン形式でおこない、メールの本文に記事を収載した内容のものになります。
- (2) 日本保健医療社会学会会員向けの配信内容です。ニューズレターの記事内容は（個人情報保護に関わるものを除いて）後にウェブページにも公開されます。
- (3) ニューズレターが届かない、文字化けする等の問題が生じた場合は、日本保健医療社会学会事務局（jshms-office@bunken.co.jp）まで御連絡ください。
- (4) 会報の電子化に伴いまして、会報のメールマガジン、会員メーリングリストによる情報交流、およびウェブページによる会報広報活動のより一層の強化につとめてまいります。

池田光穂（会報広報理事）

